

在外事業に必要な経費

京都支部

1. 京都支部

海外事務所

1. ローマ日本文化会館
2. ケルン日本文化会館
3. パリ日本文化会館
4. ソウル日本文化センター
5. 北京日本文化センター
6. ジャカルタ日本文化センター
7. バンコク日本文化センター
8. クアラルンプール日本文化センター
9. シドニー日本文化センター
10. トロント日本文化センター
11. サンパウロ日本文化センター
12. マニラ事務所
13. ニューデリー事務所
14. ニューヨーク事務所
15. ロサンゼルス事務所
16. メキシコ事務所
17. ロンドン事務所
18. ブダペスト事務所
19. カイロ事務所

京都支部

合計額 12,366,078円

(1) 主催・共催事業

	事業名	期間	事業内容
	【展示】		
1	大阪・サンフランシスコ姉妹都市提携50周年記念事業	07.01.01～ 07.03.31	大阪市とサンフランシスコ市が2007年に姉妹都市提携50周年を迎えるのを記念して各種事業が実施されるが、その”キック・オフ（オープニング）”事業のうち第1部「記念トーク」を共催で実施
	【公演】		
2	国際交流の夕べー能と狂言の会	06.10.12～ 06.10.12	関西在住の総領事館員をはじめ、外国人研究者・文化人、留学生や日本人で関心のある方及び関西センターの研修生等を対象に、日本の伝統文化への理解を深め、交流することを目的に実施。一般向け有料チケット販売有り。※京都文化祭典2006 KYOTO ART FESTIVAL 協賛事業
	【講演・シンポジウム】		
3	第1回フェローセミナー	06.05.26	2005年度フェローで、国際日本文化研究センターで研究中のマウリシオ・マルティネス氏（コロンビア／ロスアンデス大学及びエクステルナド大学）が、「日本の舞台芸術とは何か？ラテン・アメリカの研究者による『スペイン語版インターネット日本芸能百科事典』の制作過程」をテーマにセミナーを実施
4	第2回フェローセミナー	06.06.20	2005年度フェローで、財団法人国際高等研究所で研究中の藤村靖氏（米国・日本／オハイオ州立大学名誉教授）による「シラブルによる日本語の音形論と音声学」についてセミナーを実施
5	第3回フェローセミナー	06.06.30	2005年度フェローで、神戸学院大学人間文化研究科で研究中のシンシア・ネリ・ザヤス氏（フィリピン／フィリピン大学国際地域研究センター センター長）が、「淡路島における災害と記憶の文化ー地名、荒神信仰、地域史をとおした地域復興」をテーマにセミナーを実施
6	第4回フェローセミナー	06.07.07	2005年度フェローで大阪国際大学で研究中のオユンゴア氏（中国／中国社会科学院歴史研究所中外交流史研究室研究員）が、「朝鮮司訳院の日本語教学について」をテーマにセミナーを実施
7	第5回フェローセミナー	06.07.21	2005年度フェローで、龍谷大学経済学部で研究中のラクスリー・フェルナンド氏（スリランカ／コロombo大学教養学部教授）が、「紛争解決への日本の役割：スリランカの事例」をテーマにセミナーを実施

	事業名	期間	事業内容
8	第6回フェローセミナー	06.09.19	2005年度フェローの李 明剛氏（中国／オハイオ州立大学（米国）東アジア語学文学学科博士課程）が、「値段と品質－初期の『文藝春秋』における生産者と読者のやり取り」をテーマにセミナーを実施。※京都文化祭典2006 KYOTO ART FESTIVAL 協賛事業
9	第7回フェローセミナー	06.10.13	2005年度フェローのアハマド・モスタファ氏（エジプト／カイロ大学日本語日本文学科助教授・日本文学が専門）が、「戦後日本文学における『戦後』は果たして終わったのか－敗戦の後遺症」をテーマにセミナーを実施。※京都文化祭典2006 KYOTO ART FESTIVAL 協賛事業
10	第8回フェローセミナー	06.11.28	2005年度フェローの岡野かおり氏（オーストラリア／ラトロップ大学社会科学科準教授・教育社会学が専門）が、「グローバル化と教育：マルチカルチュアリズムに焦点をあてて」をテーマにセミナーを実施
11	第9回フェローセミナー	06.12.14	2006年度フェローのジョン・ネルソン氏（米国／サンフランシスコ大学宗教学部准教授）が、「靖国神社を理解する：英霊と日本神道の関わり－その過去、現在、未来－フィルム上映と講演」をテーマにセミナーを実施
12	第10回フェローセミナー	07.01.10	2006年度フェロー ガルシア・ドス・サントス 優美氏（ブラジル・日本／サンパウロ大学博士課程）が「日本とブラジルのシングルマザー－自立と支援のはざままで－」と題したセミナーを実施
13	第11回フェローセミナー	07.02.27	2006年度フェロー 陳 嘉適氏（中国／中山大学（中国広州）博士課程）による「醤油から見る中国と日本の食文化」をテーマとしたセミナーを実施
14	第12回フェローセミナー	07.02.27	2005年度フェロー、パドミニ・バララム氏（インド／D.J. アカデミー・オブ・デザイン（インバートル／インド）教授）による「インドから日本に至る織物のルート、日本のデザインと技術に及ぼすその影響」をテーマとしたセミナー
15	第13回フェローセミナー	07.03.15	2006年度フェロー コスベランサ・カロ氏（コロンビア／コロンビア国立大学助教授）が「コロンビア・ガビオタス自休自足実験集落のサステイナブル建築システム」と題したセミナーを実施
	【映画】		
16	日本映画上映事業	06.11.10～ 07.03.09	英語字幕付き日本劇映画を、11/10『羅生門』、12/8『岸和田少年愚連隊』、1/12『夫婦善哉』、2/9『近松物語』、3/9『月はどっちに出ている』、の計5回上映。また上映作品に関連したレクチャーを、11/10富田美香氏（立命館大学文学部助教授）、3/9景山理氏（シネ・ヌーヴォ、シネ・ピピア支配人）の2回開催

京都支部

	事業名	期間	事業内容
	【図書館運営】		
17	国際交流情報コーナー（図書室を含む）	06.04.01～ 07.03.31	外国語による日本研究書ならびに基金刊行物を中心に収集、提供。所蔵資料数は、図書資料約6,700、購読雑誌48、日本文化紹介等16ミリ映画フィルム115、日本文化紹介ビデオ110。利用者は関西地区在住の外国人日本研究者、芸術家など
	【その他】		
18	日仏食文化ワークショップ	06.11.05	2006年10月29日から11月4日まで、京都の老舗料亭及び大阪の辻調グループ校において、仏人シェフを招いて日本料理の研修を実施。研修期間最終日の11月5日に、習得した成果を踏まえ、日仏の料理人、ジャーナリスト、研究者が互いの料理技術や食文化を発表し、一般参加者とともにディスカッションを行うワークショップを開催。日仏の食文化を多角的に比較することにより、日本の食文化を再確認し、食を通じた文化交流を深める。京都支部は最終日のワークショップを共催にて開催
19	関西地域公的国際文化交流機関調査	06.08.21～ 07.03.31	小さい政府、地方分権が叫ばれる中、地方では使用可能な予算の減少や格差が生じている。そうした環境下、関西地域の公的国際文化交流機関において、予算、活動（重点のシフト、効果的運営など）面での大きな流れについて、関西地域二府五県（京都、大阪、奈良、滋賀、兵庫、和歌山、三重）における、府・県・市および第三セクターの公的交流機関について実情を調査し、現状の主要な傾向及び将来の展望を鳥瞰、報告書を作成

(2) 助成・協力事業

	事業名	協力対象団体	期間	事業内容
	【後援事業】			
20	アウトサイダーアートPart①加川真美展 まなざしの奥で…	京都藝術交流協会	06.05.19～ 06.05.28	アウトサイダーアートシリーズ企画の第一弾。《アウトサイダーアート（アールブリュット）とは美術教育における常識や一般論といった既成の制約を受けていない人々の生の芸術をさす。》創造することの喜びと彼女の作品に対するまなざしから、我々の抱く「芸術とは何であったか？」を再認識するきっかけに繋がる事を意図した内容
21	遠藤剛熙展－東西の 超克－PART2	京都藝術交流協会	06.06.01～ 06.06.18	「謙虚・簡素な生活が、精神・身体いずれにおいても最上」と説く遠藤剛熙氏。ルーブル美術館で開催された「サロン2002・ナショナル・デ・ボザール」展の日本人唯一の招待作家である反面、画壇や団体に属さず、殆ど作品を発表せず50年以上の長きにわたって独自の画境を拓いてきた氏の画業は、国内では全くと言えるほど知られてはいない。氏の理想の高きを目の当たりにし、生命の尊厳と自然への賛美を感じる展覧会となることを意図している

	事業名	協力対象団体	期間	事業内容
22	2006年度エッセーコンテスト《私の見た日本》	財団法人京都国際文化協会	06.09.24	海外から日本を訪れた人々を対象に、エッセーコンテストを1978年から毎年開催。応募作品を日本語の部、英語の部に分けて選考し、総計6編の優秀なエッセーの作者を京都で行う発表会に招待。応募者にはコンテスト参加をきっかけに、母国やその文化と対比して日本文化についての独自の視点をエッセーにまとめる良い機会になり、また、優秀作品をニューズレター等で公開する事により、現在の日本がどう見られているのかを多くの日本人、外国人に知ってもらう事を目的に開催
23	Bae Sangsun Exhibition - Joinable -	京都藝術交流協会	06.07.07～ 06.07.30	ドイツで行われた『Pleinair』の制作を終え、ニューヨークに制作の拠点を移したベ・サンスンの、第二の故郷とも言える日本での二年ぶりの活動報告展。一枚絵の作品を複数並べ、影響を持たせあう作風は屏風のようにあり、東洋的空間の流れを表現する。様々な国を見てきたサンスンの「黒と白」の世界がどのように繋がりあうのかを見る内容の展覧会
24	第6回 ヤンガーアーティスト展 - 在関西芸術系大学学生連合展 -	京都藝術交流協会	06.08.08～ 06.08.20	関西にある芸術系および芸術コースに在籍する、芸術創作活動を自己の生きる志にしようとする学生たちへの呼びかけに賛同し、自主的に企画実行する17名の学生作家グループ（ヤンガーアーティスト）の連合展。参加大学は、京都造形大学・京都精華大学・京都嵯峨芸術大学・大阪成蹊大学の4大学
25	見る・聞く・触れる「小さな人のための大きな文化」	カスチャールの会	06.07.02	カスチャールの会は、ロシア児童文学・文化研究活動を機関紙「カスチャール」の発行等により紹介してきた。15周年事業として、地域に根ざした活動を、という目的から、①ロシア絵本絵画展、②ロシア楽器（マトリョーミン）の紹介とミニ演奏、③ロシアぬりえのワークショップ、④人形劇「ハリネズミと雪の花」（S・コズロフ原作）公演を企画、実施
26	京都市国際交流会館2006年度「外国人のための日本語弁論大会」	京都市	06.11.23	世界文化自由都市宣言を行った京都市が、その理想実現のための具体的施策として、1987年以来毎年行っている事業で、今年が20回目。「日本での経験を生かすために」をテーマに相互理解と国際親善の更なる促進を目的に開催。入場無料
27	財団法人京都府国際センター10周年記念イベント「国際フェスティバル」～世界から京都へこんにちは～	(財)京都府国際センター	06.10.14	財団法人京都府国際センター10周年記念イベントとして、留学生や国際交流団体によるステージコンサート・ダンス・歌などを実施。また、留学生等と府民との交流コーナー（留学生等による自国の遊びや風土の紹介）も設置
28	財団法人京都府国際センター10周年記念講演会「国際文化フォーラム」	(財)京都府国際センター	06.10.21	財団法人京都府国際センター10周年記念として①作家・外交ジャーナリストの手嶋龍一氏による「世界の中の日本 アジアのなかの日本」をテーマに講演会、②マトリョーシカ型テルミンコンサート、③手嶋龍一氏と須藤真志氏（京都産業大学教授）の対談を実施

京都支部

	事業名	協力対象団体	期間	事業内容
29	国際交流企画 Meet in Kyoto	(財) 大学コンソー シアム京都	06.10.27	京都で研究活動をしている留学生、研究者の相互交流および京都の大学関係者、国際交流団体との交流をはかることにより、相互のネットワークづくりを行う。京都からのメッセージを種智院大学学長の頼富本宏氏が行い、その後文化紹介（茶道、書道、雅楽、空手等）実施
30	山崎良 & Alessandro Mavilio 二人展	京都藝術交流協会	06.10.17～ 06.10.31	京都で活躍する現代造形作家・山崎良と、京都在住イタリア人映像作家・Alessandro Mavilio両氏による立体作品と映像作品を使ったコラボレーション展。「陰と陽」の東洋的テーマに日・伊両国の現代作家がそれぞれの視点から作品を通して迫る試み展を意図
31	第5回京都国際木版 画協会展 (KIWA展)	京都国際木版画協会	07.03.27～ 07.04.01	世界各地で制作されている現代木版画を日本の人々に紹介し、木版画芸術の特異性・芸術性をアピールすることを目的に、プロ・アマチュアを問わず、木版画を制作している作家に、芸術の中心地京都にて作品を展示する機会を提供、その芸術活動を支援。木版画芸術の見直しと発展にかかわる情報を京都より発信
32	きょうと北部21世紀 セミナー（国際情報 講演会）	(財) 京都府国際セ ンター	07.03.04	昨今の国際情報をわかりやすく解説することを目的として「最新の朝鮮半島情勢を語る」をテーマに元大韓民国大使 寺田輝介氏の講演会等を実施

ローマ日本文化会館

合計額 135,614,362円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	日伊建築ワーク ショップ展		ローマ日本文化 会館	06.03.30～ 06.04.10	現代の建築において、グローバル化とそれぞれの土地の歴史や文化とのせめぎあいにもどのように接点を見出すかをテーマにした展覧会。前年度開始事業。
2	楮の恵み展	ファブリアーノ 市「紙とフィリ グラーナの博物 館」	ファブリアーノ 紙とすかしの博 物館 ブスト市博物館 ローマ日本文化 会館	06.04.20～ 06.06.17	和紙を作るために使われている桑科の植物、楮(こうぞ)から作られた楮紙で作成された作品を展示。出品作家は、イサム・ノグチ氏(1904-1988)、秋山信茂氏、松山修平氏、アンナ・オネスティ氏、キュレーターはステファニア・セベリ氏。4月20日のオープニング・アーティストトークを実施。
3	棟方志功展	大原美術館、 ANA、本部造 形美術課	ローマ日本文化 会館	06.11.03～ 07.01.27	棟方志功(1903-1975)がヴェネチアビエンナーレ版画部門で国際大賞を受賞した1956年から半世紀を記念して企画された展覧会。作品は、棟方志功と深いつながりがある大原美術館の所蔵作品46点と会館の所蔵作品2点からなる。展覧会のオープニングを記念して、大原美術館館長であり美術史家・美術評論家の高階秀爾氏が、戦後芸術を代表する棟方志功とその作品に関する講演会を行った。
4	日伊はじめての 出会い展		ローマ日本文化 会館	07.02.16～ 07.04.20	イエズス会宣教師A・ヴァリニャーノや天正・慶長の遣欧使節団等を通じた日伊の交流を紹介する展覧会。イタリア各地の美術館が所蔵する絵画や漆器・漆家具、古文書を展示した
5	日本食の美展		ローマ日本文化 会館		前年度事業日本食の美展に関する記録整理などを行なった
	【公演】				
6	ジャズコンサー ト公演		ローマ日本文化 会館	06.05.26～ 06.05.26	日本を代表するジャズミュージシャン渡辺香津美氏のギターコンサート
7	くものすカル テット公演	トリノ映画博物 館	トリノ映画博物 館 ローマ日本文化 会館	06.06.15～ 06.06.19	坪川拓史監督作品「美式天然」(2005年トリノ国際映画祭グランプリ)、短編映画「十二月の三輪車」演奏・弁士付上映と同監督が所属する「くものすカルテット」によるコンサート
8	小馬崎達也ギ ター公演		ローマ日本文化 会館	06.10.12～ 06.10.12	ギタリスト小馬崎達也氏によるコンサート あわせて十世によるダンス「風舞」、アレクサンドロ・メンガリによる朗読を行った

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
9	素浄瑠璃公演	シンバレイン協会、ヴェネチア大学、キャリアリ大学	アルフィエリ劇場 ヴェネツィア大学 ボローニャ大学 ローマ日本文化会館	06.10.16～ 06.10.22	「義大夫節を世界に広める会」による素浄瑠璃公演。演目は「一谷嫩軍記」 文楽についてのレクチャーもあわせて行った
10	沈黙の際で公演	FONTANA MIX	ローマ日本文化会館	06.11.13～ 06.11.13	日本を代表する現代作曲家細川俊夫氏によるダンスパフォーマンスを開催。振付はルーカ・ヴェジェッティ、ダンスはファビオ・グロッシ（ローマ歌劇場バレエ団）、演奏は佐藤直美（笙）他。
11	AWAY a LONE公演		ローマ日本文化会館	06.11.23～ 06.11.23	山本 純子（ピアノ）、千々岩 英一（ヴァイオリン）らによる細川 俊夫とセザール・フランクの作品を中心としたコンサート・レクチャーを開催
12	若手音楽家コンサート公演		ローマ日本文化会館	06.12.14～ 06.12.14	イタリアにおいて研鑽を積んでいる日本人若手音楽家を紹介するクラシックコンサートシリーズの1回目。出演は、藤谷 奈緒美（ピアノ）、今井 愛乃（ソプラノ）、吉田 千絵（ビオラ）
13	注文の多い料理店公演	The Playground	ローマ日本文化会館	07.02.01～ 07.02.02	宮澤賢治原作「注文の多い料理店」を演劇化した、「The Restaurant of Many Orders」を上演。演出は、サム・トリュブリッジ。
14	若手音楽家コンサート公演（2）		ローマ日本文化会館	07.03.22～ 07.03.22	イタリアにおいて研鑽を積んでいる日本人若手音楽家を紹介するコンサートシリーズの第2回目 出演は、園田隆一郎（ローマ歌劇場副指揮者・ピアノ）、山口佳子（ソプラノ）、小野和歌子（メゾソプラノ）
	【講演・シンポジウム】				
15	多木浩二講演会		ローマ日本文化会館	06.05.04～ 06.05.04	多木 浩二（千葉大学名誉教授・評論家）による講演会を開催 イタリアで翻訳された著書「天皇の肖像」をもとに、日本の近代国家建設の一側面を分析 コメントータとして、S. キオディ（評論家）が参加
16	神田山陽講談		ローマ日本文化会館	06.05.11～ 06.05.12	神田 山陽（講談師・文化庁文化交流使）による講談の公演とローマ大学講談研究会の発表会を開催
17	香道デモンストレーション		ローマ日本文化会館	06.05.18～ 06.05.18	茶道や華道とならぶ三道の一つである香道について、三條西 公彦（宗家）による講演とデモンストレーションを行なった

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
18	茶道シンポジウム	チェントロ裏千家（裏千家淡交会ローマ協会）	ローマ日本文化会館	06.05.24～ 06.05.24	ヨーロッパにおける茶の湯の受容に関するシンポジウムを開催 出席はP・ド・ベテュヌ（淡交会ベルギー協会）U・ハース禅士（裏千家フライブルク連絡所）、モデレーターは野尻 命子（チェントロ裏千家）
19	日本の武道講演会		ローマ日本文化会館	06.06.14～ 06.06.14	笹森建美（小野派一刀流第17代宗家）が、古武道の理念と技術について、古典文学との関係や、キリスト教信仰と武士道精神の比較など、様々な角度から、講演を行なった あわせて近藤茂と関口 治によるデモンストレーションも行った
20	高野喜久雄の夕べ講演会		ローマ日本文化会館	06.06.20～ 06.06.20	詩人・高野喜久雄の作品と生涯についてレナート・ミノーレ（文芸批評家）と松本康子（翻訳家・声楽家）の解説、ピアノ演奏にあわせた作品の朗読などを行なった。
21	日本現代詩講演会		ローマ日本文化会館	06.06.27～ 07.06.27	松本康子（翻訳家・声楽家）による、イタリアにおける日本の現代詩の紹介の歴史やその受容に関する講演を行なった
22	ミラノ国立大学現代アジアセミナー	ミラノ国立大学現代アジア研究センター	ミラノ国立大学	06.10.24～ 07.04.03	日本を中心とした現代アジアに関する公開連続セミナーをミラノ国立大学で開催
23	ヴァリニャーノシンポジウム	カリキエティ財団	マッルチーノ劇場	06.10.26～ 06.10.27	天正少年使節の派遣を行ったヴァリニャーノ神父の没後400年を記念した国際シンポジウムに日本より4名の研究者を招聘
24	日本茶レクチャーデモンストレーション		ローマ日本文化会館	07.02.08～ 07.02.08	渡辺 孝史（一保堂茶舗）を迎えて日本人が日常的にたしなむ日本茶に関するレクチャーとデモンストレーションを実施
	【映画】				
25	映画の中の子供たち映画特集		ローマ日本文化会館	06.09.14～ 06.12.05	1930年代から今日までの日本の子供達を描く日本映画7本を上映した。上映作品は『四万十川』（恩地日出夫監督）、『微笑みを抱きしめて』（瀬藤祝監督）、『どこまでもいこう』（塩田明彦監督）等。
26	新作伊語字幕映画特集		ローマ日本文化会館	07.02.06～ 07.02.28	ローマフィルムライブラリーで新たに所蔵することとなった『スウィング・ガールズ』（矢口史靖監督）、『父と暮らせば』（黒木 和雄監督）、『風音』（東 陽一監督）を上映
27	清水宏監督特集			07.02.07～ 06.04.18	2005年度事業継続。清水宏監督の没後40周年に際し回顧映画上映会を実施した。4月に『歌女おぼえ書』『有りがたうさん』『港の日本娘』を上映。サイレント映画『港の日本娘』の上映では、ロッカ・デ・ローサ氏がピアノ伴奏を行った。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【日本語教育】				
28	ロンバルディア州高等学校日本語教育セミナー	ロンバルディア州学校教育局 ロンバルディア州教育庁	ロンバルディア州教育庁	06.06.14～ 07.02.07	ロンバルディア州で実施されている高校での日本語教育を支援するため、教師向けセミナーを実施した。
29	欧州日本語教師研修	パリ日本文化会館、欧州アルザス日本学研究所	アルザス日本学研究所	06.07.10～ 06.07.14	フランスのアルザス日本学研究所において行われる欧州の日本語教師に対する研修会に、4名の日本語教師を派遣した
30	ギリシャ巡回指導	ギリシャ・アテネ日本語教師会	在ギリシャ大使館	07.02.10～ 07.02.11	ギリシャ・アテネ日本語教師会主催の教師セミナーに講師として、日本語教育派遣専門家を派遣した。
	【図書館運営】				
31	図書館運営		ローマ日本文化会館	06.04.01～ 07.03.31	図書館における閲覧、貸出、各種照会対応サービスを行った。
	【出版・広報】				
32	ホームページ運営管理		ローマ日本文化会館	06.04.01～ 07.03.31	会館案内ホームページをリニューアルするとともに、その運営管理を行った
33	月例事業案内		ローマ日本文化会館	06.04.01～ 07.03.31	会館事業を紹介するプログラム（事業案内）を年4回各回3000部発行した。
34	年報		ローマ日本文化会館	06.11.15～ 06.11.30	2004年度の会館事業を総括する年報の送付作業を行った。
	【教室事業】				
35	日本語普及講座運営		ローマ日本文化会館	06.04.01～ 07.03.31	2006年6月まで前年度開講の4年制コースと1年制会話コースを開講し、10月からは4年制コース、会話コースを改編した入門48時間コース、入門24時間コースを開講した。また、中上級者向け4クラスを開講した
	【その他】				
36	ローマの白夜		ローマ日本文化会館	06.09.09～ 06.09.09	ローマ市主催イベント「ローマの白夜」にあわせ、日本庭園の公開、「歌舞伎絵展」、無声映画『雄呂血』の弁士付上映（弁士・神田 山陽氏及びアンドレア・ブルニェラ氏）を実施。
	【本部事業受入】				
37	マリオ・ヴェルドーネ選日本名作映画特集	シエナ外国人大学	ローマ日本文化会館	06.05.02～ 06.06.13	マリオ・ヴェルドーネ氏（ローマ大学名誉教授、映画評論家）が推薦する日本映画7作品を上映。上映会初日には、ヴェルドーネ氏を迎え、上映作品の解説等についての講演会を実施した

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
38	歌舞伎絵・座敷舞公演	国立劇場	ローマ日本文化会館	06.09.09～ 06.10.18	吉村 文氏による座敷舞公演を行うとともに、国立劇場所蔵の歌舞伎絵作品約40点の展覧会を開催 北斎漫画などの文献資料、舞台使用の楽器類、衣装、かつら、小道具なども展示
39	コンドルズダンス公演		ローマ市立オーデトリウム	07.01.23～ 07.01.23	コンテンポラリーダンスカンパニー「コンドルズ」によるダンス公演を実施
40	石井聰互監督特集		ローマ日本文化会館	07.03.20～ 07.04.26	石井 聰互監督作品の特集上映会を実施し、計14本を上映 会期中には、同監督を招き、マリア・ロベルタ・ノヴィエリ（ベネチア大学助教授）によるトークを行なった

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
41	現地文化事業協力	シンバレイン協会他	06.04.01～ 07.03.31	各種日本文化紹介行事4件に対し助成を行った
	【会場提供】			
42	イタリア日本語教育協会研修会	イタリア日本語教育協会	07.03.23～ 07.03.24	イタリア日本語教育協会が研修会を開催するにあたり、会場提供などの協力を行った
43	俳句賞授賞式	イタリア俳句友の会 イタリア俳句友の会 /裏千家ローマ出張所	06.06.07～ 07.06.07	イタリア俳句友の会及び裏千家ローマ出張所による第20回俳句賞授賞式に協力を行った
	【文化備品・視聴覚資料貸出】			
44	文化備品・視聴覚資料貸出		06.04.01～ 07.03.31	イタリア国内で行われる日本文化紹介事業12件に対して、展覧会セット、映画など文化備品の貸し出しを行った。
	【その他】			
45	イタリア日本研究学会総会講演会	イタリア日本研究学会	06.09.21～ 06.09.23	イタリア日本研究学会第30回総会にあわせ、基調講演者として、藤谷 道夫（帝京大学助教授）を招聘した

ケルン日本文化会館

合計額 149,101,049円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	大和の仏像写真展	ローマ日本文化会館	ケルン日本文化会館	06.03.10～ 06.05.19	7世紀から13世紀までの大和を代表する、国宝・重文級の仏像の写真パネル展。撮影は奈良県出身の写真家で古代史家の小川光三によるもの。ローマ日本文化会館所蔵の巡回展。ケルン日本文化会館にて展示の後、ミュンヘン、ブルクレーデン＝ロート、デュッセルドルフにて開催。
2	対話展 佐藤恵子・Marco Bohr		ケルン日本文化会館	06.06.02～ 06.07.28	オランダ在住の芸術家・佐藤恵子の大規模なインスタレーションと、日本やカナダでも活躍中の若手写真家・Marco Bohrによる、「風景」を共通テーマにしたアート・コラボレーション。
3	日独コミックアート展「クーゲルブリッツ」	ゲーテ・インスティテュート	ケルン日本文化会館	06.09.08～ 06.10.27	「日本におけるドイツ年」の一環として東京で展示された後、ベルリン（2カ所）、エアランゲン、シュトゥットガルトおよび当館で紹介された日独コミックアート展。日独のマンガ、コミック、イラストレーションの分野で活躍するアーティスト集団MOGA MOBO（ベルリン）とノウノウハウ（東京）の、計9名の芸術家によるコラボレーション・プロジェクト。期間中は学校訪問やケルン独日協会会員向けの特別ガイダンスを数回行った。
4	対話展 塚本哲也・Gotz Diergarten		ケルン日本文化会館	06.11.03～ 07.01.19	日独作家の芸術交流プロジェクト「対話展」として、共に若手の写真家・塚本徹也とGotz Diergartenの二人が出展。
5	ケルン美術館の長い夜	Koelner StadtRevue	ケルン日本文化会館	06.11.04～ 06.11.05	「ケルン市美術館の長い夜」は、ケルン市および情報誌 Koelner StadtRevue の主催で開催され、約40の施設が参加するイベント。ケルン日本文化会館は6回目の参加。「塚本哲也／Gotz Diergarten対話展」をメインに、当日の企画として、ベルリンのアーティスト・グループ GUP-py（畑洋子主宰）によるビデオアートの上映、およびビデオ作品にちなんだハチミツ製品等の実費販売を行った。また、図書館を19時から24時まで臨時開館した。
6	新世代アーティスト展		ケルン日本文化会館	07.03.09～ 07.05.18	1990年代中盤以降、大きな注目を集めている11人の日本人若手作家の現代美術展。視覚的インパクトに富み、物づくりへの強いこだわりの感じられる作品を中心に、絵画、彫刻、写真、ビデオなどにより構成されている。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【公演】				
7	薩摩琵琶+フルート公演		ケルン日本文化会館	06.04.07～ 06.04.07	ヨーロッパを中心に活躍している薩摩琵琶奏者上田潤子とオランダ人フルート奏者のヴィル・オファーマンスによる語り物を含めた日本伝統音楽と現代音楽の公演を行った。
8	楽2B/能・和歌・ギターによる創作公演		フランクフルト国際劇場、トリアー独日協会、ケルン日本文化会館、テテロウ/ミツコ城独日文化センター	06.05.09～ 06.05.14	日本文化特有の「間」に着目し、能（観世流）、和歌、ギター等のコラボレーションにより日欧の文化の対話を試みた。ギターの演奏とともに能が舞われ、所々に和歌の詠謡を織り込んだ実験的なパフォーマンス。
9	橋本一子トリオジャズ公演	Jazz am Rhein協会	ケルン日本文化会館	06.05.19～ 06.05.19	コンテンポラリー・ジャズの分野で活躍している橋本一子（ヴォーカル、ピアノ）、井野信義（ベース）、藤本敦夫（ドラム）のトリオに、邦楽からジャズ、ポップスまで幅広く手がける箏奏者の八木美知依が加わった独創的なジャズ公演を実施した。
10	大原神主神楽保存会公演	ドレスデン国際音楽祭、マルクトオーバードルフ国際宗教音楽祭	ドレスデン国際音楽祭、ケルン日本文化会館、マルクトオーバードルフ国際宗教音楽祭	06.05.27～ 06.06.09	島根県に伝わる神楽の中でも最も古いとされている出雲國大原神主神楽の公演を実施した。ケルン日本文化会館での公演を挟みドレスデン音楽祭、マルクトオーバードルフ国際宗教音楽祭に参加。日本の伝統芸能としての神楽を国際的な音楽祭に参加することにより、ドイツを始め多くの欧州市民に紹介した。
11	GOCOO和太鼓公演	ケルン市、SK文化財団	ケルン/「Sommer Koeln」音楽祭	06.06.28～ 06.06.28	1ヵ月にわたるケルン市の音楽祭「Sommer Koeln」に参加。日本から参加の太鼓グループの公演をケルン市などと共催した。
12	クリヤマコトジャズ公演	Jazz am Rhein協会	ケルン日本文化会館	06.07.06～ 06.07.06	ケルン音楽高等学院主催による「Cologne Jazz Night」フェスティバルの一環。国際的に様々な音楽シーンで活躍しているジャズピアニストクリヤ・マコトとドイツの著名な若手ジャズマン（ディートマ・フーア（ベース）、イェンス・デュッペ（ドラム）、ニコラス・シミオン（サクソ））を共演させるというコラボレーション形式によるジャズ公演をJazz am Rhein協会と共催した。
13	津軽三味線コンサート	レーゲンスブルク独日協会	ケルン日本文化会館	06.09.10～ 06.09.10	国際文化施設オープンデーの一環。当館ではドイツを巡回中の津軽三味線+日本歌謡の公演を行った。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
14	素浄瑠璃公演		スイス／ベルン音楽大学、ベルリン／RBB放送局、ミュンヘン／ゲーテ・インスティテュート、ケルン日本文化会館、デュッセルドルフ／恵光ハウス	06.10.03～ 06.10.13	「義太夫節を世界に広める会」の欧州公演の一環。時代物「一谷嫩軍記」をドイツ語字幕付で上演。
15	日中韓古楽器アンサンブル公演	WDR西ドイツ放送協会	ケルン日本文化会館	06.10.06～ 06.10.06	東アジアに伝わる楽器によるアンサンブル。伝統的な楽器を使用して現代の作品を演奏した。
16	篠原眞誕生記念コンサート	WDR西ドイツ放送協会ほか	ケルン日本文化会館	06.12.12～ 06.12.12	現代日本音楽の第一人者である篠原眞の生誕75周年記念を兼ねたコンサート。日欧の演奏家が初期から現代に至る篠原の作品を競演した。また、演奏に先立って、篠原本人によるワークショップが行われた。
17	SUMIMASEN パフォーマンスコンサート	ケルン現代音楽協会	ケルン日本文化会館	07.01.26～ 07.01.26	国際交流基金の元芸術家フェロー、シム・クスとゲルハルト・シュテプラーのコラボレーションによるパフォーマンス。在独の日本人ピアノ演奏家、原アヤ、コズエの姉妹が参加。
18	志田笙子コンサート	ケルン現代音楽協会	ケルン日本文化会館	07.02.23～ 07.02.23	ケルン在住の作曲家志田笙子らの作品を上演。独唱、ピアノ、打楽器などによる現代クラシック音楽。「羅生門」は志田の新作であり、世界初演である。コンサートに先立って志田本人によるワークショップが行われた。
19	アンサンブルミラノ コンサート	ケルン現代音楽協会、イタリア文化会館	ケルン日本文化会館	07.03.14～ 07.03.14	2002年にイタリアの若手演奏家により結成されたアンサンブルMdi (Musica d'Insieme Ensemble Milano) のコンサート。現役で活躍中の作曲家の作品を紹介した。
	【講演・シンポジウム】				
20	徐京植・多和田葉子講演会		ケルン日本文化会館	06.07.14～ 06.07.14	「異文化」の中で活躍する2人の作家、多和田葉子氏と徐京植氏を招いて、「母語と母国語」、「アイデンティティー」、「マイノリティー問題」等についての講演・対談会をおこなった。なお、徐京植教授の単独講演会および研究会をライプチヒ大学（講演会 7月11日）、ロストック独日協会（講演会 7月20日）ならびにデュッセルドルフ大学（研究会 7月17日）で実施。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
21	第13回ドイツ語圏日本研究者会議	ドイツ語圏日本研究学会		06.09.12～ 06.09.15	本会議はドイツ語圏日本研究者学会の主催により、人文・社会科学系分野の日本研究者による研究成果発表、相互交流、若手育成の場として3年に一度開催される。同学会の会員は日本語での学術コミュニケーション能力を有する若手からシニアまでの日本学研究者約110人であるが、会議には、非会員のドイツ人研究者やドイツ滞在中の日本人研究者らを含む、のべ300人以上が参加した。
22	鈴木・プレヒビュール朗読会		ケルン日本文化会館	06.10.27～ 06.10.27	現代詩詩人でありドイツ現代詩の翻訳者でもある鈴木俊氏とスイス人詩人・劇作家であるベアト・プレヒビュール氏を招いての詩の朗読会をおこなった。クロプフェンシュタイン教授(チューリヒ大学:日本文学)が司会を担当し、二人の詩人の作品や多岐にわたる活動についても紹介した。
23	日本茶レクチャー・デモンストレーション	ケルン独日協会	ケルン日本文化会館	07.02.06～ 07.02.06	京都の老舗である一保堂茶舗の渡辺孝史社長ならびに渡辺都常務取締役を招き、日本茶に関するレクチャー・デモンストレーションを行った。日本茶の歴史、製造法、飲み方(楽しみ方)、淹れ方を紹介した。講演後にはお茶の試飲を行い、実際のお茶の色、味、香りも味わえる機会を提供した。
24	成瀬巳喜男監督講演会		ケルン日本文化会館	07.02.26	2006年11月2日から2007年2月22日まで実施した成瀬巳喜男監督特集の関連事業として、スザンネ・シェアマン明治大学教授の講演を実施した。
	【映画】				
25	新着映画特集2005		ケルン日本文化会館	06.03.02～ 06.04.27	ケルン日本文化会館FLの新着作品「萌の朱雀」「森の学校」「阿修羅のごとく」「わたしのグランパ」「美しい夏キリシマ」「にあんちゃん」「ルイズその旅立ち」「ベアテの贈り物」を上映。
26	ホラー映画特集		ケルン日本文化会館	06.05.04～ 06.07.24	『四谷怪談』(三隅研次監督)、『怪談』(小林正樹監督)、『回路』(黒沢清監督)等、伝統的な日本の怪談をもとにした恐怖映画黎明期の頃から近年の映画までを特集上映(11作品20回)。
27	「ベアテの贈り物」巡回上映	Business & Professional Woman Club de Geneve、日瑞協会等	ケルン日本文化会館 他	06.05.12～ 07.02.17	憲法14条と24条を扱ったドキュメンタリー映画『ベアテの贈りもの』(藤原智子監督)は、当館およびパリ日本文化会館での上映を機に、スイス・オーストリア等で活動する婦人団体等の間で注目が高まり、各地での上映が実現した。2006年度までに、4カ国11都市にて実施。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
28	中川信夫監督特集		ケルン日本文化会館	06.09.04～ 06.10.30	2006年5～7月まで開催した戦後のホラー映画シリーズに続いて、ホラー映画のみならず時代劇、恋愛ものや文芸作など様々なジャンルの作品を手掛け、熟練した職人技的な演出で、観客を楽しませることを追求した監督として知られている中川信夫監督の特集を実施した(8作品16回)。
29	成瀬巳喜男監督特集	ウィーン映画博物館、ミュンヘン映画博物館、フランクフルト映画博物館、ベルリン・アーゼナル映画館等	ケルン日本文化会館	06.11.02～ 07.02.22	「めし」「山の音」「浮雲」等、成瀬巳喜男監督32作品の特集上映。ケルン日本文化会館にて実施の後、ドイツ語圏各地の映画博物館等にて巡回上映。
30	新着映画特集2006		ケルン日本文化会館	07.03.01～ 07.04.30	ケルン日本文化会館FLの新着映画3作品、「父と暮らせば」で完結した黒木和雄監督の戦争レクイエム三部作、矢口史靖監督の女子高生版「ウォーターボーイズ」ともいべき「スイング・ガールズ」、沖縄を舞台にした東陽一監督の名作「風音」を中心に、この3監督の計10作品を紹介した。
【日本語教育】					
31	Expedition Colonia／日本語入門講座	Expedition Colonia	ケルン日本文化会館	06.04.28～ 06.04.30	ケルン市の歴史や様々な施設の活動等の紹介を目的に企画されたイベント「Expedition Colonia」の一環。大人向け、子供(10～18歳)向けにそれぞれに、「あなたのお名前は日本語で何ですか?」と名付けた1時間の日本語入門コースを実施。
32	マインツ大学日本語通訳セミナー	マインツ大学	マインツ大学	06.07.30～ 06.08.11	マインツ大学のイニシヤティブによる日独通訳者研修。当館が共催・協力を行った。
33	ベルリン日本語教育研修会	ベルリン日独センター、ドイツVHS日本語講師の会	ベルリン日独センター	07.02.10～ 07.02.11	日本語教師のネットワーク化が遅れている旧東独地区の日本語教育機関に所属する日本語教師を対象にセミナーを実施。教授法の研修や教材の紹介のほか、現場の問題・課題を聴取し、同地域の事情を調査すること、参加者に既存の日本語教師会ネットワークへの参加を促した。
【図書館運営】					
34	図書館運営		ケルン日本文化会館	06.04.01～ 07.03.31	図書の貸出、参考調査(511件)、ドイツ語圏日本資料図書館連絡会を開催。収蔵資料数：書籍20,132冊、雑誌246タイトル、視聴覚資料7,292点。入館者数：3,754名。貸出図書冊数：2,694冊、貸出視聴覚資料：1,098点。新規貸出登録者：247名

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【出版・広報】				
35	会館催し物案内 発行			06.04.01～ 07.03.31	会館の催し物、日本語講座、図書館、助成・協力事業について、事業案内パンフレットを隔月毎に年5回発行（毎回8,000部）。
36	翻訳賞		ケルン日本文化 会館	06.11.24～ 06.11.24	1999年以來、日本語からドイツ語への優れた翻訳作品を対象に「国際交流基金翻訳賞」の授与（副賞5,000ユーロ）を行っている。今回は第7回の授賞式で、カティア・カッシングが受賞した。（受賞翻訳作品：東野圭吾『レイクサイド』、大沢在昌『新宿鮫』）。
	【教室事業】				
37	日本語講座		ケルン日本文化 会館	06.04.01～ 07.03.31	半期制。それぞれ日本語紹介コース（2時間4回）、本コース（2時間27回または13回）を実施。準備コースは初心者のみ2クラス、本コースは初心者～上級者9レベル11クラスを開講。また、9月から10月にかけて初めて集中コースを開講した。
	【その他】				
38	文化施設オープ ンデー		ケルン日本文化 会館	06.09.10～ 06.09.10	在ケルンの外国機関（イタリア文化会館、フランス文化会館、アメリカハウス、ポーランドおよびトルコ総領事館および当館）が、各機関の活動および各国文化の紹介を行うという、ケルン市文化局初の試み。各国がブースにて情報提供し、催し物を披露した上、各館代表によるパネル・ディスカッションが実施された。ケルン日本文化会館は日本に関する情報提供、津軽三味線公演およびアニメ映画『仁太坊』の上映の他、初心者向けのミニ日本語授業および当館日本語講座の案内を実施し、図書館を終日開館した。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
39	現地文化事業参加 竹内孝和展	レバークーゼン クストフェライン	06.04.04～ 06.05.28	ドイツと日本で活動しているアーティスト竹内孝和の個展。材料費、印刷費及び広報費への助成。
40	現地文化事業参加 灰野敬二コンサート	ミュールハイム クルトゥア・ブン カー	06.04.22～	ノイズ・実験音楽などの現代音楽のジャンルで、海外でも評価の高い灰野敬二のコンサート。謝金に対する助成。

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
41	現地文化事業参加 ブレーメン文学祭 「Poetry on the Road」	ブレーメン文学 フォーラム	06.05.11～ 06.05.19	世界各地から詩人・作家を招き、朗読会や作家同士の交流を行う文学祭。ミュンヘン在住の作家四元康裕がこれに参加し、自作の朗読を行った。謝金、旅費、会場借料及び印刷費への助成。
42	現地文化事業参加 樋口立也「scent of no scent」展	ナサウ・クンスト フェライン	06.05.14～ 06.06.25	近年ドイツで積極的に展覧会を実施している樋口立也の、インスタレーションをメインにした展覧会。カタログ制作費への助成。
43	現地文化事業参加 松井柴朗展	クレーフェルド美術 館	06.06.11～ 06.10.01	モダニズムを代表する建築家ファン・デル・ローエ設計の美術館のための、大規模なインスタレーションを実施。旅費、印刷費、広告費に対する助成。
44	現地文化事業参加 寺田琳 「Sichtweisen」展	シーボルト学会	06.07.14～ 06.11.05	フランクフルト在住の寺田琳による、ライン川をモチーフにした屏風作品の展覧会。展示会場のシーボルト博物館にて、オープニングに日本人音楽家によるコンサートが行われた。印刷・広報費への助成。
45	現地文化事業参加 J-OPI-E 欧州日本語OPI 研究会	ベルリン自由大学	06.08.24～ 06.08.26	OPI（アメリカで考案された、外国人の日本語の口頭会話能力を計るメソッド）に関するシンポジウム。関連事業としてワークショップも実施。謝金に対する助成。
46	現地文化事業参加 現代アート・プロジェクト SUMAZO	SUMA（オーストリア）	06.09.01～ 06.09.15	日欧の若手アーティストの作品紹介と、作家同士の交流の活性化を目的とした継続的なプロジェクトの、第一回展覧会。クリストフ・ヴェーバと齋木克弘の作品の展示を実施。印刷・広報費及び展示スペース借料への助成。
47	現地文化事業参加 定兼恵子「百鼠－Confessionum」展	ミース・ファン・デア・ローヘハウス友の会	06.09.01～ 06.11.26	デュッセルドルフ在住の定兼恵子による、モダニズム建築を代表するドイツの建築家ミース・ファン・デル・ローエの設計した美術館での個展。カタログデザイン謝金に対する助成。
48	現地文化事業参加 広島－ニュルンベルク アート・プロジェクト KHORA2	ニュルンベルク美術 アカデミー	06.09.06～ 06.09.16	広島市立大学芸術学部とニュルンベルク造形美術アカデミーの教員・学生の短期交換による交流事業及び共同展覧会の開催。謝金に対する助成。
49	現地文化事業参加 第2回 Pictoplasma Conference	ピクトプラズマ	06.10.11～ 06.10.15	キャラクターデザインに関する国際会議・ワークショップ。世界各地から800人を超える芸術家やデザイナー等が出席。日本からはMotomichi Nakamura、大石暁規等が参加。謝金および旅費に対する助成。
50	現地文化事業参加 良知暁「Gravity」展	ノインプルス・ギャラリー	07.03.02～ 07.03.18	2005年に学生のイニシアティブで発生した、「写真作家と現代アートを支援する」団体neunplusが選んだ若手写真家・良知暁の展覧会。旅費と印刷・広報費への助成。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【会場提供】			
51	ケルン音楽の夜	KoelnTourismus、 WDR西ドイツ放送局	06.12.02～ 06.12.02	あらゆるジャンルの音楽をライブで放送する「WDR 3 Nachtmusik（音楽の夜）」は西ドイツラジオ放送局の音楽プログラム・シリーズであり、今回は作曲家川越道子氏の曲が中心となったため、当館が会場となりコンサートを開催した。同コンサートはドイツ中へライブ放送された。
	【文化備品・視聴覚資料貸出】			
52	所蔵展覧会貸出		06.04.01～ 07.03.31	ケルン日本文化会館が所有する展覧会セット（日本人形展、「大和路」展、世界遺産展等6セット）の貸出し。貸出し先は、カイザースラウテルン、ハイデルベルクの2件。その他にはローマ日本文化会館所蔵の「大和の仏像写真展」をミュンヘンおよびブルクリーデン＝ロートへ巡回した。
53	フィルムライブラリー		06.04.01～ 07.03.31	ケルン日本文化会館が所蔵する劇映画（163作品）および文化映画（117作品）を、ドイツ語圏の大学や博物館等外部機関における非営利上映のために提供した。外部施設での上映回数は107回、のべ107本。
54	文化備品貸出		06.04.01～ 07.03.31	ドイツ国内外の機関等に、ケルン日本文化会館所蔵の文化備品（茶道具、衣桁等）の貸出しを行なった。

パリ日本文化会館

合計額 597,487,341円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	『未来への回路 -日本の新世代 アーティスト』 展		パリ日本文化会 館展示ホール	06.04.26～ 06.07.01	1990年代半ば以降に注目を集めた11人の作家～ 福井篤、廣瀬智央、明和電機、村田朋泰、中村 哲也、佐内正史、齋木克裕、須田悦弘、東芋（た ばいも）、高橋信行、横溝美由紀～による絵画、 彫刻、写真、ビデオ、インスタレーションで構 成される本部巡回展
2	「型紙とジャポ ニスム」展		パリ日本文化会 館展示ホール	06.10.19～ 07.01.20	日本の工芸の中で今日まで生活に密着している 型染めのための型紙は、その造形性や技術のた めに世界でも高く評価されている。とりわけ19 世紀後半、日本の美術品に関心をもった西洋の 美術家たちにとって、デザインの上で大きなヒ ントとなり、ジャポニスムの流れの中で優れた 作品が多く生れた。日本における型紙の歴史 と、着物を始めとするその用法を示すとともに、 西洋でそれがどのような形で応用され、どんな 分野でどのような作品が生まれたのかを展観 し、日本の精緻な伝統工芸を好む観客と、研究 者・デザインを学ぶ学生等、多くの入場者を集 めた
3	棟方志功展	財団法人大原美 術館	パリ日本文化会 館展示ホール	07.03.07～ 07.04.07	「ワだば、ゴッホになる」と有名な言葉を残し、 1956年には日本人で初めてベニス・ビエンナー レ展版画部門で国際大賞を受賞、1975年に75歳 で死去した、特異な版画作家・棟方志功。彼の 生前から縁が深く、作品のための展示室を開設 している岡山県倉敷市の大原美術館との共催 （作品提供、学芸員派遣、フランス語版カタログ 作成等）により、彼の国際的評価を決定づけた 版画作品のみならず、屏風、襖絵、水彩等の肉 筆画を含む、多彩な作品を紹介した
	【公演】				
4	金梅子×大野慶 人	韓国文化セン ター	パリ日本文化会 館大ホール	06.04.07～ 06.04.08	韓国の舞踊家である金梅子（キム・メジャ）と、 日本の舞踏家の大野慶人の、世界で活躍する日 韓を代表する振付家・ダンサーのコラボレー ション。各々のソロと、二人のデュオ（世界初 演）を上演。韓国文化センターとの共催。公演 日に合わせて、金梅子出演、藤原智子監督のド キュメンタリー『伝説の舞姫 崔承喜』を小ホ ールで4月8日に別途上映した

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
5	Japan Connexion		パリ日本文化会 館大ホール	06.05.12～ 06.05.13	日仏の両親を持ち、両国で活躍する振付家・ダンサーの美枝コカンボが、小鼓方の吉坂一郎ほかの日本の音楽と共演した。ダムタイプの池田亮司や、一柳慧の曲に振付けた作品や、小鼓方の吉坂一郎との共同作品の記録映像上映と同作品を上演
6	Jazz in Japan 06		パリ日本文化会 館大ホール	06.05.30～ 06.06.03	当館恒例のジャズ特集。今回はメンバー・スタッフを一新し、アート・ディレクターにジャズ評論家の副島輝人を迎え、ジャズを切り口に日本の音楽の現在を伝えた。第1夜は渡辺香津美とビレリ・ラグレーンという、日仏トップギタリストの出会いを企画したが、ラグレーンの突然のキャンセルにより渡辺のソロ演奏となった。第2夜は虚無僧尺八の中村明一による、即興演奏。第3夜は異色の歌手さが・ゆきによる、スタンダード・ジャズ。第4夜は前衛ジャズと、革新的な番組構成となった
7	音楽の日コン サート／くもの すカルテット		パリ日本文化会 館大ホール	06.06.21～ 06.06.21	フランス全土を挙げての音楽の祭典参加企画。「くものすカルテット」が、30年代のレトロな雰囲気漂わせた演奏で注目を集め、入場無料とはいえ、詰めかける満員の聴衆を沸かせた。また同カルテットが弁士・楽士をつとめるオリジナル短編無声映画『12月の三輪車』も、ライブの中で上映した
8	青年団『S高原 から』	青年団	パリ日本文化会 館大ホール	06.10.06～ 06.10.14	劇作家・演出家の平田オリザ率いる青年団による代表作『S高原から』の上演。高原のサナトリウムを舞台に、死を待つ人々とその家族、友人、恋人を描く。2004年パリでフランス人出演者・演出家（ロラン・ガットマン）による同作品が上演され、好評を博したが、そのオリジナル版を迎えた。同時期にシャイヨー劇場で上演された、平田オリザ作『ソウル市民』（フランス人出演者、演出家アルノー・ムニエ）との提携事業
9	JAZZY COLORS／水 口恵美子トリオ	在パリ外国文化 機関有志（17カ 国）	スウェーデン文 化センター及び Le Duc des Lombards パリ日本文化会 館大ホール	06.11.18～ 06.11.20	在パリ外国文化機関有志18機関によるジャズ・フェスティバル（11/13～26）。チェコ、ハンガリー、フィンランド、スイス、スウェーデン各文化センター、及びセルバンテス・インスティテュートでのコンサート。当館からは、パリで活躍中の水口恵美子トリオが当館外で2回実施
10	J-DANCE 06 セレノグラフィ カ、キム・ミョ ンシン	韓国文化セン ター	パリ日本文化会 館大ホール	06.09.29～ 06.09.30	日本の新進ダンサー・振付家を紹介する企画。出演は、トヨタコレオグラフィアワード「次代を担う振付家賞」（2005年度）受賞者である隅地菜歩率いるセレノグラフィカと、横浜ダンス・コレクション・「若手振付家のための在日フランス大使館賞」受賞（2005年度）のキム・ミョンシン

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
11	「型紙とド ビュッシー」コ ンサート		パリ日本文化会 館大ホール	06.12.15～ 06.12.15	ドビュッシー前奏曲集に想を得て型絵染作家である伊砂利彦が制作した作品を観ながら、ピアニストで音楽学者の青柳いづみこによる講演・演奏を聴くレクチャー・コンサート。「型紙とジャポニスム」展関連企画。江戸時代の型紙が欧州のジャポニスムに与えた影響を紹介する同展と反対に、欧州の音楽作品が現代の型絵染作家にインスピレーションを与えた軌跡を紹介する
12	コンドルズ		パリ日本文化会 館大ホール	07.01.18～ 07.01.20	ダンサー・振付家として評価の高い近藤良平を中心に、学ランをまとった男性のみで結成された、日本で絶大な人気を誇るカンパニーによる、ダンス、映像、演劇などを縦横無尽に駆使した舞台公演。パリ日本文化会館10周年記念事業第1弾としての3夜連続公演は観客を熱狂させ、日仏の新聞・雑誌でも反響を呼んだ
13	YAMAHA若手 コンサート	YAMAHA FRANCE	パリ日本文化会 館大ホール	07.01.26～ 07.01.27	ヨーロッパで活躍している若手日本人演奏家によるクラシック・コンサート。ヤマハとの協力のもと、ピアノや管楽器を中心に、ソロやアンサンブルなど様々な形態で、将来有望な演奏家を紹介した
14	西川千麗	千麗の会	パリ日本文化会 館大ホール	07.03.30～ 07.03.30	日本舞踊家西川千麗による創作舞踊『カミーユ・クローデル』と、ポール・クローデルの言葉・メッセージの案内で古典曲『影法師』の舞と邦楽演奏を上演。
15	ミニコンサート		パリ日本文化会 館小ホール	06.04.26～ 07.03.21	毎月第4水曜日の定期コンサート。4/26 アンサンブル・ナンフェア：日仏混交の室内楽特集。5/24 佐藤俊介（ヴァイオリン）。6/28 みやざきみえこ（琴・三味線）。10/25 大前知諤（チェロ）、奥山彩（ピアノ）のデュオ。11/22 福間洸太郎（ピアノ）。12/20 椎名豊トリオ：ベテランピアノ奏者中心のジャズ。1/24 齋藤徹トリオ（コントラバス中心）。2/28 小野隆洋（トロンボーン）中心に棟久木綿佳（ピアノ）。3/21 宇宿真紀子（ピアノ）と宇宿直彰（チェロ）の姉弟デュオ
【講演・シンポジウム】					
16	吉増剛造レク チャー・パ フォーマンス 「海を掬い尽せ」		パリ日本文化会 館小ホール	06.04.13～ 06.04.13	詩人吉増剛造の講演に続いて、同氏とジャン＝フランソワ・ボヴロス（ギター）による詩のレクチャーパフォーマンスを行った。
17	菅野昭正講演会 「68年世代を代 表する二人の小 説家：中上健次 と村上春樹」		パリ日本文化会 館小ホール	06.04.20～ 06.04.20	文芸評論家であり東京大学名誉教授である菅野昭正（日本研究シニア客員教授派遣プログラムにより、リヨン第3大学に派遣中）が、日本現代小説を代表する中上健次と村上春樹についてフランス語で講演を行なった

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
18	河合隼雄講演会 「源氏物語」—女性 の自己実現の 物語—		パリ日本文化会 館大ホール	06.05.03～ 06.05.03	文化庁長官であり著名な精神学者である河合隼雄が、「源氏物語」に見る日本女性の自己実現、自己表現についてユニークな切り口で講演した
19	食材入門シリー ズ「豆腐」	鈴豆腐	パリ日本文化会 館小ホール及び レセプション ホール	06.05.06～ 06.05.06	日本の食材入門シリーズと称し、日本の食に関するセミナー・講演会を実施。全5回とし、第1回目は「豆腐」に焦点を当てた。当地の会社「鈴豆腐」の鈴木昭を講演者、食ジャーナリストである相原由美子をコーディネーターとして招き、講演会及び試食を行なった
20	副島輝人講演会 「日本における ジャズ文化の歴 史」		パリ日本文化会 館小ホール	06.06.03～ 06.06.03	公演事業Jazz in Japan 06の開催と合わせて、同公演のアートディレクターでありジャズ評論家の副島輝人による講演会を実施。戦前から現代にかけてのジャズ史、特にフリージャズについて明快かつ簡潔に解説した
21	食材入門シリー ズ「酒」	黒龍酒造、萬乗 酒造	パリ日本文化会 館小ホール及び レセプション ホール	06.06.10～ 06.06.10	日本の食材入門シリーズの第2回目。今回は日本酒をテーマに、「黒龍酒造」の水野社長、「萬乗酒造」の久野社長を招いて、講演会と試飲会を実施した
22	食材入門シリー ズ「昆布」	奥井海生堂	パリ日本文化会 館小ホール及び 地下3階フォワ イエ	06.09.23～ 06.09.23	日本の食材入門シリーズの第3回目。昆布セミナーの講演者は福井県の老舗「奥井海生堂」の奥井社長。講演後、地下3階のフォワイエにて昆布の出汁の試飲会を実施した
23	平田オリザ講演 会「日本の現代 演劇—国際共同 作業にむけて」	青年団	パリ日本文化会 館小ホール	06.10.07～ 06.10.07	当館で10月6日から14日で行った『S高原から』の演出家である平田オリザ（青年団主宰）が、日本の現代演劇及び彼が取り組んでいる国際共同作業について語った
24	馬淵明子講演会 「型紙とジャポ ニスム」		パリ日本文化会 館大ホール	06.10.19～ 06.10.19	10月19日から一般開催される「型紙とジャポニスム展」の関連事業として、同展覧会のコミッショナーである馬淵明子（日本女子大学教授）が、日本の型紙と文様の特色について、またベルギー、ウィーン、フランスで見られたジャポニスムについて分かり易く解説した
25	シンポジウム 「なぜ日本が現 代建築の実験工 房なのか？」	アーキラボ事務 局	パリ日本文化会 館大ホール	06.10.21～ 06.10.21	オルレアンで開催されたアーキラボ展に出品した建築家の藤本壮介、マニュエル・タルディッツが、著名な建築家の伊東豊雄と共に日本の現代建築及び自分たちの建築観念や作品について語った。モデレーター役はFrac Centreのプレイヤー女史が務めた
26	食材入門シリー ズ「醤油」	株式会社キッ コーマン	パリ日本文化会 館小ホール	06.10.20～ 06.10.20	日本の食材入門シリーズの第4回目。醤油セミナーの講演者は株式会社キッコーマンの島田が行なった

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
27	広中平祐講演会 「次世代の科学者たちをどう育むか」	笹川日仏財団 日本物理数学会、林原財団	パリ日本文化会館大ホール	06.11.17～ 06.11.17	著名な数学者・広中平祐による講演会、OECDの発表者による日仏の科学者の現状及び統計を紹介。先進国で見られる若者の科学離れに警鐘を鳴らした
28	長崎巖講演会 「日本の型染めの歴史」		パリ日本文化会館小ホール	06.12.13～ 06.12.13	12月の「型紙とジャポニスム」展の展示替えのために来仏した同展コミッショナーの1人・長崎巖（共立女子大学教授）が、日本の型紙とそれをういた着物等への型染めの技法について、特に展示替え作品を重点的に解説した
29	山下泰裕講演会 (柔道・本部事業費)	フランス柔道連盟	パリ日本文化会館大ホール	07.02.07～ 07.02.07	フランス柔道連盟との共催で、パリ日本文化会館10周年記念事業として、全日本柔道選手権9連覇、ロサンゼルス・オリンピック無差別級金メダリストの山下泰裕を迎え、柔道の歴史と未来を語った。仏柔道連盟会長ルジェ、ベッソン、ボルドー大学教授ブルスが発表、その後山下泰裕に関するショートビデオを上映、その発表となった。質疑応答では多くの質問が上がり、聴衆の関心の高さを表していた。講演後、関係者によるカクテルを大ホール横のフィワイエで行った
30	食材入門シリーズ「日本茶」	一保堂	パリ日本文化会館小ホール及び地下3階フォワイエ	07.02.02～ 07.02.02	日本の食材入門シリーズの第5回目。シリーズ最後を飾る日本茶セミナーの講演者は、京都の老舗「一保堂」の渡辺孝史社長。講演後、地下3階フォワイエでそれぞれ種類の違う日本茶の試飲会を実施した。
31	墨絵ワーク ショップ	Association Information pour Artistes franco-japon	パリ日本文化会館	07.02.21～ 07.02.24	英国で活躍している墨絵画家小野琢正を講師に迎え、墨絵の体験ワークショップを開いた。水曜日と土曜日には子供向け教室、木曜日、金曜日には大人向け（12歳以上）教室。1セッション90分
32	小山裕久講演会		パリ日本文化会館大ホール	07.02.22～ 07.02.22	和食の伝統を維持しつつも、従来の枠に囚われない洗練された料理で常に新しい和食の流れを作り出している、著名な日本料理人・小山裕久による日本食文化に関する講演会。日本料理の特徴や新しい潮流、「食」の背景にある文化的背景、フランスにおける日本食の拡がり等につき幅広く、また分かりやすく語った
33	高階秀爾講演会 「棟方志功」	財団法人大原美術館	パリ日本文化会館大ホール	07.03.07～ 07.03.07	3月7日から始まる棟方志功展に合わせて、同展共催者の大原美術館の館長である高階秀爾が、棟方志功に関する講演を行った
34	山口憲講演会 「日本の染織—能装束の美—」	山口能装束研究所所長	パリ日本文化会館小ホール	07.03.15～ 07.03.15	日本の伝統芸能として世界中の人々に評価されている能楽であるが、その衣装となる能装束を通して日本人の美意識、染色の技について山口憲（やまぐち・あきら。山口能装束研究所所長）が講演した

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
35	ネットワーク強化シンポジウム (パリ政治学院国際研究所=CERI主催)	パリ政治学院国際研究所 (CERI)	パリ政治学院国際研究所 (CERI) パリ日本文化会館小ホール	07.03.15～ 07.03.16	日本研究リサーチ・会議等助成プログラムで助成を受けているパリ政治学院の国際研究所(CERI)と共催で、同研究所にて3月15日、パリ日本文化会館小ホールにて3月16日に、それぞれ英仏の同時通訳付きで行った国際間セミナー。「ジャパン・クール」の名で定着した感のある日本のソフトの力の中でも、とりわけフランスを初めとする欧州各国の若年層に圧倒的な普及度を誇る日本のマンガに焦点を当てた議論が行なわれた
36	長谷部浩講演会 「歌舞伎の新しい波」		パリ日本文化会館小ホール	07.03.28～ 07.03.28	歌舞伎に造詣の深いフランス人観客を対象に、近年の歌舞伎における新しい動きについて紹介する。講演者は東京藝術大学助教授の長谷部浩。ゲストに若手女形の市川亀治郎を迎え、活躍中の役者による生のトークを交えて活発な講演会となった
	【映画】				
37	日本の実験映画 -60、70年代と現在の間に		パリ日本文化会館小ホール	06.06.22～ 06.06.24	60-70年代の実験映画と、70年代生まれの映像作家の作品を併せて上映する。前者の作家として、細江英公、松本俊夫、かわなかのおひろ、寺山修司、中島崇など、後者として、松山由維子、狩野志歩、石田尚志、など。各上映後に中島崇、松山由維子のアフター・トークも実施した
38	FICEP外国文化週間参加・今村昌平監督追悼上映会『うなぎ』	パリ外国文化週間(FICEP)事務局	パリ日本文化会館小ホール	06.09.30～ 06.09.30	2006年5月に亡くなったばかりで、カンヌ映画祭パルム・ドール(最高賞)を2度受賞している今村昌平を追悼し、同賞受賞作『うなぎ』(役所広司主演)を2回にわたり上映した。パリにある外国文化センターが参加する「パリ外国文化週間」参加企画
39	成瀬巳喜男監督特集		パリ日本文化会館大ホール	06.11.02～ 06.12.02	小津、溝口、黒澤に次いで世界的評価の高い名監督・成瀬巳喜男の作品31本を一挙上映。上映作品は『夫婦』『妻』『あにいもうと』『放浪記』『晩菊』『秋立ちぬ』『驟雨』『妻の心』『流れる』『杏っ子』『女が階段を上る時』『鯛雲』『娘・妻・母』『めし』『浮雲』『乱れる』『稲妻』等
40	ドキュメンタリー特集		パリ日本文化会館小ホール	06.11.10～ 06.11.25	世界的舞踏家の大野一雄の生誕百周年を記念し、その舞踏ドキュメンタリー『O氏の肖像』『大野一雄』を特集上映する他、毎年恒例の、日本を描いた2004年～2005年の新作ドキュメンタリーとして『戦争が終わった日・第1部』、『戦争が終わった日・第2部』、そして建築家・石丸信明、プロデューサー・奥村恵美子、映画監督・藤原次郎が3者で制作した『縁』、『内藤邸』、『但馬スケッチ』の3作品を同3者のティーチ・インと合わせて上映

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
41	第一回KINOTAYO映画祭	KINOTAYO (金の太陽)映画祭事務局	パリ日本文化会館大ホール	06.11.21～ 06.11.24	パリで初の本格的日本映画祭となる KINOTAYO(金の太陽)映画祭にパリ日本文化会館も協力し、今村昌平監督のフランス未公開ドキュメンタリー作品上映の他、デジタル映像作品等を上映。新作『LOFT』を上映した黒沢清監督等の舞台挨拶も実施した
42	「子連れ狼」映画特集		パリ日本文化会館小ホール	07.01.09～ 07.01.13	小池一夫原作による劇画を基に、1970年代前半に6話シリーズが作られた「子連れ狼」の特集上映会。名匠・三隅研次監督による4作品『子連れ狼 子を貸し腕貸しつかまつる』(1972 第1作)、『子連れ狼 三途の川の乳母車』(1972)、『子連れ狼 死に風に向かう乳母車』(1972)、『子連れ狼 冥府魔道』(1973)の他、斉藤武市監督『子連れ狼 子の心親の心』(1972)、『子連れ狼 地獄へ行くぞ!大五郎』(1974)を上映した
43	小津安二郎監督大特集		パリ日本文化会館大ホール	07.02.10～ 07.03.24	世界的監督・小津安二郎の現存する作品を計36本(欠落のため一部しか現存していない『大学は出たけれど』を含めると37作品)を一挙上映した、当館開館10周年記念に相応しい大特集。2月27日(火)には『東京の合唱(コーラス)』、28日(水)には『生まれてはみたけれど』の両無声映画作品に合わせて、「くものすカルテット」の片岡正二郎による楽団付き弁士公演も実施。海外では例を見ない小津作品を味わえる貴重な上映会となった
	【日本語教育】				
44	第1回全仏日本語弁論大会		パリ日本文化会館大ホール	06.04.01～ 07.03.03	当館主催によるフランスにおける唯一の日本語弁論大会。中・高校生部門と成人部門(大学生以上)の二部門からなる。出場者は中・高校生部門5名、成人部門は7名(成人部門は2名欠席)
45	欧州日本語教師研修会	アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)	アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)	06.07.10～ 07.07.14	フランス東部アルザス地方にある日仏交流のために設立された公的機関アルザス欧州日本学研究所(CEEJA)との共催で実現した現職教師向けの日本語教育法に関する研修会。フランス、イタリア、ドイツ、スイス、スペイン、ハンガリーの欧州各国から総勢21名の受講者を集め、1週間にわたって教育法に関する研修会を合宿形式で行なった。講師陣は在欧基金事務所の派遣専門家4名のほか、日本語国際センターの主任講師も参加

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【図書館運営】				
46	図書館運営		パリ日本文化会館	06.04.01～ 07.03.31	日本文化、日本語教育関係書籍・資料、視聴覚資料を備えた図書館の運営。所蔵：図書資料 23,319冊、視聴覚資料 2、218点。利用者数：17,360名。貸し出し数：図書資料 2,641冊、視聴覚資料 2,474点。レファレンス件数：2,056件
	【教室事業】				
47	香道デモンストレーション	株式会社松栄堂	パリ日本文化会館5階レセプションホール及び茶室	06.11.16～ 06.11.17	志野流香道のデモンストレーション。師範と香の老舗・京都の松栄堂の社長を迎え、香道に関するミニセミナー後、茶室で組香という香り当てゲームを参加者に実際に体験して貰った
48	茶道デモンストレーション	パリ裏千家	パリ日本文化会館茶室	06.04.01～ 07.03.31	裏千家が担当する茶道デモンストレーション
49	茶道入門教室	パリ裏千家	パリ日本文化会館茶室	06.04.01～ 07.03.31	2004年10月より、定員10名の茶道教室（16回授業）を開始
50	書道入門教室	ASSOCIATION HIMAWARI ASSOCIATION HIMAWARI、ASSOCIATION TANOSHI	パリ日本文化会館教室	06.04.01～ 07.03.31	フランス在住の書道講師・大島妙子、武井真紀子（ともに2004年9月以降）による書道教室
51	生花教室	いけばなインターナショナルIKEBANA INTERNATIONAL	パリ日本文化会館教室	06.04.01～ 07.03.31	小原・草月・池坊各流派による生花指導。定期的にデモンストレーション、玄関ホールにおける展示も行った
52	囲碁教室	フランス囲碁連盟イル・ド・フランス囲碁リーグ	パリ日本文化会館教室	06.04.01～ 07.03.31	初心者から上級者までを対象とする囲碁教室。2005年9月より単発授業登録を取りやめ、10回授業コース制にしている
53	折り紙アトリエ	Eric Joisel氏	パリ日本文化会館教室	06.10.11～ 07.03.14	子供向け事業として実験的に開始した教室事業。月1回で、6歳～9歳、10歳以上（大人も受講可）の2クラスを設けた。講師はフランス全国で折り紙アーティストとして活躍されているエリック・ジョワゼル
	【その他】				
54	MC J P 会員の夕べ		パリ日本文化会館大ホール及びフォワイエ	07.02.09～ 07.02.09	パリ日本文化会館（MC J P）会員に対する感謝の夕べとして、会員のみ限定の予約制により、黒澤明監督『酔いどれ天使』のフランス語字幕付き映画上映会を実施、上映後にカクテルを実施し、会場は満員の盛況だった

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【本部事業受入】				
55	PAJ EUROPE			06.04.01～ 07.03.31	PAJ欧州の事務局業務
56	在欧日本専門家 アフリカ派遣プ ログラム	在アルジェリア 大使館		07.02.19～ 07.03.02	在アルジェリア日本大使館の要請により、フランス在住の指揮者・矢崎彦太郎ならびに、コンサートマスター及び第ヴァイオリンの第一奏者として在仏ヴァイオリニスト2名（アラン・モグリア、渡辺篤子）を、航空賃・保険料及び謝金を負担した上でアルジェへ派遣。日本政府が文化無償資金協力により楽器供与を行ったアルジェリア国立交響管弦楽団への指導及び2回のコンサート（フランス在住の作曲家・吉田進氏の作品を含む）を行った

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【会場提供】			
57	アーキラボ建築展記 者会見	アーキラボ事務局	06.06.07～ 06.06.07	10月中旬からオルレアンにて開催される日本の建築家による展覧会の記者会見。同展覧会は本部の助成を受けている。記者会見では、オルレアン市代表、FRAC代表者、展覧会コミッショナー2名が展覧会の説明、出品する日本人建築家の紹介を行い、招待制、ジャーナリスト30名ほどが参加した
58	ボーム・ド・ブニー ズ・ワイン記者発表 会	ボーム・ド・ブニー ズワイン生産者協会	06.06.08～ 06.06.08	ローヌ地方Vignerons de Beaume de Veniseのワインを紹介すると共に、ワインに合わせた日本料理を堪能してもらおう。招待客ベースで対象者は仏プレス、ワイン業者、ソムリエ。100～120名の参加があった
59	笹川春艸・水墨画展 －雪国の彩り	日仏フィグー社	06.06.14～ 06.06.22	水墨画は現在日本全国に幅広く多くの愛好家があり、庶民の文化として進化し続けている。2005年来相次いで震災や水害に襲われながらも強く生きる上越地方の人々の生活や風景を描いた笹川春艸（しゅんそう）の掛け軸・屏風に描かれた水墨画を地下3階大ホール前のフォワイエで紹介することを通して、自然を愛し、平和を願う日本人の心情を訴えた。日仏フィグー社が仲介した
60	ジェネレーションF- J シンポジウム	Generations France-Japon	06.06.16～ 06.06.16	平成16年度まで施設提供の枠組みで実施していた日仏スピーチコンテストであったが、Generations France-Japonの解散に伴い幕を閉じる。同コンクールに携わった教師陣、関係者を一同に集わせ、記念式典を行う。
61	日本酒試飲会	八壺（ハッコ）会	06.06.29～ 06.06.29	恒例事業である日本酒セミナーであるが、昨年に引き続き今年もレセプションホールにて着席型で実施。また、日仏プレス及び業者用に特別試飲会を一般試飲会の前に設け、日本酒数種を専門家たちが味わった。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
62	JMAセミナー	日本能率協会	06.07.04～ 06.07.04	日本能率協会が毎年各地で開催しているグローバル・ビジネスリーダーコース。去年に引き続き今年もパリ日本文化会館に来館したメンバーに館長より会館の設立趣旨及び活動内容を説明し、設備及び「広重展」の見学を実施。その後、TOTAL社のル・ゴッフよりメセナについての講義があった
63	仏人シェフ帰国報告会	笹川日仏財団	06.12.04～ 06.12.04	10月末から11月初めにかけて京都の料亭で研修を受けた仏人シェフや支配人の帰国後報告会。研修プログラムを助成している笹川日仏財団が主催する。発表者は3つ星レストラン「アストランス」のパスカル・バルボ、クリストフ・ロア、コメンテーターとして食ジャーナリストのマリアンヌ・コモリも参加。
64	日仏大学交流会カクテル	ESSEC	06.12.13～ 06.12.13	ESSECを中心に日仏の有名大学の現役・卒業生が集い日仏の交流を図った

ソウル日本文化センター

合計額 126,700,628円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	中村誠ポスター展	国民大学校ゼロワン・デザインセンター	ソウル日本文化センター 国民大学校ゼロワン・デザインセンター	06.09.01～ 06.09.28	日本のグラフィックデザインを体系的に紹介するシリーズの第3弾。資生堂アートディレクターとして長年ファッションデザインに携わった中村誠氏の展覧会。図録や映像などの資料を交えて同氏の作品世界を紹介した。また、国民大学校ゼロワン・デザインセンターでは山形秀央氏による講演会を実施した
	【公演】				
2	笑福亭銀瓶落語公演	中央大学校、国立全南大学校、釜山外国語大学校	ソウル日本文化センター 釜山外国語大学校 国立全南大学校 中央大学校	07.03.12～ 07.03.14	在日3世の落語家で、韓国語で落語ができる落語家としては第1号、第一人者にあたる笑福亭銀瓶氏の落語会を実施した。これまで韓国で紹介されることがほとんどなかった落語公演を各大学との共催で本格的に実施した
	【講演・シンポジウム】				
3	絲山秋子講演会	ソウル日本文化センター ハンギョレ新聞社 韓国外国語大学校	ソウル日本文化センター 韓国外国語大学校	07.03.22～ 07.03.23	作品「沖で待つ」で2006年の芥川賞を受賞した女性作家・絲山秋子氏を招へいし、ソウルにて講演会を開催した。また、韓国人女性作家ジョン・イヒョン氏との対談もハンギョレ新聞社主管で行なった
4	日本食文化紹介事業	ハンジョンヘ料理学院 講談社 在大韓民国日本国大使館 辻調理師専門学校	ソウル日本文化センター ハンジョンヘ料理学院 在大韓民国日本国大使館	07.02.02～ 07.02.04	韓国でも愛読者の多い漫画『将太の寿司』の著者である寺沢大介氏と日本料理専門家を韓国に招聘し、寺沢氏の作品上映会やサイン会、韓国人漫画家・許ヨンマン氏との対談、日本料理専門家向けの講習会等を行なった
5	フェローOB講演会「第3回日本理解公開特講」		ソウル日本文化センター	07.02.26～ 07.02.28	基金のフェローOBである6名の日本研究者による、日本の政治・社会・文化に関する総合講座を実施した
6	青少年・対話の広場	社団法人 日韓経済協会 日中韓文化交流フォーラム	三田共用会議所	06.11.19～ 06.11.22	「日韓サッカーU-21代表チーム交流戦・交流会」の機会を捉えて、韓国人大学生40名が訪日し、日本の大学生など青少年と交流し、日韓双方のモデレーターの進行のもと、シンポジウムを開催した

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
7	Aniimpact-真島理一郎監督作品展	AniImpact事務局、光州デザインセンター、順川奇跡の図書館	光州デザインセンター 順川奇跡の図書館 明洞中央シネマ	06.12.14～ 06.12.20	今日本で最も注目を集めるアニメーション監督の一人である真島理一郎氏の作品上映会と講演会を実施した。同氏の作品は、DVD化、ゲーム化へと発展しており、アニメーターが進む一つの方向性を示すことができた
8	「著者特講・日本文化の力」講演会		ソウル日本文化センター	07.03.16～ 07.03.17	平成18年度出版協力プログラムの助成対象図書である『日本文化の力』の共同執筆者による講演会。映画、アニメーション、建築、デザイン、小説等、7つの分野における7名の著者による講演が行なわれた
	【映画】				
9	全州国際映画祭俳優マスタークラス	全州国際映画祭実行委員会	全州国際映画祭	06.05.03～ 06.05.04	全州国際映画祭のマスタークラスに韓国側から崔ミンシク氏、日本から竹中直人氏を講師として招聘し、両氏が演技に関する哲学や映画でキャラクターを完成させる過程について講演を行なった
10	日本映画上映会①	東国大学校	東国大学校	06.04.24～ 06.05.01	映画専攻の学生に日本映画に対する理解を深めてもらうため、東国大学校映画映像学科との共催で韓国フィルムライブラリーから「砂の女」と「ニッポン昆虫記」を供出し日本映画上映会を行なった
11	日本映画上映会②	釜山シネマテーク	釜山シネマテーク	06.06.13～ 06.06.15	2006年5月30日に逝去した日本の代表的な巨匠、今村昌平監督を追慕するため、シネマテーク釜山と共催で「今村昌平監督追慕展」を緊急企画し、シネマテーク釜山の試写室にて上映会を行なった
12	日本映画上映会③	韓国シネマテーク協議会	ソウルアートシネマ	06.07.02～ 06.07.07	韓国シネマテーク協議会が企画した事業「ムービー・スペシャル」に、韓国フィルムライブラリーから金ジウン監督が推薦した「砂の女」(勅使河原宏監督)を提供し、上映会を行なった
13	日本映画上映会④	海女博物館	海女博物館	06.07.13～ 06.10.13	地方機関との関係増進を図るため、海女博物館と共催で在済州総領事館の後援を得て、韓国フィルムライブラリーとしてソウル日本文化センターが所蔵している映画「海女のリャンさん」の上映会を行なった
14	日本映画上映会⑤	韓国シネマテーク協議会	ソウルアートシネマ	06.07.15～ 06.07.15	青少年(中学生)の文化活動を支援し、映画および映像文化に関する理解を深めるため、韓国フィルムライブラリー所蔵作品から「Go Go Fanta-G」を韓国シネマテーク協議会に提供して上映会を行なった
15	日本映画上映会⑥	(社)韓国家族文化院(済州支部)	済州市民館	06.10.11～ 06.10.11	韓国家族文化院との共催で、「映像アカデミー」の受講生を対象に済州を背景に作られたドキュメンタリー映画「海女のリャンさん」の上映会を行なった

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
16	日本映画上映会 ⑦	韓国シネマテーク協議会	ソウルアートシネマ	06.10.25～ 06.10.25	韓国シネマテーク協議会が開催した討論会場にてソウル日本文化センターの韓国フィルムライブラリー所蔵作品のうち、鈴木清順監督の「暗黒街の美女」の上映会を行なった
17	日本映画上映会 ⑧	建国大学校	文化芸術館	06.10.25～ 06.10.27	建国大学校映画芸術学科の専用映画館オープン記念イベントとして同校と共催で日本映画祭を企画し、韓国フィルムライブラリー所蔵作品のうち、「紅の流れ星」「狂った果実」「東京流れ者」の上映会を行なった
	【日本語教育】				
18	日本語講座		ソウル日本文化センター	06.03.02～ 06.12.01	前期3月から6月、後期9月から12月。一般学習者を対象に総コマ数24コマで、「翻訳A」「翻訳B」「日本文化A」「日本文化B」「対話技術」「読解・討論」「作文技術」「聴解と日本語理解」10クラスを開講
19	日本語教師サロン		ソウル日本文化センター	06.04.19～ 07.03.21	資格や経歴を問わず広く日本語教師を対象とした、日本語教授法、教材および授業内容等についての講義。本年度は、昨年度実施した「ボランティアのための日本語教え方講座」をテーマに8回の講義を実施
20	日本語教育研究講座		ソウル日本文化センター	06.04.12～ 06.12.13	「中学校日本語教師研修コース」、「高校日本語教師研修コース」、「教師のための日本語コース」の3コースを、各コース総20時間で前後期の2回ずつ実施
21	ニューズレター作成・発行		ソウル日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	日本語学習者を対象とするオンライン・ニューズレター『カチの声』（13～15号）を発行。日本文化・社会に関するエッセイ、韓国人から見た日本、日本人から見た韓国がテーマのコラム、日本語学習情報などを掲載
22	日本語教材図書・ビデオライブラリー		ソウル日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師への情報提供サービスおよび韓国の初・中等教育レベルにおける日本語教育の状況把握、今後の事業計画策定のための各種教材・ビデオ等の収集を行なった
23	「韓国人日本語教師と日本語ネイティブ教師によるチーム・ティーチング授業」事例集		ソウル日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	平成15年度における、青年日本語教師による韓国人日本語教師とのチーム・ティーチングの授業事例およびチーム・ティーチング実施の際の留意点などをまとめた事例集ウェブ版の維持管理

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
24	釜山日本語教育 専門家による事業	韓日文化交流協会 在釜山総領事館	ソウル日本文化 センター 韓日文化交流協会	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師対象日本語講座（A、B、Cクラスそれぞれ全15回30時間）を開講したほか、高校日本語教材作成会議への出席、第15回日本語作文コンテスト審査員、釜山外国語大学校日本語大学出講、第3回釜山広域市大学生日本語スピーチ大会審査員、釜慶大学校高校生日本語学力コンテスト面接員、大邱中等日本語教育研究会日本語教師研修会講師などを務めた
25	ホームページ連 載企画		ソウル日本文化 センター	06.04.01～ 07.03.31	日本語学習者向け（『今すぐ使える日本語』）および指導者向け（『『こんにちは』授業核心ガイド』）に、それぞれ参考となる内容を、月2回定期連載の形式で紹介した
26	大韓民国高等学 校日本語教師研 修オリエンテー ション	国際教育振興院	ソウル日本文化 センター	06.05.29～ 06.05.29	日本語国際センターが実施する標記研修について、協力団体である国際教育振興院主催の事前オリエンテーションに参加。研修内容、日本語国際センター内での生活注意事項などについて説明を行なった
27	夏季日本語教師 集中研修	韓日文化交流協会 在釜山総領事館	ソウル日本文化 センター ソウル日本文化 センター 韓日文化交流協会	06.08.07～ 06.08.11	中等日本語教師を対象とした、教授法中心の5日間、総30時間の集中研修。「日本語の授業に文化を取り入れる目的を再考する」、「目的に合った授業方法を具体的に考える」などを目標に掲げた
28	清潭中学校来訪	清潭中学校	ソウル日本文化 センター	06.08.22～ 06.08.22	9月に日本旅行に行く清潭中学校の生徒に、センター紹介、ビデオ（食文化）視聴、日本語体験、図書館見学などのプログラムを提供した
29	日本語教育支援 事業諮問委員会		ソウル日本文化 センター	06.11.21～ 06.11.21	ソウル日本文化センターの実施する日本語教育支援事業に関し、主として中等教育に関わる関係者からの意見を聴取し、右事業の効果的な実施に資することを目的とした委員会を開催
30	冬季日本語教師 集中研修	韓日文化交流協会 在釜山総領事館	ソウル日本文化 センター ソウル日本文化 センター 韓日文化交流協会	07.01.08～ 07.01.19	中等日本語教師を対象とした、教授法中心の5日間、総30時間の集中研修。「日本語の授業に文化を取り入れる目的を再考する」、「目的に合った授業方法を具体的に考える」などを目標に掲げた
31	在韓日本人留学 生ボランティア 事業		ソウル日本文化 センター	07.01.01～ 07.03.31	韓国に留学している日本語ネイティブスピーカーを中等教育の日本語授業にゲストとして派遣する事業の準備を行なった

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【図書館運営】				
32	図書館運営		ソウル日本文化センター	06.04.10～ 07.03.31	日本文化、日本語教育関係書籍・資料、視聴覚資料を備えた図書館の運営。蔵書：15,554点(書籍11,175点、雑誌516点、視聴覚資料3,202点、その他661点)。会員数：9,287名(2007.03.31現在)。図書館利用実績：年間来館者数21,370名(2006.04.01～2007.03.31)
	【出版・広報】				
33	ホームページ・リニューアル		ソウル日本文化センター	06.05.01～ 06.08.31	広報力をより高めるべく、ソウル日本文化センターのホームページを全面的にリニューアルし、併せてキーワード検索が可能となるように検索エンジン機能を付け加えた
34	日本語チーム広報物制作		ソウル日本文化センター	07.03.02～ 07.03.30	日本語教育支援事業における広報用に用いるグッズを購入、制作した
35	韓日地方自治体間交流実態に関する調査事業	韓日文化交流会議	ソウル日本文化センター	07.03.01～ 07.03.31	韓日地方自治体間の交流実態に関する調査を韓日文化交流会議に委託して実施。2004年1月から2006年12月までの韓日地方自治体間の交流実態と各自治体の国際交流の一般的な現況を調査し、その結果を出版物として制作
	【その他】				
36	日韓交流ネットワーク事業			06.05.01～ 06.08.31	日本と韓国の交流事業の活性化のために、助成プログラムや交流相手など実際の事業実施に必要なさまざまな情報を提供するサイトを、ホームページリニューアルの際に設置した
37	海外アドバイザー運営			06.10.01～ 07.03.31	当国において相対的に日本との文化交流が十分に行なわれていない全羅南北道/光州地域に海外アドバイザー(当地の名称は「特別委員」)を委嘱し、管轄地域と日本との文化交流業務に協力してもらった
38	フェローOB講演会報告書作成		ソウル日本文化センター	07.03.01～ 07.03.31	2007年2月26日から28日まで実施した国際交流基金フェローOBによる「第3回日本理解公開講座」の報告書を200部作成。報告書には第3回の講師6名の原稿を日本語に翻訳掲載したほか、第1回および第2回の概要等も掲載した
39	韓国における日本研究の概況・日本語訳作成		ソウル日本文化センター	07.03.01～ 07.03.31	世宗研究所との契約によって行なっている「韓国における日本研究調査事業」の一環として、調査委員6名が執筆した政治、経済、歴史等各分野の原稿を日本語に翻訳

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
40	現地事業助成「第8回ソウル女性映画祭」	女性文化芸術企画	06.04.10～ 06.04.11	第8回目を迎える「ソウル女性映画祭」の付帯行事として行なわれた国際フォーラム（アジア女性映画のアーカイブ構築のための方策）の開催に助成した
41	現地事業助成「近代建築の歴史の再照明」	国立ソウル産業大学建築学部	06.05.25～ 06.05.25	国立ソウル産業大学主催で東京大学建築学科の伊藤毅教授が「近代東京の都市空間」というテーマで講演を行ない、日本の近代建築形成の全般における特徴および歴史的意味について韓国の建築学者3名と討論を行なった
42	現地事業助成「日本学専攻学生ネットワーク月例会」	次世代日本専門家ネットワーク	06.04.01～ 07.03.31	平成18年度を通して行われた日本学専攻学生ネットワークの月例会、学術大会及びワークショップのうち、月例会の開催に対する助成を行なった
43	現地事業助成「2006国際家具デザインワークショップ」	弘益大学木造形家具学科	06.06.19～ 06.06.24	弘益大学主催で家具デザイナーとして脚光を浴びている喜多俊之氏が招聘され、デザイン専攻の大学生・大学院生を対象に公開セミナーと6日間のワークショップが実施された。作品はソウル日本文化センターで展示
44	現地事業助成「韓国日語教育学会第9回学術発表大会」	韓国日語教育学会	06.05.13～ 06.05.13	「韓国の日本語教員養成の現況と課題」をテーマに、「日本における日本語教師養成の現況と課題」(田尻英三)「韓国における日本語教師養成の現況と課題」(李徳奉)の基調講演と10件の一般発表が行なわれた
45	現地事業助成「韓国外国語大学校日本研究国際学術シンポジウム韓日言語文化接点を求めて」	韓国外国語大学校日本研究所	06.06.02～ 06.06.02	言語と文化の接点を探り、円滑なコミュニケーションへと導くための方法と教授法を提示することを目的とするシンポジウムを開催。日韓両国の研究者5名による講演および総合討論があった
46	現地事業助成「2006ソウルシティフェスティバル」	中央日報、湖岩アートセンター、CREDIA	06.05.25～ 06.05.25	大韓民国の有力日刊紙「中央日報」と湖岩アートセンターが主催する「ソウルシティフェスティバル」に、世界的なアーティストに成長したギターリスト木村大氏が出演し、クラシックギター演奏会を行なった
47	現地事業助成「第2回光州広島の民主人権平和関連学術会議」	湖南大学校	06.06.07～ 06.06.07	民主運動の発生地として国際的に有名な光州の役割を考察するために、被爆都市広島市の市立大学の学者を招いて、「ドイツにおける平和主義と民主主義」について発表を行ない、国際平和をテーマに日韓で討論を実施した
48	現地事業助成「延世日本学ワークショップ」	延世大学校	06.05.18～ 06.06.05	延世大学校および他大学の日本に関心のある学生を対象に行われた日本研究レクチャーシリーズ
49	現地事業助成「東北亜の持続可能な発展の為の交流と協力」	青い忠南21	06.07.17～ 06.07.22	2003年から始まった青い忠南21と日本の熊本環境ネットワークの間の定期的な交流行事。今回初めて日本側が韓国を訪問し、懇談会、現場訪問などを通じて忠清南道の市民社会団体の活動への理解を高める機会とした

	事業名	対象機関	期間	事業内容
50	現地事業助成「韓日若き作家達の交流展－純情の衝突」	日韓青年芸術交流展実行委員会、耕仁美術館	06.08.09～ 06.08.15	日韓の若きアーティストたちが、自分たちの交流に対する情熱と純情がぶつかり合うなかで生まれてくるものを表現しようとして自ら企画した展覧会。日韓合計14人の作家が出品し、作家たちの共同制作も行った
51	現地事業助成「韓日両国の構造改革の経験と包括的経済協力」	韓日経商学会	06.08.25～ 06.08.26	日韓両国の経済・経営学分野の学者が釜山に集まり、「韓日両国の構造改革の経験と包括的経済協力」というテーマで討論を行ない、日韓両国の未来志向的な経済協力を模索した
52	現地事業助成「韓日中の文化行事と交流事業等を広報するインターネットマガジンの製作及び発行」	東アジア文化交流協会	06.04.01～ 07.03.31	ソウル所在の韓国、日本、中国の機関等によって行なわれる日韓および韓中文化交流イベント等を韓国の若者に広報するインターネット・マガジンを制作した
53	現地事業助成「デジタルカメラで見る韓国の世界文化遺産」	明るい青少年支援センター	06.08.16～ 06.08.20	明るい青少年支援センターが、韓国文化に関心が深いものの訪韓経験のない日本の高校生を韓国に招聘し、デジタルカメラを使って韓国の青少年達とともに韓国の歴史と文化を理解・経験させるプログラムを実施した
54	現地事業助成「日本川崎市のFriends of Library招聘セミナー」	富川市民連会	06.08.22～ 06.08.24	韓国の富川市と日本の川崎市との図書館運動に関するNGO同士の持続的な交流と協力体制の構築のため、日本の川崎市のNGO「Friends of Library」の関係者を招へいして、セミナーを開催した
55	現地事業助成「蛍の光で繋ぐ韓日青少年交流」	盆唐環境市民会	06.08.25～ 06.08.26	日本で蛍の保全活動に参加した経験のある青少年を韓国に招聘し、民間レベルの蛍の保全活動の事例を発表することにより、自然保護の当為性と郷土愛を共有した
56	現地事業助成「韓日学术交流2006」	アジア法学生連合	06.08.21～ 06.08.27	アジア8カ国の法学部学生による国際学术交流団体であるアジア法学生連合に属する日韓の学生によって、「ナショナリズムとアジア的価値」というテーマでワークショップおよび文化交流行事が行なわれた
57	現地事業助成「授業研究発表大会および自律研修」	韓国日本語教育研究会	06.08.10～ 06.08.11	韓国日本語教育研究会が毎年実施している事業の一つ。全国から中等日本語教師が集まり各地域で選ばれた教師の授業発表が行なわれ、国際交流基金の「みんなの教材サイト」韓国語版を紹介するコーナーも設けられた
58	現地事業助成「演劇－バルカン動物園」	To Be Company、演劇実験室	06.08.31～ 06.09.17	「ソウルノート（原題：「東京ノート」）」等で韓国でもよく知られている劇作家・平田オリザ氏の作品「バルカン動物園」を公演した。「科学演劇」という独特のテーマで話題の生命工学に対する関心を集めた
59	現地事業助成「韓日少子化高齢化社会の進行に伴う社会システム再構築の課題」	自由主義教育運動連合	06.09.13～ 06.09.20	「韓日少子・高齢化社会の進行に伴う社会システム再構築の課題」というテーマで、日韓両国の学者、大学生および政治家がソウルに集まって発表・討論を行なった

	事業名	対象機関	期間	事業内容
60	現地事業助成「東北 亜ネットワーク 2007」	延世大学校リーダー シップ・センター	07.02.05～ 07.02.10	韓国、日本、中国、香港、シンガポールなどの北東アジアの大学生96名がソウルに集まり、「北東アジアの統合」というテーマで、ワークショップ・講演会・フィールドワーク等を行なった
61	現地事業助成「2006 年度韓国日本文化学 会定期学術誌第32 集」発刊	韓国日本文化学会	06.11.01～ 07.02.28	第4回韓国日本学連合会、韓国日本文化学会秋季文化学術発表大会における発表に基づく『2006年度韓国日本文化学会定期学術誌第32集』の発刊
62	現地事業助成「釜山 日本語教育研究会の ネットワーク強化の ためのホームページ 制作」	釜山日本語教育研究 会	06.08.01～ 07.03.01	釜山地域の日本語教師が、教授法および日本語学習に有益な情報を共有・交換するためのネットワーク形成の一環としてウェブサイトを制作
63	現地事業助成「2007 年シネマテークの友 達」映画祭－黒澤清 監督招聘	韓国シネマテーク協 議会	07.01.26～ 07.01.28	映画祭「シネマテークの友達2007」の期間中、黒澤清監督を招聘し、黒澤監督の新作「叫び」を上映したほか、同監督による講演会および韓国のボン・ジュンホ監督との対談を行なった
64	現地事業助成「マニ フェスタ寺山修二特 別展」	ソウル映画祭	06.09.07～ 06.09.18	寺山修司監督の作品を「ソウル映画祭」の際に集中的に紹介することで、寺山監督への理解を深める機会を提供した。国際交流基金フィルムライブラリー3作品を提供する一方、現地事業助成プログラムでも支援した
65	現地事業助成「第9 回ソウル世界舞踊 祭」	国際舞踊協会韓国本 部、芸術の殿堂	06.10.10～ 06.10.25	「第9回ソウル世界舞踊祭」のプログラムの一つとして、アジアを代表する日・中・韓の女性ダンサー3人が創作する舞台「天上舞姫」に、「H. Art Chaos」として韓国の舞踊界でも有名な白河直子氏が出演した
66	現地事業助成「ソウ ル－東京24時」展	ソウル・グラフィック ・デザイナーズク ラブ	06.10.10～ 06.10.20	日韓両国のグラフィックデザイン分野の持続的な交流のために実施されたデザイン展。両国の政治・経済・文化の中心であるソウルと東京の「デザインの今」を題材とし、中堅デザイナー30人が作品を紹介した
67	現地事業助成：松田 幸正講演会「目の冒 険」	情報工学研究所	06.10.24～ 06.10.24	『目の冒険』（講談社出版文化賞受賞）の著者である松田行正氏を招き、氏の長年の研究テーマである「相似形」に潜む発想の根源を求めて、同氏の同名著書から日常で見られるさまざまな目の冒険について講演会を実施
68	現地事業助成「韓日 地域づくり関連団体 招聘セミナー」	希望製作所	06.11.21～ 06.11.21	日韓両国の地域活性化のために、日本の地域活性化センターの関係者を招へいして日本の町作りおよび地域活性化の事例を韓国に紹介。両国の全国単位又は政府レベルでの町づくりの支援現況を比較・考察する機会とした
69	現地事業助成「ソウ ル薩摩会創立10周年 記念文化講演会」	ソウル薩摩会	06.10.21～ 06.10.21	ソウル在住の鹿児島県出身者と鹿児島県に在住した経験のある韓国人とで構成されているソウル薩摩会が、設立10周年を記念して作家の関川夏央氏を招聘し、講演会を開催した

	事業名	対象機関	期間	事業内容
70	現地事業助成「韓日友好交流演奏会」	光州文化芸術会館	06.11.24～ 06.11.24	光州広域市運営の光州文化芸術会館が日本のアジア音楽教育文化交流会を招聘し共同演奏会を行なった。光州市立交響楽団90名、光州市立合唱団50名、日本側合唱団80名が参加した地方では数少ない大規模な演奏会
71	現地事業助成「我、また違う我」展	国民大学校産学協力団	06.11.16～ 06.11.25	我々が暮らす社会に存在する「我」と「他者」の間にあるさまざまな問題に目を向け、他者として生きる人々が美術を通じてアイデンティティを構築する姿を見せた展覧会。韓国人作家と在日韓国人作家が出品した
72	現地事業助成「第1回日本大衆文化プログラム－映画上映及び専門家特講」	イメージ製作所	06.11.28～ 06.11.29	「イメージ製作所」が主催した「第1回日本大衆文化プログラム－映画上映及び専門家特講」にて、日本映画3作品の上映と日本映画専門家(2名)による特別講演会が行なわれた
73	現地事業助成「黒田杏子氏俳句講演会」	中央大学校外国語大学日本語学科	06.11.06～ 06.11.06	中央大学校が俳人・黒田杏子氏を迎え、日本の伝統詩歌である俳句の精神世界に関する講演会とワークショップを行なった。講演・ワークショップには学生100名余りが参加し、日本の伝統文化を体験する場となった
74	現地事業助成「韓国日本語学会2006年度冬季学術大会：東アジアにおける日本語教育の現況」	韓国日語日文学会	06.12.16～ 06.12.16	日本の聖徳大学から林史典教授、中国の吉林大学から宿久高教授を招聘し、二人の講演及び48の研究発表大会からなる分科会を構成した
75	現地事業助成「嫌韓と反日のコミュニケーション構造」	翰林大学校法学研究所	07.03.21～ 07.03.21	日本の専門家による「嫌韓と反日のコミュニケーション」というテーマの発表の後、韓国の学者および学生が参加して討論を行なった
76	現地事業助成「高齢社会に備えた法政策的課題」	韓国外国語大学国際地域大学院	07.03.29～ 07.03.29	日本の老人関連法制度等について、日本の学者3人が基調講演を行ない、日韓の学者が総合的に討論した
77	現地事業助成「韓国日本語学会第15回学術発表会」	韓国日本語学会	07.03.31～ 07.03.31	九州大学・因京子教授の講演および日本語・日本語教育に関する20本の研究発表からなる、学会大会を開催
	【後援事業】			
78	全国中等学生日本語学力競試大会	社団法人韓日協会	06.08.23～ 06.08.23	韓国内で最大規模の、中学生・高校生対象のスピーチコンテスト。筆記試験合格者の中学生8名、高校生15名が2次試験のスピーチコンテストに挑んだ。ソウル日本文化センターの日本語教育専門家が審査員として参加
79	第7回全国高校生日本語スピーチ大会	同徳女子大学校	06.09.22～ 06.09.22	同徳女子大学校が主催する高校生のスピーチ大会。本選には16名が出場し、入賞者のうち上位5名は日本の明海大学と朝日大学が主催する「国際日本語スピーチ大会」(会場：明海大学)に招待された
80	韓国日本語教育学会第45回国際学術発表大会	韓国日本語学会	06.09.22～ 06.09.23	日本および中国からの招聘講演2本と、65本の研究発表が2日間にわたって行なわれ、釜山在勤日本語教育専門家による研究発表もなされた

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【会場提供】			
81	韓国OPI研究会定例会	韓国OPI研究会	06.05.20～ 06.05.20	会話力測定のためのテストであるOPI（Oral Proficiency Interview）のテスト養成ワークショップ修了者へのフォローアップと、テストのインタビュー技術向上を目的とした定例会を開催
82	在韓日本語講師研究会定例会	在韓日本語講師研究会	06.05.20～ 06.05.20	日本語教育に関する知識や基礎研究の日本語教育への応用法の共有を目的とする、韓国在住の日本語ネイティブ教師の定例教師会。韓国OPI研究会との合同開催で、ACTFL-OPIの紹介およびデモンストレーションを実施
83	韓日マスメディアフォーラム「韓国政府の東北亜構想と韓日関係」	韓日社会文化フォーラム	06.06.14～ 06.06.14	韓国大統領諮問機構である東北亜時代委員会の委員長が、東北アジアの安保体制構築、日韓関係の改善の方法等について基調講演、韓国の言論人および日本マスコミのソウル特派員等が討論を行なった
84	韓日ユースフォーラム①	韓日社会文化フォーラム	06.06.19～ 06.06.19	韓国の大学生および韓国に留学中の日本人学生が、両国の社会文化に対する意見交換を行なった。第1回目として「韓日社会文化フォーラム」の鄭求宗代表による「韓日両国の言論報道様態」という特別講演も行なわれた
85	劇団四季の韓国公演に関するフォーラム	韓日社会文化フォーラム	06.07.21～ 06.07.21	劇団四季の韓国における常設公演計画に対し、韓国業界の立場について韓国ミュージカル協会の理事長が発表を行ない、四季の演出家、日本マスコミのソウル特派員等が加わって日韓文化交流に関する討論を行なった
86	日本語能力測定	韓国法務部	06.07.09～ 06.07.09	海外に留学を予定している韓国人から、入学願書の一部である「日本語学力証明書」の記載を依頼されたため、模擬試験を実施
87	韓日ユース・フォーラム②	韓日社会文化フォーラム	06.07.31～ 06.07.31	韓国の大学生および韓国に留学中の日本人学生が、両国の社会文化に対する意見交換を行なった。第2回目として「韓国放送映像産業振興院」の金泳徳研究員による特別講演（「韓国の日流、日本の韓流」）も行なわれた
88	韓日ユース・フォーラム③	韓日社会文化フォーラム	06.12.18～ 06.12.18	韓国の大学生および韓国に留学中の日本人学生が、両国の社会文化に対する意見交換を行なった。第3回目として翰林大学校の斉藤明美教授が執筆した日韓文化研究書に関し、日韓の学生による討論が行なわれた
89	日韓シンポジウム「21世紀における新しい日韓関係の模索」	韓国国際政治学会、日本国際政治学会、韓日社会文化フォーラム	06.11.30～ 06.11.30	韓日社会文化フォーラムおよび設立50周年をともに迎えた日韓の国際政治学会が共同開催したシンポジウム。「北朝鮮の核問題をめぐる日韓協力」、「安倍政権と望ましい日韓関係」というテーマで討論を行なった
90	韓国日語教育学会第10回教員研修会	韓国日語教育学会	06.11.25～ 06.11.25	「大学教養日本語教育における創意的指導方案」をテーマに、韓国の大学で教えている日本人・韓国人4組の発表者が実践例に基づいて大学教養科目としての日本語の教授方法を論じた

	事業名	対象機関	期間	事業内容
91	韓日ユースフォーラム④	韓日社会文化フォーラム	07.01.23～ 07.01.23	韓国の大学生および韓国に留学中の日本人学生が、両国の社会文化に対する意見交換を行なった。第4回目として韓国側から「日本社会の嫌韓論に対する歴史的考察」という発表を行ない、日韓の学生が討論した
92	マスメディア・フォーラム「日韓巨視経済の比較と展望」	韓日社会文化フォーラム	07.01.30～ 07.01.30	韓国の言論人、日本マスコミのソウル特派員、および学者等が集まって、日韓の経済について自由討論を行なった
93	国際シンポジウム「東アジアと日本の‘境界’」	漢陽大学校、高麗大学校	07.02.03～ 07.02.03	漢陽大学と高麗大学の共同主催で、「東アジアと日本の‘境界’」というテーマで、韓国、日本、中国の学者が集って発表と討論を行った。
94	日本演劇を観る会	日本演劇を観る会	07.02.23～ 07.02.23	日本演劇を観る会の会員による研究発表会の会場として当センターの施設を提供。「韓国映画における華僑のイメージと在日韓国人のイメージの比較分析」というテーマで発表および討論が行なわれた
95	2007年韓日・日韓協力委員会共同総会参席者教育	韓日・日韓協力委員会	07.03.05～ 07.03.05	東京での「第43回韓日・日韓協力委員会共同総会」に参加を予定していた韓国側参加者30名を対象とするオリエンテーション
96	映画を通して考える「傷ついた関係の修復」	嶺南大学校	07.03.30～ 07.03.31	研究会の会員である日韓の学者及び学生がソウルに集まり、日韓の映画を一緒に鑑賞した後、それについて議論を展開する中で、相互関係の修復への文化的姿勢を理解し合うことを試みた
	【その他】			
97	忠清南道日本語教師会セミナー	忠清南道日本語教師会	06.06.26～ 06.06.26	ソウル日本文化センター日本語教育専門家が「今どきの日本の高校生事情」と題し、50分間、パワーポイントや動画を利用して、日本の高校生の生活意識についての解説、授業への利用法等の講義を行なった
98	忠清北道日本語教師セミナー	忠清北道日本語教師会	06.04.21～ 06.04.21	ソウル日本文化センター日本語教育専門家が「コミュニケーション能力を高める授業を考える」と題し、約1時間の講義を実施
99	祥明大学校文学部日本語日本文学科学術セミナー	祥明大学校文学部日本語日本文学科	06.05.26～ 06.05.26	ソウル日本文化センター日本語教育専門家が、祥明大学校日本語日本文学科の学術セミナープログラムに特別講師として出講。日本の大学生の就職事情、若者の労働観について講義を行ない、学生の発表会にも参加した
100	梨花女子大学校併設メディア高校来訪	梨花女子大学校併設メディア高校	06.05.26～ 06.05.26	センター紹介、日本留学案内、日本語授業等を実施した
101	アークアカデミー日本語教師養成講座受講生来訪	アークアカデミー	06.05.29～ 06.05.29	韓国の日本語教育に関心のある同校の日本語教師養成講座受講生に対して、国際交流基金事業およびソウル日本文化センターの概要、韓国の日本語教育事情について講義を行なった

	事業名	対象機関	期間	事業内容
102	全羅南道教育庁主催 中等日本語教師研修	全羅南道教育庁	06.08.01～ 06.08.01	ソウル日本文化センター日本語教育専門家が、「教え方とその応用を考えるー授業の組み立てと活動を考えるー」と題し、ワークショップ形式を取り入れた講義を4コマ（1コマ50分）行なった
103	京畿道中等日本語教育研究会夏季セミナー	京畿道日本語教育研究会	06.07.15～ 06.07.15	ソウル日本文化センター日本語教育専門家が出講。「インフォメーション・ギャップのある教室活動」と題し、その有効性を参加者に考えさせ、フラッシュ・カード、絵カード、タスク・シートを利用した活動を紹介
104	京畿道外国語教育研修院主催 中等日本語教師深化課程	京畿道外国語教育研修院 および筑波大学留学生センター	06.09.04～ 06.09.29	京畿道外国語教育研修院と筑波大学留学生センターが共催で行なっている韓国国内研修（1カ月間）に、ソウル日本文化センター日本語教育専門家が出講した（同プログラムでは、つくば市で1カ月間の日本滞在研修も実施）
105	2006年度江原道日本語教育研究会セミナー	江原道日本語教育研究会	06.11.18～ 06.11.19	「多様な授業方法についての提言（発音・文字・会話）」をテーマに、発音・文字・会話の指導例と留意点などを具体的な活動を通して考えてもらった。ソウル日本文化センター日本語教育専門家が出講
106	全羅南道日本語教育研究会セミナー	全羅南道日本語教育研究会	06.12.08～ 06.12.08	「サイトを利用した授業の方法」をテーマに、ソウル日本文化センター日本語教育専門家が出講して、「みんなの教材サイト」（韓国語版）と「国際文化フォーラム」の両サイトを紹介、教材としての利用例を提案した
107	2006年度済州日本語教師会主催セミナー	済州日本語教師会	06.12.16～ 06.12.17	ソウル日本文化センター日本語教育専門家による国際交流基金および同センター紹介と、「コミュニケーションと教室活動」をテーマにしたワークショップを実施
108	釜山日本語教師会 2006年度第8回定例会	釜山日本語教師会	06.12.10～ 06.12.10	「初級ドリルを楽しく！」と題し、ソウル日本文化センター日本語教育専門家が出講した。フラッシュ・カード、絵カード、タスク・シートを利用した活動を紹介した
109	京畿道光明市日本語研究授業視察（地方 中等日本語教師支援）		06.11.08～ 06.11.08	明文高校李点徳教諭の授業を見学（テーマは、外来語の表記）。授業後の総括および意見交換会にソウル日本文化センター日本語教育専門家が参加
110	チーム・ティーチング①	水落高校	06.11.10～ 06.11.10	水落高校教諭とソウル日本文化センター日本語教育専門家が、「～でもいいですか／てはいけません」を使って話せるようになることを目標に、2クラスでチーム・ティーチングを行なった
111	チーム・ティーチング②	トダン高校	06.12.04～ 06.12.04	トダン高校教諭とソウル日本文化センター日本語教育専門家が、日本の観光地で自分の写真をとってもらえるように日本人に頼めるようになることを目標に、2クラスでチーム・ティーチングを行なった
112	チーム・ティーチング③	水落高校	06.12.26～ 06.12.26	水落高校教諭とソウル日本文化センター日本語教育専門家が、3クラスでチーム・ティーチングを実施。内容は、日本の年中行事の紹介、カルタ等

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
113	京畿道中等日本語教育研究会2006年度冬季研修	京畿道中等日本語教育研究会	07.01.05～ 07.01.05	「日本語教育における会話（＝口頭能力）に関する評価について」をテーマにソウル日本文化センター日本語教育専門家が出講
114	ソウル日本語教育研究会主催2006年度冬季職務研修	ソウル日本語教育研究会	07.01.09～ 07.01.11	ソウル日本語教育研究会主催2006年度冬季職務研修の最終日に当たる1月11日に「楽しく効果的な会話の授業－会話能力の養成から評価まで－」をテーマにソウル日本文化センター日本語教育専門家が出講した
115	在韓日本語講師研究会 2006年度 第8回定例会	在韓日本語講師研究会	07.02.24～ 07.02.24	「ソウル日本文化センターにおける中等日本語教師集中研修における成果と課題」と題し、ソウル日本文化センター日本語教育専門家が発表

北京日本文化センター

合計額 108,311,726円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	JAPANIMATION 展	大山子芸術区 北京東京芸術工 程	DIAF2006組織 委員会 大山子芸術区	06.04.23～ 06.05.27	第3回大山子国際芸術祭の一環として行われる事業。日本の有名アニメ作品「機動戦士ガンダム」のプラモデル作品の他、日本のアニメに大きな影響を受けてきた日本、中国、タイのアーティストの作品を展示。また、オープニングとなった13日（土）には、中国のパフォーマンスアーティスト曹斐（Cao, Fei）によるパフォーマンスや日本人、中国人の有志による「メイド喫茶」も行われた
2	第3回大山子国際芸術祭2006	DIAF2006組織 委員会	大山子芸術区 北京東京芸術工 程	06.04.29～ 06.05.21	美術画廊、ライブハウスなど芸術関連の施設が集中する北京市大山子地区において行われた、日本、中国及び世界各国の現代美術家による総合芸術祭。本年度3回目の開催
3	「桜花の旅-中国雲南日本友好交流会」	昆明人民对外友好協会、昆明藤沢友誼館、雲南日本商工会、雲南大学外語学院東方語言文学部	昆明藤沢友誼館	06.10.15～ 06.10.15	雲南省昆明市において、留華ネット昆明市代表者が中心となって日本文化祭を開催。一人でも多くの人に日本の古き良き文化、そして新しい日本を知ってもらい、少しでも親近感を持ってもらうことを目的とした。北京日本文化センターは開催経費の一部を負担の他、世界遺産パネル、浴衣、日本の伝統玩具等の貸出を行なった
	【講演・シンポジウム】				
4	日中同時通訳集中講義	北京語言大学外国語学院、北京第二外国語学院	北京語言大学 北京第二外国語学院	06.06.29～ 07.03.15	日中同時通訳者の養成を目的に、日本における第一人者である塚本慶一・神田外語大学教授を招聘して集中講義を行う。2006年7月、2007年3月に実施
5	生け花講演会	大坪光泉氏 北京日本学研究センター	北京日本学研究センター	06.06.30～ 06.06.30	北京日本学研究センターに在籍する学生60名程を対象に、華道家大坪光泉氏による講演会を開催
6	中日新聞メディアシンポジウム	中国中日関係史学会、北京中日新聞事業促進会	中日青年交流センター 中日友好環境保護センター	06.08.12～ 06.08.12	「日中関係における新聞メディアの役割」をテーマに、日中両国の各新聞社から1名ずつ、35名ほどが参加して行われたシンポジウム。日中双方から1名ずつの代表が基調講演を行い、その後討論を行った
7	毛丹青氏講演会（杭州）	浙江工商大学日本文化研究所	浙江工商大学	06.09.15～ 06.09.15	日本で活躍する中国人作家・毛丹青氏が、自らの体験に即して行なう、日本文化に関する講演会。中国人の視点から見た日本論を内容とすることで日本に対する理解をよりわかりやすく促していく

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
8	竹内実氏全集出版記念シンポジウム「戦後日本の中国理解と竹内実」	中国社会科学院文学研究所、中国文聯出版社、北京日本学研究中心	北京日本学研究中心	06.10.20～ 06.10.20	かつて北京日本学研究中心の日本側主任を務めた著名な中国研究者の竹内実氏の『竹内実全集』の中国語版の出版を記念したシンポジウム。竹内氏本人を日本より招き講演を依頼した。全日本空輸株式会社が協賛
9	「資料収集と学術論文の書き方」セミナー		北京日本文化センター多目的ホール	06.11.04～ 06.11.04	これから論文を書きたいと思っている日本語教師を対象に、資料収集の方法や学術論文の書き方を中心にセミナーを開催。講師は関西学院大学教授于康氏に依頼
10	毛丹青氏講演会(北京)	北京外国語大学学生会学習部	北京外国語大学逸夫楼	06.11.25～ 06.11.25	在日中国人作家、毛丹青氏による講演会。これまで毛氏が数年間にわたり中国人カメラマンと日本を旅行して撮影した写真も使用し、視覚面にも訴える内容
11	毛丹青氏講演会「日本と私の日常」(吉林、北京、上海)	(長春市分) 吉林大学、(北京分) 日本旅客鉄道株式会社、北京第二外国語学院、(上海分) 上海外国語大学	吉林大学 上海外国語大学 北京第二外国語学院	07.03.05～ 07.03.12	在日中国人作家の毛丹青氏の講演会。毛氏の日本での日常生活のエピソードを通して、等身大の日本と日本人の理解に資することを目的とする。北京第二外国語学院、吉林大学、上海外国語大学の3ヶ所で開催
12	陳舜臣さんのトークショウ	北京日本人会	北京日本文化センター多目的ホール	07.03.16～ 07.03.16	ミステリー作家として文壇に登場後、『青玉獅子香炉』で直木賞受賞作家となった陳舜臣氏によるトークショー。モデレーターとして早稲田大学文学学術院教授・北京大学中国古文献研究中心客員教授の稲畑耕一郎氏を迎え、幅広い話題について語り合われた。北京日本文化センターは北京日本人会と共催の他、会場としてホールを提供。全日空が協賛、長富宮ホテルが協力
13	上子秋生教授講演会	中国青年政治学院	中国青年政治学院	07.03.26～ 07.03.26	北京大学現代日本研究センターでの講義のため、北京を訪問中の上子秋生教授(京都大学大学院法学研究科)に、中国青年政治学院公共管理学部での講演を依頼。同教授は、「日本の中央と地方の関係－地方自治と地方分権を中心に－」というテーマで学部生を対象に講義を行った
	【日本語教育】				
14	初級・高級中学校進学検討会(ジュニア専門家/瀋陽)	遼寧省基礎教育教研培训中心	遼寧省基礎教育教研培训中心	05.03.31～ 06.04.03	中学校、高校で日本語を教える教師を対象に、高校入試、大学入試の模擬試験を三題配布、実際に問題を解かせ、内容について解説を行った。
15	日本語教育ジュニア専門家(北京)			06.04.01～ 07.03.31	中国各地の日本語教師に対する日本語能力・教授法の指導・助言、教材作成等の協力を行った

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
16	日本語教育ジュニア専門家（瀋陽）			06.04.01～ 07.03.31	派遣先は遼寧省基礎教育教研培训中心。現地教師に対する日本語能力・教授法の指導・助言、教材作成等の協力を行った
17	日本語サロン		北京日本文化センター多目的ホール	06.04.01～ 07.03.31	中国人の日本語学習者と日本人ボランティアが、毎回、異なるテーマについて、日本語で会話を楽しむ。月一回開催
18	日本語教育アドバイザー			06.04.01～ 07.03.31	中国の日本語教育に関するカリキュラム編成、教材作成、教師研修会の企画・実施・評価、日本語教育機関訪問等、広くコンサルティング業務を行った
19	第1回鶏西市私立学校日本語教師研修会（日本語教育アドバイザー／黒竜江長期支援）	鶏西市教育学院	鶏西市教育学院	06.06.24～ 06.06.25	黒龍江省における日本語教育支援活動の一環として黒龍江省鶏西市および近辺の民間日本語学校教師を対象に開催した研修会。会話の授業の進め方、コースデザインについて等の講義を行った
20	第1回全国大学日本語教師研修会	教育部高等教育出版社	高等教育出版社	06.07.24～ 06.07.28	非専攻課程の日本語教師を対象に、1週間の集中講義を行った
21	2006年度黒龍江省中高校日本語教育年会および黒龍江省小学校日本語実験総括会	黒龍江省日本語教学專業委員会	鶏東県朝鮮族中学	06.09.20～ 06.09.23	黒龍江省内の中高校で日本語を教えている教師を対象に、模擬授業、授業討論会、論文発表会などを行い、最近4年間の黒龍江省における中高校日本語教育の全般的評価を行なった。また、5年間にわたった黒龍江省小学校日本語実験授業の総括も行った
22	第2回中学生日本語弁論大会	内蒙古教育学会 外語教学研究会	通遼市東北希望国際学校	06.09.25～ 06.09.28	内蒙古自治区で日本語を学ぶ学生の日本語力と知識を豊かにし、日本と日本語に対する理解を深めることを目的に開催された日本語弁論大会
23	遼寧省朝鮮族初級・高級中学校研修会（ジュニア専門家／瀋陽）	遼寧省基礎教育教研培训中心	遼寧省基礎教育教研培训中心	06.10.26～ 06.10.29	遼寧省内の朝鮮族初級・中級中学校教師を対象に開催された研修会。朝鮮族特有の問題点、特に発音、聴解などに焦点をあて、教師自身の日本語のブラッシュアップを行なうとともに、教え方にも言及
24	遼寧省初級中学日本語教師研修会（模擬授業コンテスト）（ジュニア専門家／瀋陽）	遼寧省基礎教育教研培训中心	遼寧省基礎教育教研培训中心	06.11.24～ 06.11.27	義務教育課程標準実験教科書日語7年～9年級の全てのテキストの使用が終わった段階で、同テキストに関する意見交換、また、論文や模擬授業を行う場を提供することを目的に、遼寧省内の初級中学校日本語教師約70名を対象に研修会を開催した
25	第3回阜新県小学校日本語コンテスト（ジュニア専門家／瀋陽）	遼寧省基礎教育教研培训中心、 阜新市進修学校、 阜新県進修学校	遼寧省阜新市	07.03.17～ 07.03.19	阜新地区の小学校日本語学習者を対象にコンテストを開催

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
26	長春市高等学校 日本語教師研修会	吉林省教育学院	長春市朝鮮族中 学	07.03.17～ 07.03.17	吉林省長春市等の日本語教師を対象とした、日本語教育に関する情報交換、教師相互の交流、ネットワークの促進を目的とした研修会。 JICAの青年海外協力隊派遣隊員を含め、日本人、中国人教師計10名が出席。中国及び吉林省の日本語教育の現状や大学入試の実施状況についての説明等の他、大学入試模擬問題検討等が行なわれた
27	北票、凌原地区 巡回指導（ジュ ニア専門家／瀋 陽）	遼寧省基礎教育 教研培训中心	北票高級中学、 凌源第一中学、 凌源第二中学、 凌源第五中学	07.03.19～ 07.03.23	瀋陽派遣の鳴海ジュニア専門家が5日間の日程で遼寧省北票、及び凌源の高校5校を巡回指導
28	2007年春季全国 中学日本語教師 研修会（南方セ ミナー）	中国教育部課程 教材研究所	広東省中山市小 欖実験高級中学	07.03.23～ 07.03.26	中国における中等教育機関の日本語教師の日本語レベル及び教授レベルの向上を図る事を目的として開催。内容としては、論文の発表及びその批評、日本語教材の使用に際しての問題点等の検討、及び大学入試問題の分析等。北京日本文化センター小西アドバイザー、吉田ジュニア専門家らが講師を務めた
	【図書館運営】				
29	図書館運営		北京日本文化セ ンター図書館	06.04.01～ 07.03.31	日本語図書約8,400冊、中国語図書約1,800冊、日本語教材約3,800点、日本語用ビデオ約250本、一般視聴用ビデオ約140本を所蔵。通常開館時間は、事務所休日を除く月曜日から金曜日までの10時から17時までと、第二、第四土曜日の13時から17時まで
	【出版・広報】				
30	ホームページ			06.04.01～ 07.03.31	URLは http://www.jpfbj.cn 。北京日本文化センターの事業紹介、イベントの告知、実施報告などを、豊富な画像と共に掲載
31	ニュースレター			06.04.01～ 07.03.31	事業の広報や報告、日本語教育情報等を掲載
32	215教師ホーム ページ			06.04.01～ 07.03.31	URLは http://www.jfb215kyooshi.com 。7月にリニューアルを行なった。公募プログラムのお知らせ、研修会・セミナー報告、日本語教師のためのリンク集、また、当センターからのお知らせや、日本語スピーチコンテスト、シンポジウムなどの情報も掲載

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【その他】				
33	留華ネット		北京、天津、成都などメンバーが所在する各都市	06.04.01～ 07.03.31	中国国内各地の大学に在籍する邦人留学生に、ボランティアとしてメンバーになってもらい、MLやミーティングを通して、留学先大学での日本文化・日本事情紹介などの日中文化交流活動についての情報交換を行った。また、留学生が各地で文化紹介イベントなどを行う際には、物品貸出、経費支援などを通じて協力した
34	フェローOB等懇談会		白雲飯店(広州) 賽特飯店(北京)	06.04.15～ 07.03.23	日本研究フェローOB及び北京日本学研究中心(太平学校含む)卒業生の現在の連絡先、研究または活動状況を明らかにし、基金にとっての中国全土に広がるネットワークを構築するべく、小規模な座談会、懇親会等を実施
35	重慶日本文化祭	在重慶日本国総領事館、財団法人音楽産業・文化振興財団、重慶市人民政府外事弁公室、重慶市文化広播電視局	四川外国語学院 重慶工商大学	06.06.16～ 06.06.18	期間中、重慶市内各所において以下のイベントを行った。①6月16日(金)四川外国語学院内ホールにて「日本FANS大集合!」を開催。日本のアーティストkimeru、the indigoの共演による音楽イベント。②6月16日(金)～18日(日)重慶工商大学内スペースにて「J-POPポスター展覧会」と題するJAMIC所蔵のJ-POPアーティストのポスター作品の展覧会を開催。日本の漫画作品の原稿も合わせて展示。③6月16日(金)四川外国語学院にて「J-POPについての講演会」を開催。JAMIC朱根全氏が、J-POPの現状や中国での受容について講演
36	kimeruファン交流会	財団法人音楽産業・文化振興財団	崑崙飯店	06.06.17～ 06.06.17	日本のアーティストkimeruの中国のファンとの交流会。抽選会などを行った
37	CHINA TRIP2006	日中交流団体 freebird	上海市復旦大学、他上海近郊	06.08.21～ 06.08.30	日中大学生の相互理解を目的として交流合宿を行う。関東、関西、上海から10名ずつが参加し、討論会、フィールドワークを通じて10日間の交流を図った。事業終盤には、その成果を発表するイベント「summerbird2006」を行った
38	北京市大学生による日本将棋選抜大会	将棋北京支部	国際交流基金北京日本文化センター多目的ホール	07.03.18～ 07.03.18	日本の将棋に魅力を感じ、それを通じて日本を理解したい、日本人と交流したいと考える中国の若者が増加しつつあることを背景に開かれた将棋大会。学内に日本の将棋に関する団体・サークルを持つ大学の学生によるトーナメント戦を実施

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
39	教材出版事業『日本語雲南ガイド』（日 文・中文対照）	雲南師範大学文理学 院外語系日本語ガイ ド班	06.04.07～ 06.05.31	より優秀な日本語ガイド養成に資するような教材とし て、日本語、中国語対照の「日本語雲南ガイド」を出版
40	2006年北京大学アフ レコ大会	北京大学	06.04.08～ 06.04.08	アニメ、ドラマの一場面の日本語吹き替えを観衆の前で 行い、発音の正確さ、表現力、個性などを競った
41	北京外国語大学第9 回日本文化祭首都大 学日本語スピーチコ ンテスト	北京外国語大学	06.04.22～ 06.04.22	北京外国語大学第9回日本文化祭の一環として行われる 日本語スピーチ大会。北京市内の大学の日本語学科の学 生8人が参加、発音の正確さ、表現の豊かさ、またスピー チ後の質疑応答の内容などについて競った
42	『日本近代初期対中 国的貿易』出版(フェ ロー、センターOB への出版協力事業)	中国新時代出版社	06.05.01～ 06.06.30	日本の近代化についての理解を深めるには、日本経済に 関しての全方位的な歴史的経緯を探る必要がある、との 問題認識のもと、黄栄光氏による『日本近代初期対中国 的貿易』を出版
43	北京大学第2回NGO 文化祭（日知／小規 模助成）	北京大学青年成才促 進会	06.05.10～ 06.05.18	NGO団体と大学生の間のつながりを深め、大学生の公益 事業に対する理解促進、ボランティアへの積極的な参加 を促すことを目的に開催。各団体がブースを出して自分 たちの事業を紹介、またトークセッションも開催し、ボ ランティアに関する様々な情報提供、交換を行った。
44	北京郵電大学・北京 大学スピーチ交流戦	北京郵電大学学生会	06.05.13～ 06.05.13	日本語の会話力を高めることを目的としたスピーチ交流 戦。スピーチの内容については「日本と私」「心に残って いること」から一つテーマを選択、字数にして900-1200 字程度、時間にして3-5分程度とされた。
45	北京科技大学2006年 第1回外国語文化祭 （日本文化紹介部分）	北京科技大学外語学 院日語専攻	06.05.14～ 06.05.19	同大学日本語学科が主体となり、学生たち自身の日本語 学習に対する意欲を高め、日本文化をより深く知ること を目的に、日本文化を紹介する展示・イベントを行った。 期間中、華道のデモンストレーションや日本企業による 講座、日本大使館公使による講座も行われた
46	南京地区大学日本歌 謡大会（第1回）	南京大学日本語学部	06.05.20～ 06.05.20	日本語を専攻する学生が参加する日本語の楽曲による歌 謡大会。なお、南京地区には日本語専攻を有する高等教 育機関が12あり本大会には11機関が参加
47	第5回無錫日本語教 育交流会	無錫日本語教育交流 会実行委員会	06.05.21～ 06.05.21	無錫及び近郊地域の日本語教育のレベルアップ及び日本 語関係者の交流を目的として開かれる交流会。今回で5 回目。午前は日系企業で働く方の講演や座談会、午後は 北京外国語大学の日本語教師駒澤千鶴氏によるワーク ショップが開催された。
48	第7回北京市大学一 年生弁論大会	北京大学外国語学院 日本語文化学部	06.05.26～ 06.05.26	北京市内にある大学の日本語学科で学ぶ本科1年生を対 象に行われた、日本語によるスピーチと演芸の大会。

事業名	対象機関	期間	事業内容
49 『中日経済問題学術 討論会論文集』出版 (日知/小規模助成)	青島大学	06.06.01～ 06.10.31	2004年、2005年に青島大学にて開催された「中日経済問題学術討論会」において日中双方の研究者から提出された論文をまとめ、出版
50 第2回上海精華日本語 スピーチコンテスト	上海市精華外語專修 学院	06.06.06～ 06.06.06	①日本語の4技能を高め、日本語表現能力を向上させること、②日中企業、日中教育界などとの交流を深め、日中の文化交流に貢献すること③学外からも広く参加者を募り、上海における日本語教育の振興に貢献すること、などを目的に行われたスピーチ大会。同校の創立4年目にあたる昨年第1回が催され、本年は2回目の開催
51 中国ヒューマンアニ マル・ボンドシンポ ジウム(日知/小規 模助成)	北京農学院中国伝統 獣医国際培训中心	06.06.10～ 06.06.10	日本から動物に関する専門家を招聘し、中国国内の関係者と共に人と動物の関係についてのシンポジウムを行った。また、日本の盲導犬が会場でデモンストレーションを行った
52 広東省中山市小欖実 験高級中学2006日本 語スピーチ大会	小欖実験高級中学	06.06.17～ 06.06.17	生徒たちの日本語に対する興味を深め、またスピーチ能力を向上させることを目的に、学内にてスピーチ大会が行われた。参加するのは高校1年生、2年生
53 第二回内モンゴル自 治区大学日本語教育 シンポジウム	内モンゴル自治区大 学日本語教育研究学 会	06.07.01～ 06.07.01	内モンゴルにおける大学の日本語教育と研究の更なる促進、日中両国の日本語教師の交流を深めることなどを目的に開催されるシンポジウム
54 第10回日本文学年 会学術討論会「文化 交流を視野に入れた 日本文学」(日知/ 小規模助成)	中国外国文学学会日 本文学研究会	06.08.14～ 06.08.18	中国外国文学学会所属の研究分会である日本文学研究会が、中国における日本文学研究の促進を目的として開いた年会。今回は「文化交流を視野に入れた日本文学」をテーマに、古典文学、近代、現代文学などの分科会に分かれて報告が行われた。中国社会科学院、中国作家協会及び各地の大学から総勢100名余りが参加し、古典から現代まで様々なテーマで発表と討議を行った
55 国際交流音楽会(内 蒙古)	広島国際音楽芸術交 流協会(RIMA)	06.08.23～ 06.08.24	日中の相互理解を深め、友好親善を促進することを目的として開催された、日本の合唱団と内蒙古の音楽家、芸術家との国際交流音楽会。
56 『日本文学』2006年 増刊助成(日知/小 規模助成)	中国社会科学院日本 研究所『日本文学』 編集部	06.09.01～ 06.10.31	中国における日本研究をより一層促進させるため、『日本文学』2006年増刊号として、「中国・日本研究学術会議(2006年)」での内容を基礎としてさらに充実させ、近年の中国での日本研究機関の状況、研究内容や海外との交流の状況、今後5年間に予定されている研究プロジェクトなども記載した資料集を出版
57 日本の「談話分析」 研究の歴史と現状 (日知/小規模助成)	首都師範大学外国語 学院日本語学科、広 島大学北京研究セン ター	06.09.01～ 07.08.31	2007年8月末までのプロジェクト。首都師範大学外国語学院日本語学科と広島大学北京研究センターによる共同研究。月に1度研究会を開催し、日本の「談話分析」の研究の歴史と現状を整理、分析後、報告書を作成

	事業名	対象機関	期間	事業内容
58	「日中高度経済成長期におけるメディアとその表現」シンポジウム（日知／小規模助成）	首都師範大学外国語学院	06.09.09～ 06.09.10	日本の「高度経済成長期」には、メディアの表現形態にも様々な変化（文学、映画、テレビ、音楽、漫画、アニメ等）が現れた。本シンポジウムでは、日中両国のメディアの様々な表現形態を比較研究することを目的に日中双方の学者によって、文学、テレビドラマからEラーニング、経済まで幅広い分野での発表が行なわれた
59	「意味の夜明け -The dawn of meaning-」展	北京東京藝術工程	06.09.10～ 06.10.08	アーティストでもある吉田暁子氏をオーガナイザーに迎え、日中の若手アーティストの作品により構成する展覧会
60	京論壇	北京大学SICA京論壇組織委員会	06.09.10～ 06.10.01	東京大学と北京大学の学生による討論を中心とした合宿形式の共同事業。参加学生は面接を通し選抜された。英語を用いた議論でのテーマは、「安全保障」「歴史」「環境」「経済」
61	北京大学第3回国際文化祭日本ブース出展	北京大学国際文化祭日本ブース実行委員会	06.10.28～ 06.10.28	世界各国から北京大学に留学している留学生が、屋外に設けられた自国のブースで文化を紹介、互いのブースを訪問しあって交流を深めた。会場の中央にはメインステージが設けられ、民族音楽、舞踊など様々なパフォーマンスが行なわれた
62	演劇公演《夜行動物》	三十路組	06.11.02～ 06.11.05	1996年に北京公演が行なわれた同作品の香港公演。また、公演に先立ち合わせて日本の小劇場演劇に関する講演会も開催
63	湖南省高等教育学会第3回日本語コンクール	湖南省高等教育学会	06.11.04～ 06.11.05	湖南省全体の日本語教育の振興とレベルの向上を目指し、地域における日本語教育関係者のネットワーク構築、日本語学習者の創造性と主体性の育成を目的として、スピーチコンテストの他、作文コンテスト、日本文化紹介、講演活動などを行う。JICA中国事務所、日本大使館、湖南省日本人会が後援。湖南地区の13の高等教育機関、5つの中等教育機関が参加
64	第20回広州地区大学生日本語弁論大会	広東外語外貿大学	06.11.18～ 06.11.18	在広州日本国総領事館、広州日本商工会、及び広東外語外貿大学の共催で、23名の代表者が出場。第一部には、大学入学以前からの学習者、第二部には大学入学後からの学習者が出場した。弁論テーマは、日中関係、環境保護、両親との関係、友情、愛情、動物愛護、エイズ、アニメ等多岐にわたった
65	北京日本人学校・北京市月壇中学第19回国際交流弁論大会	在中華人民共和国日本国大使館附属北京日本人学校	06.12.02～ 06.12.02	お互いの相手国の言語で弁論を発表し合うことで、語学力はもとより、表現力、課題解決能力を高め、また、交流活動を展開することによって、国際性を涵養することを目的に行なわれる弁論大会。代表弁士両校6名ずつが、お互いの国の言語で弁論を行ない、生徒は聴衆として参加、また、全体での国際交流活動も行なう。北京日本文化センターからは賞品を提供

	事業名	対象機関	期間	事業内容
66	『国際貿易実務』教材制作	深セン職業技術学院 外語学院	06.12.05～ 06.12.31	現在、各大学の日本語専攻課程ではビジネス日本語に関する授業が設けられているが、使用教材は会話偏重のものが多く、ビジネスに関する内容も系統化して教えられてはいない。そこで、本教材では実務知識の解説に重点を置き、国際貿易の概況、貿易実務の専門用語、国際貨物輸送、海上運送保険、WTO等などからなる11章を設け、学生にこれらの知識を確実に習得させることを目的に編纂。
67	厦門大学第1回日中 学術国際シンポジウム (日知／小規模助成)	厦門大学日本研究所	06.12.07～ 06.12.10	日中学術交流の促進のために、開かれるシンポジウム。両国の語学、文学、経済、法律及び未来の友好交流のあり方に関わる諸問題について検討するために、日本から20名余りの学者を招き、国内からも多数の学者や有識者が参加する。同時に、学内で学生団体による日本文化祭(日本文化、日本映画、舞台化された漫画などを紹介するイベント)を行った
68	『日本語会話への挑戦・入門編(上)』教材制作	淮海工学院外国語学部	06.12.12～ 07.03.30	大学1年生用の会話教材を制作する。音声教材は日本人の声優、俳優等に依頼し、日本人教師が校正を担当する
69	DELTA2006広州 中日交流会	DELTA	06.12.15～ 06.12.15	広州に留学中の日本人留学生と中国人の日本語学習者による文化交流イベント。ゲームや交流の時間を設け、知り合う機会を提供。留華ネット広州市代表メンバーが中心となって計画、実施した
70	大連日中文化交流事業 (餅つき大会)	大連留学生社団	07.01.15～ 07.01.15	日本人留学生と中国人学生の「餅つき」を中心に、伝統的な正月の遊びを中国人学生に体験してもらったり、参加者全員で日本のお正月に関する○×クイズに参加したりすることで、相互理解、交流を更に深めることを目的として開催
71	中国新農村建設に向けた訪日研究 (日知／小規模助成)	中国社会科学院社会 政策研究中心	07.03.18～ 07.03.25	中国の農村の社会経済発展のモデルの一つとするために、中国社会科学院社会学研究所の研究者3名が、1週間にわたり日本の農協について訪日調査を行った。一行は、福岡市、八女市で地方農協の実施調査を行った他、東京において農林中金や関係省庁及び研究者と懇談を行った
72	「経済グローバル化と日中間の経済協力」シンポジウム (日知／小規模助成)	暨南大学日本経済研究中心	07.03.24～ 07.03.26	暨南大学日本経済研究中心が主催するシンポジウム。日中両国の学者、研究者が参加、「産業発展と企業協力」「金融と投資」などのサブテーマについて討論を行ない、中国における両国企業の共存環境をより良くするための方策を模索した
	【後援事業】			
73	中日友好文化交流節 (日本フェア)	成都アスカ文化交流 有限公司	06.05.17～ 06.05.21	四川省成都市において、日中両国の文化交流を目的とし、日本文化、日本企業及び製品の紹介、また日本の観光地の紹介などを行なった。具体的には、日本食の試飲試食会や茶道・華道の実演、空手・剣道の実演等。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
74	「盲導犬小Q家族到北京来了」(盲導犬クイールの家族、北京へ来る)	中国盲人協会	06.06.09～ 06.06.09	盲導犬のデモンストレーションや障害者との交流をはじめ、障害者による文化イベントなどのアトラクションを通し、中国における盲導犬への理解と障害者の自立の支援、及び道路交通法の遵守などの啓蒙活動を行った。
75	第3回全国小学校日本語教師研修会 (ジュニア専門家／瀋陽)	遼寧省基礎教育教研 培训中心	06.08.12～ 06.08.19	第1回または第2回研修会の参加経験者で、各地域または各学校の日本語教育において中心的役割を果たしている小学校教師を対象に、小学校の日本語教育の目的や意義を確認しながら、素質教育の一環としての日本語教育、総合運用能力を身につけるための日本語教育のあり方を考え、また、教師自身の日本語力、文化理解力、教授力の強化を図り、マスター・ティーチャーを育成すること、在中国の日本人および日本の学校関係者(小学校)との交流の場をつくり、今後の交流につなげることを目的に開催された研修会。
76	大連中学校日本語教師研修会	財団法人 国際文化 フォーラム	06.08.20～ 06.08.24	大連市の中学校日本語教師で、第2外国語としての日本語を担当している、もしくは2006年9月の新学期より担当する教師30名を対象に、中学校における第2外国語教育(日本語教育)の目的や意義を確認しながら、課程標準が提唱する新しい教育理念、教育方法を導入、素質教育の一環としての日本語教育、総合運用能力を身につけるための日本語教育のあり方を研修生とともに考えることを主目的に行なわれた研修会。鳴海ジュニア専門家が講師として出講した
77	大江健三郎氏特別講演会「魯迅、中国、私」	北京日本人会、中国 日本商会	06.09.14～ 06.09.14	中国社会科学院の招へいにより同氏が中国を訪問するにあわせ、北京日本人会と日本商会が共催した講演会。北京日本文化センターは広報及び実施経費の一部に協力を行った
78	音楽深呼吸-Hao恵 芬現代芸術展	北京旅日芸術家聯誼 会	06.10.14～ 06.10.21	日本でも展覧会開催経験がある画家、Hao恵芬氏の展覧会。多目的ホールを会場として提供
79	『素顔の日本』写 真・水墨画展	特定非営利活動法人 日中文化・経済交流 機構	06.10.23～ 06.10.27	中国人画家、書道家、写真家が日本の各地を訪ね、その体験や感動を表した作品の展示会。多目的ホールを会場として提供
80	2006北京・日本 映画祭	「2006北京・日本 映画祭」実行委員 会	06.11.18～ 06.11.24	日本映画祭。11作品の集中上映、座談会などを行った。JAL、トヨタ、富士通、北京ビールなどが協賛した。
81	2006年日本語作文ス ピーチコンテスト	広島大学北京研究セ ンター	06.11.18～ 06.11.18	中国における日本語教育の成果を発表する機会提供、また、日中文化交流(異文化コミュニケーション)及び日中翻訳文化形成に寄与することを目的に開催される、日本語作文スピーチコンテスト。財団法人異文化コミュニケーション財団などが協賛。北京日本文化センター後援

	事業名	対象機関	期間	事業内容
82	第10回日中子供将棋大会	北京日本人会	06.12.09～ 06.12.09	日本の将棋を通して日中の子供たちの交流を図ることを目的とした大会。最近の将棋ブームを反映し年々参加者は増加、特に教育に良いということで、中国の両親は熱心に応援。参加賞、敢闘賞など全員に授与した。全日本航空公司、三菱電機(中国)有限公司、弘電社機電(北京)有限公司協賛。
83	林江東現代芸術展	中国帰国華人芸術家協会	06.12.09～ 06.12.15	日本滞在経験のある林江東氏の作品の展覧会。多目的ホールを会場として貸出した
84	曜変天目一林恭助陶芸展	北京万博企画文化有限公司	07.03.18～ 07.03.26	日本の陶芸家、林恭助氏の個展。中国の福建省で始められた技法を用いた陶芸作品の展覧会
	【会場提供】			
85	北京日本語教師会杯日本語発表会	北京日本語教師会	06.04.01～ 07.12.01	月1回、日本語学習者のためのカラオケ大会、クイズ大会、朗読大会等の催し物を北京日本文化センター多目的ホールにて開催
	【文化備品・視聴覚資料貸出】			
86	中国人民大学附属中学文化祭	中国人民大学附属中学	06.05.16～ 06.05.16	中国人民大学附属中学(中学部、高校部)において、昼休みを利用して行われた外国文化紹介イベント。日本以外では、ドイツ、スペイン、フランス韓国などの文化も紹介
87	第3回日本フランス文化祭		06.05.24～ 06.06.14	日本、中国、フランス、3カ国の文化についての理解、相互の交流を深めることを目的に開催される文化祭。ポスター展や講演、演劇、茶道実演などを行った。北京日本文化センターからはポスター、浴衣などを貸し出した。
88	中国人民大学「桜会」新メンバー募集イベント	中国人民大学「桜会」	06.09.20～ 06.09.20	中国人民大学の日中交流学生サークル「桜会」が、新学期に際し、新メンバー募集のため、日本文化や日頃のサークル活動の紹介などを行なった。北京日本文化センターからは浴衣を貸出した。
89	中央民族大学外国語学院文化祭シリーズ-日本文化祭	中央民族大学外国語学院	06.10.16～ 06.11.22	同大学外国語学院成立50周年の記念イベントの一環として、日本語学部の主催で文化講座、日本語スピーチコンテスト、アフレコ大会、華道デモンストレーションなどが行われた
	【その他】			
90	北京理工大学外国語学部文化祭(池坊華道講演)	北京理工大学人文学院学生会	06.05.12～ 06.05.12	北京理工大学の文化祭において、池坊北京支部から華道の講師を迎え、講演会、デモンストレーション及び生け花体験を行った

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
91	阜新市小中学校日本語教師研修会（教師認定研修会）	遼寧省基礎教育教研培训中心	06.07.16～ 06.07.19	阜新市の小学校・中学校に勤務する教員免許を有しない日本語教師各20人～25人を対象に、教師認定を目的に基礎教育教研培训中心と阜新市教師進修学校が主催した研修会。課程標準など教師に必要な知識に関する講義を中国人講師が、日本語教授法に関する講義、教師自身の日本語レベルアップのための講義を鳴海・吉田両ジュニア専門家が担当した
92	中南民族大学弁論大会（読後感想会）	中南民族大学	06.11.02～ 06.11.02	中南民族大学外国語学院で行われた読書感想文発表会。北京日本文化センターからは賞品として教科書や辞書等を提供

ジャカルタ日本文化センター

合計額 80,898,470円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	生け花展覧会	生け花インターナショナル	アリアホテル	06.04.20～ 06.04.21	アリア・ホテルにおいて生け花の展覧会を実施した
2	浮世絵ワークショップ		ジャカルタ日本文化センター	06.06.12～ 06.06.15	ジョグジャカルタ在住の美術家エディ=プラバンドノの浮世絵ワークショップを開いた。また、同時に創作浮世絵展を開催した
3	廣田緑 マニラにおける展覧会	国際交流基金マニラ事務所	グリーン・ババリア	06.07.28～ 06.08.15	ジョグジャカルタ在住の廣田緑(造形美術作家)が、マニラ事務所の招聘でフィリピンで展覧会を開催するにあたり、作品輸送に関し協力を行った
4	IKETERU HARAJUKU ファッションショー+展覧会	Femina、Oチャネル	ジャカルタ日本文化センター	06.09.15～ 06.09.29	ファッションの街「HARAJUKU」をテーマにしたファッション・デザインを、ジャカルタおよびバンドンのデザイナーより公募し、審査に通った優秀者20名の作品によるファッション・ショーを展覧会オープニングとして行うとともに、同20作品によるファッションの展覧会を開催した
5	日本の世界遺産展		ジャカルタ日本文化センター	06.11.01～ 06.11.14	ジャカルタ日本文化センターが所蔵している写真パネル「日本の世界遺産」(写真家三好和義作品) 59点を展示した
6	ネオ・ピオン ミュキ&ニア陶芸展		ジャカルタ日本文化センター	06.11.18～ 06.12.01	若手芸術家支援プログラム「ネオピオン」の一環としてジャカルタ日本文化センター内ギャラリーミニにて「裏庭へ遊びにおいてよ MIYUKI & NIA 陶芸インスタレーション展」をするとともに、陶芸制作のワークショップを行った
7	ネオ・ピオン ムハンマド・ナフィス		ジャカルタ日本文化センター	06.12.08～ 06.12.22	若手芸術家支援プログラム「ネオピオン」の一環として、センター内ミニギャラリーにて「SCULPTURE from Junk ムハンマド=ナフィス造形展」を開催した
8	第11回日イ児童画展	ジャカルタジャンクラブ・ジャカルタ日本人学校他	ジャカルタ日本文化センター	07.02.22～ 07.02.28	首都圏地域の幼稚園児から中学生を対象に「私の森」をテーマに作品を募集し優秀作を展示する第11回日イ児童画展を実施した。同時に首都圏の養護学校とジャカルタ日本人学校からも同じテーマで作品を集め展示した

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【公演】				
9	舞台技術ワークショップ報告会		ジャカルタ日本文化センター	06.04.12～ 06.04.12	2006年3月にフィリピンにて開催された舞台技術者ワークショップに参加した、テアトル・ギャラシのチリン氏による帰国報告会を開催した
10	コンテンポラリー・ダンスインドネシアツアー	Pacel Production	LIP RDBT TIM テアトル・クチール タマン・ブダヤ・スラバヤ	06.05.08～ 06.05.21	日本のコンテンポラリー・ダンサー竹屋啓子氏がインドネシア国内5カ所を巡回し、ソロ作品の他日本舞踊家との共演作品の公演を行った
11	Wigardha P. Adishaktiピアノコンサート		ジャカルタ日本文化センター	06.05.12～	日本にも留学経験があるウィガルダ=アディシャクティのピアノソロコンサートを行い、ファイナル・ファンタジーのテーマ曲のほか、ジャワの伝統音楽を演奏した
12	テアトル・マンディリ協力事業	テアトル・マンディリ	TIMグラハ・バクティ・ブダヤ	06.06.17～ 06.06.18	インドネシアを代表する劇団の一つテアトル・マンディリが、カイロ実験演劇祭で上演した作品の発表を行った
13	テアトル・カミ青年団戯曲上映		ジャカルタ日本文化センター	06.06.29～ 06.06.30	劇団カミが、「コトバと読む身体たちの饗宴～平田オリザ短編戯曲集～」のインドネシア語翻訳劇を上演した
14	青年団公演	青年団	ゲーテ・ハウス	06.07.06～ 06.07.07	ジャカルタで「東京ノート」の公演を開催した。公演の他にも、舞台美術のワークショップ、平田オリザによる「静かな演劇」に関するワークショップも開催した
15	日本パフォーマンスアートフェスティバル	Ronald Apriyan	ネオンホール 森下スタジオ 石上寺 日本陶磁器センター	06.07.14～ 06.08.01	インドネシアのパフォーマンス・アート芸術家 Ronald Apriyanが、日本パフォーマンス・アート・フェスティバルに参加するにあたり、渡航費の一部を協力した
16	能ワークショップへの協力	ジャカルタ	ジャカルタ日本文化センター	07.02.09	能楽師の赤松禎英他による「羽衣」および「石橋」の公演及び能の歴史や楽器の説明などのレクチャーを実施した
17	ネオ・ピオンコンテンポラリーダンス準備経費			07.03.15～ 07.03.31	平成19年度初頭に開催されるダンス公演の事前広報を行った
18	こんにゃく座公演準備経費			07.03.20～ 07.03.30	平成19年度に予定されているこんにゃく座公演の台本翻訳を実施した

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【講演・シンポジウム】				
19	ナショナル大学 セミナー	ナショナル大学		06.04.18～ 06.04.18	ナショナル大学日本研究センターが当地に滞在する会社員・日本人研究者を招いて行なった講演会に、当センターが共催として参加した
20	アル・アズハル 大学 日本研究 センター開所式 日本研究セミ ナー支援	アル・アズハル 大学	アル・アズハル 大学	06.04.20～ 06.04.20	アル・アズハル大学で新たに日本研究センターが開設されることになり、開所式と共に講演会が行なわれた
21	ASJI支援	インドネシア日 本研究協会、在 インドネシア日 本大使館	インドネシア大 学日本研究セン ター	06.06.08～ 06.06.08	各種奨学金を得るための申請書の書き方に関するセミナーを開催した
22	Al-Azhar大学 一日セミナー	アル・アズハル 大学	アル・アズハル 大学	06.08.10～ 06.08.10	イスラム知識人によるレクチャーシリーズの一つとして、ムハマディア党首のディン・シャムスディン氏をアル・アズハル大学に招いて講演会を行なった
23	小山裕久 日本 料理レク チャー・デモン ストレーション	basaraジャカル タ店	basaraジャカル タ店	06.09.18～ 06.09.18	小山裕久（日本料理専門家）がインドネシアを来訪するにあわせ、料理学校の学生、日本食レストランの料理人など80名程度を対象に、レクチャー・デモンストレーションを開催した
24	スラバヤ国立大 学一日セミナー	スラバヤ国立大 学	スラバヤ国立大 学	06.11.11～ 06.11.11	日本とインドネシアの比較アプローチによる日本研究セミナーを実施した
25	松風華道会生け 花レクチャー・ デモンストレー ション		ジャカルタ日本 文化センター	06.11.17～ 06.11.17	ジャカルタに新しく支部を開いた松風華道会の師範により、生け花のレクチャー・デモンストレーションを実施した
26	日本研究ワン デーセミナー		メリディアン・ ホテル	07.02.03～ 07.02.03	五百頭旗真（防衛大学学長）を招へいし、「アジアの近代化と日本」と題した講演会を実施した。また、このセミナーにあわせて、インドネシア各地に存在する日本研究センター代表者会議を実施し、各センターの情報交換および今後の連携について協議した
	【映画】				
27	映画上映会		ジャカルタ日本 文化センター	06.04.01～ 07.03.31	ジャカルタ日本文化センター所蔵の字幕付日本映画の上映会を実施した
28	シネマキャラバ ン(ジョグジャ)	現地町内会、市 民団体 「Gerakan Jogja Bangkit」	Manira Asumpta中学 校 チャンクリン村 マンディンガン 村	06.07.25～ 06.07.28	2006年5月27日の中部ジャワ地震で最も被害の大きかったバントウル県とクラテン県を開催地を選び、7月26日より毎日開催場所を替えて、日本映画上映会および日本文化紹介のワークショップを3日間実施した

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
29	東京国際映画祭参加への協力 (Edwin)			06.10.21～ 06.10.29	東京国際映画祭の「Tokyo Project Gathering」に招聘されたインドネシア人映画監督エドウィンに対し、渡航費の協力を行った
	【日本語教育】				
30	ジュニア専門家会議		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	インドネシア各地に派遣されている6名のジュニア専門家がジャカルタに集まり、各地域における中等教育レベルの日本語教育事情に関する報告会、および今後の中等教育レベルにおける日本語教師業務方針に関する討議を実施。
31	派遣専門家会議		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	インドネシアの高等教育機関に派遣されている4名及びジャカルタ日本文化センター向け派遣の3名の日本語教育派遣専門家がジャカルタに集まり、各地域における高等教育レベルの日本語教育事情に関する報告会、および高等教育レベルにおける業務方針に関する討議を実施。その他、各種業務で出張した
32	インドネシア日本語教育学会支援	インドネシア日本語教育学会	ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	インドネシアにおける日本語教育の発展に資する助言を適宜学会に行った
33	高校日本語教師会支援		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	高校日本語教師会からの各種照会、相談に対し、随時対応した
34	高校日本語教師会支援（ジャボデタベック）	ジャボデタベック地区日本語教師会	各地高校校舎	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師会所属の教諭の日本語能力及び日本語教授能力を改善し、教諭間の情報交換を円滑に行なうために、日本語教師会（MGMP）が中心となって定期的に会合を開いた
35	高校日本語教師会支援（北スマトラ）	北スマトラ地区日本語教師会	各地高校校舎	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師会所属の教諭の日本語能力及び日本語教授能力を改善し、教諭間の情報交換を円滑に行なうために、日本語教師会（MGMP）が中心となって定期的に会合を開いた
36	高校日本語教師会支援（西スマトラ）	西スマトラ地区日本語教師会	各地高校校舎	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師会所属の教諭の日本語能力及び日本語教授能力を改善し、教諭間の情報交換を円滑に行なうために、日本語教師会（MGMP）が中心となって定期的に会合を開いた
37	高校日本語教師会支援（西ジャワ）	西ジャワ地区日本語教師会	各地高校校舎	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師会所属の教諭の日本語能力及び日本語教授能力を改善し、教諭間の情報交換を円滑に行なうために、日本語教師会（MGMP）が中心となって定期的に会合を開いた
38	高校日本語教師会支援（中部ジャワ）	中部ジャワ地区日本語教師会	各地高校校舎	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師会所属の教諭の日本語能力及び日本語教授能力を改善し、教諭間の情報交換を円滑に行なうために、日本語教師会（MGMP）が中心となって定期的に会合を開いた

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
39	高校日本語教師会支援（東ジャワ）	東ジャワ地区日本語教師会	各地高校校舎	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師会所属の教諭の日本語能力及び日本語教授能力を改善し、教諭間の情報交換を円滑に行なうために、日本語教師会（MGMP）が中心となって定期的に会合を開いた
40	高校日本語教師会支援（バリ）	バリ地区日本語教師会	各地高校校舎	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師会所属の教諭の日本語能力及び日本語教授能力を改善し、教諭間の情報交換を円滑に行なうために、日本語教師会（MGMP）が中心となって定期的に会合を開いた
41	高校日本語教師会支援（北スラウェシ）	北スラウェシ地区日本語教師会	各地高校校舎	06.04.01～ 07.03.31	日本語教師会所属の教諭の日本語能力及び日本語教授能力を改善し、教諭間の情報交換を円滑に行なうために、日本語教師会（MGMP）が中心となって定期的に会合を開いた
42	中等教育機関主催日本語事業支援		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	中等教育機関からの各種照会、相談に対し、随時対応した
43	一般日本語講座運営		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	一般向け講座3講座及び教師向け講座を開講した
44	教員向け日本語講座運営		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	一般向けの日本語講座とは別に、日本語教員向けに特化した日本語講座を実施した
45	普通高校新カリキュラム準拠教材開発プロジェクト	インドネシア教育省	ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	国際交流基金本部事業として作成している当地普通高校用日本語教科書作成プロジェクト。教育省と当センターの協力で制作した
46	テレビ日本語講座		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	当センター日本語講師が中心となり、教材を作成した
47	インドネシア日本語教育学会支援（スラウェシ）	インドネシア日本語教育学会スラウェシ支部	ハサスディン大学	06.04.01～ 06.06.30	当地の授業で利用されることの多い日本語教科書『みんなの日本語』の効果的な利用方法についての研究会が実施された
48	日本語弁論大会（高校生向け）全国大会	インドネシア国家教育省初等中等教育局	ジャカルタ日本文化センター	06.04.02～ 06.04.02	教育省の認可組織である高校日本語教師会（MGMP）の存在する8地域で地方大会を実施し、各地の上位入賞者13名を集めて、全国大会を実施
49	南スラウェシ州大学教師向け研修会	ハサスディン大学	ハサスディン大学	06.04.04～ 06.04.08	ハサスディン大学にて、南スラウェシ州の日本語教師を対象に日本語運用能力及び教授法向上を目指す研修会
50	日本語弁論大会（一般向け、ジャボタベック地区）		ジャカルタ日本文化センター	06.05.20	日本語弁論大会全国大会の地区予選（ジャボタベック地区）、当該地区から3名が全国大会へ出場する

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
51	日本語弁論大会 (一般向け、東ジャワ州)	元日本留学生協会東ジャワ支部、在スラバヤ日本総領事館	スラバヤ国立大学	06.05.21～ 06.05.21	日本語弁論大会全国大会の地区予選(東ジャワ州)、当該地区から2名が全国大会へ出場する
52	日本語弁論大会 (一般向け、西ジャワ州)	パジャジャラン大学文学部日本語日本文学科	パジャジャラン大学	06.05.23～ 06.05.24	第32回日本文化祭を開催し、弁論大会(スピーチコンテスト)のほかに、漢字、かな、作文、習字、クイズ、聴解、朗読等のコンテストが行われた。スピーチコンテストの上位入賞者2名は、7月に行われる日本語弁論大会全国大会に出席する
53	日本語弁論大会 (一般向け、中部ジャワ州・ジョグジャカルタ特別州)	ガジヤマダ大学	ガジヤマダ大学	06.05.23～ 06.05.24	日本語弁論大会全国大会の地区予選(中部ジャワ州・ジョグジャカルタ特別州)、当該地区から2名が全国大会へ出場する
54	日本語弁論大会 (一般向け、バリ州)	スワダヤ大学	スワダヤ大学	06.05.28～ 06.05.28	日本語弁論大会全国大会の地区予選(バリ州)、当該地区から1名が全国大会へ出場する
55	日本語弁論大会 (一般向け、スマトラ州)	北スマトラ大学	北スマトラ大学	06.05.28～ 06.05.28	日本語弁論大会全国大会の地区予選(スマトラ州)、当該地区から2名が全国大会へ出場する
56	日本語弁論大会 (一般向け、スラウェシ州)	スラウェシ州日本語弁論大会実行委員会	マナド国立大学	06.06.15～ 06.06.15	日本語弁論大会全国大会の地区予選(スラウェシ州)、当該地区から1名が全国大会へ出場する
57	インドネシア日本語教育学会支援(中部ジャワ)	インドネシア日本語教育学会中部ジャワ・ジョグジャカルタ支部	ジョグジャカルタ工科大学	06.06.15～ 06.06.15	コンピュータを日本語教育にいかに応用するかをテーマに、一日セミナーを実施した
58	インドネシア日本語教育学会支援(東南アジアサミット)	インドネシア日本語教育学会、パジャジャラン大学	パジャジャラン大学	06.06.23～ 06.06.24	東南アジア各国で日本語教育が実践されているものの、情報交換が乏しいため、各国の日本語教育者を集めて情報交換・日本語教育研究発表を行なうことを企図し、当該事業を行なった
59	日本語弁論大会 (一般向け、全国大会)	元日本留学生協会	ホテル・サリ・パシフィック	06.07.08	大学生と社会人を対象とする全国規模の弁論大会、各地方大会(7地区)で優秀な成績を修めた14名を招聘して全国大会を実施
60	第1回普通高校/宗教高校日本語基礎研修	教育省語学教師研修所	ジャカルタ教育省語学教師研修所	06.07.13～ 06.07.26	ジャカルタ首都圏、西ジャワ、南カリマンタンの普通高校及び宗教高校の日本語教師を対象に日本語運用能力及び教授法能力の向上を目指す研修会をおこなった

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
61	インドネシア日本語教育学会支援（ジャボタベック）	インドネシア日本語教育学会 ジャボタベック地区	ジャカルタ日本文化センター	06.08.05～ 06.08.05	日本語中級教授法の知識を深めることを目的に、一日セミナーを実施した
62	普通高校/宗教高校日本語教師継続研修	教育省語学教師研修所	ジャカルタ教育省語学教師研修所	06.09.06～ 06.09.19	ジャカルタ首都圏、西ジャワ、中部ジャワ・ジョグジャカルタ、北スラウェシ、南カリマンタンの普通高校及び宗教高校の日本語教師を対象に日本語運用能力及び教授法能力の向上を目指す研修会をおこなった
63	インドネシア日本語教育学会支援（東ジャワ）	インドネシア日本語教育学会東ジャワ・バリ支部	アイルランガ大学	06.09.16～ 06.09.16	日本研究コースが新設されたアイルランガ大学で、日本語一日セミナーを実施した
64	パプア高校生事業		ジャカルタ日本文化センター	06.10.21～ 06.10.21	パプア州と山形県の姉妹都市交流事業の一環で、パプア州が地元の高中生20名を山形に2週間派遣し、ホームステイをしながら山形の高校にも通学させるという3年プロジェクトの2年目の事業を実施するにあたり、パプア州の派遣団の一行が山形出発前に当センターに立ち寄ったので、当センターで日本（山形）紹介、基金事業紹介、日本語（山形弁）講座、日本食体験などを実施した。
65	漢字カップ	在スラバヤ日本総領事館、元日本留学生協会東ジャワ支部、国際相互活動センター、じゃすみん	セクレタリ・ウィディア・マングラ大学	06.11.01～ 06.11.30	東ジャワ地区で実施されている「漢字カップ」に当センターも支援した。これは、東ジャワ地区の大学生を中心に日本語能力に関するコンテストを実施し、日ごろの勉学の成果を競うものである
66	第2回普通高校/宗教高校日本語教師基礎研修	教育省語学教師研修所	ジャカルタ教育省語学教師研修所	06.11.14～ 06.11.28	東ジャワ、中部ジャワ・ジョグジャカルタ、西スマトラの普通高校及び宗教高校の日本語教師を対象に日本語運用能力及び教授法能力の向上を目指す研修会をおこなった
67	日本語能力試験	元日本留学生協会	各地大学等	06.12.03～ 06.12.03	日本語能力試験は、インドネシア国内7カ所で開催しているが、そのうちジャカルタでの実施について元留学生協会との共催で行った
68	インドネシア日本語教育学会支援（西ジャワ）	インドネシア日本語教育学会西ジャワ地区	インドネシア・コンピューター大学	06.12.09	会話基礎教授法に関し、集中的に一日セミナーを実施し、日本語教育専門家も出講した。また、学会誌『和』の発刊に協力した
69	インドネシア日本語教育学会支援（スマトラ）	インドネシア日本語教育学会スマトラ支部	北スマトラ大学	06.01.27	学会研究発表にあわせて行われたワークショップに対し、日本語教育専門家が出講して協力した。また、この機会を利用し、同地の日本語教育状況の調査も行った

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
70	日本語履修高校生進路相談フェア		ジャカルタ日本文化センター	07.02.01～ 07.02.12	高校生の日本語学習奨励を目的としたイベント。日本語学科を有する大学がブースを設け、日本語を勉強している高校生に対し、進学について相談を受けた。他に日本文化紹介イベントとして浴衣の着付と、盆踊りの体験プログラムが設けられた
	【図書館運営】				
71	図書館運営（図書、新聞、雑誌購入費）		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	年間来訪者22,081名、資料数32,351点、会員数は1,495名。水曜日以外の平日午前9時半より18時、奇数週土曜日の午前9時より12時半まで開館している
	【出版・広報】				
72	ジャーナル MANABU			06.04.01～ 07.03.31	日本研究成果を世界に発信することを目的とし、英語で記述された論文を全インドネシアから原稿を集めてジャーナルを刊行した
73	NUANSA			06.04.01～ 07.03.31	ジャカルタ日本文化センターの催しや関係者のエッセイを掲載した広報媒体NUANSAを、隔月に発行した
74	EGAO			06.04.01～ 07.03.31	日本語教育関係者への情報支援のために、基金助成プログラムや教授法のアイデアなどを掲載した「Egao」を四半期ごとに1,500部発行し、関係者に配布した
75	ウェブサイト運営			06.04.01～ 07.03.31	平成17年度に内容を改訂したウェブサイトを引き続き運営し、広報強化に努めた
76	広報一般			06.04.01～ 07.03.31	ジャカルタ日本文化センターの名前をよりインドネシア国内で広げるために、事業の際に頒布するボールペン、布バッグなどのグッズを作成した
77	イスラム知識人講演会 冊子出版			06.04.01～ 07.03.31	当地イスラム知識人の日本に関する講演会及び執筆を冊子にまとめ、各地に頒布した
78	記者懇談会経費			06.04.01～ 07.03.31	ジャカルタ日本文化センターの活動をメディアを通じてより多く広報するために、マスコミ各社との懇談の機会を設け、事業説明を行った
79	エッセイコンテスト	インドネシア文学者協会		06.10.01～ 07.02.02	インドネシア文学者協会の協力を得て、高校生及び大学生による日本に関するエッセイコンテストを開催した
80	プログラムガイドライン関連経費			06.08.01～ 06.12.01	インドネシア向け公募事業を広報するために、インドネシア語版の公募プログラムガイドラインを作成した

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【教室事業】				
81	スクールビジット		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	首都圏地域の高校大学その他教育機関より学生らの訪問を受け入れ、基金の活動を紹介するとともに、図書館見学や折り紙等の日本文化実演、日本映画鑑賞などを実施した
82	囲碁教室関連経費		ジャカルタ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	ジャカルタ在住の囲碁愛好家や囲碁を学んでみたいという人たちのために、毎週金曜日16:30～20:00まで囲碁サロンを開催した
83	生け花教室	生け花インターナショナル	ジャカルタ日本文化センター	06.05.19～ 06.09.01	小原流の免状を取得しているインドネシア人師範による、初心者向けの生け花教室を実施すると共に、生徒の作品の展覧会を実施した
84	4カ国対抗囲碁大会	日本棋院・じゃかるた新聞社・日本人会囲碁将棋クラブ・インドネシア囲碁組織・韓国囲碁協会他	ジャカルタ日本文化センター	06.12.08～ 06.12.10	日本棋院の重野由紀2段を審査委員長に招き、インドネシア人・日本人・中国人・韓国人囲碁愛好家による4カ国対抗国際親善囲碁大会を開催した。また、囲碁愛好家の底辺の拡大を目指し、インドネシアの若者向けに囲碁教室を実施した
	【その他】				
85	各種文化備品貸し出し			06.04.01～ 07.03.31	ジャカルタ日本文化センターが所蔵している日本文化紹介の文化備品、フィルム・ライブラリーのインドネシア字幕付フィルムを外部団体に貸し出した

バンコク日本文化センター

合計額 86,306,303円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	「ポスターに見る日本」展	チェンマイ大学 芸術学部	チェンマイ大学 芸術学部 バンコク日本文化センターアートスペース	06.04.20～ 06.05.28	本部巡回展「ポスターに見る日本」展“Discover Japan through Contemporary Posters”、現代日本のデザイナーによるポスター作品75点を展示した
2	小林聡子アート展「Fragments/Chiangmai」		バンコク日本文化センターアートスペース	06.08.10～ 06.08.30	2005年夏から1年間の予定で文化庁在外研修プログラムによりチェンマイに滞在した小林聡子氏によるインスタレーション作品の展覧会。チェンマイでの日常生活のなかでインスピレーションをえて制作した最新作ばかりを展示した。
3	岩井成昭作品展「食卓の時間」		バンコク日本文化センターアートスペース	06.09.12	国内外で知名度の高い現代アーティストの岩井成昭和氏の作品展を行った。内容は、暗い室内で三つのテーブルの上に食器を配し、その真上から映像と音をくみあわせる総合インスタレーション
4	バツマ・ケオゴーク作品展「田舎の土」		バンコク日本文化センターアートスペース	06.10.05～ 06.10.28	陶芸の本場伊賀で2年間修行し、現在はバンコクを拠点に創作活動をつづけるバツマ氏による現代感覚あふれるセラミックアート展
5	FT3Dアート展		バンコク日本文化センターアートスペース	06.11.02～ 06.11.30	タイの現代アートシーン最前線を疾走するトップランナー3名（タウィーサク・シートンディー、デー・ブアサーン、チャックリット・チムノーク）によるグループ展「FT3D」を開催した
6	子ども俳句コンテスト	日本航空	バンコク日本文化センターアートスペース	06.12.01～ 06.12.15	日本航空及び日航財団が1964年より世界各地で行っている「世界こどもハイコンテスト」の一環として、タイで同コンテストを実施した。テーマは「家（House）」
7	百人一首レクチャーデモンストレーション	クルンテープかるた会（共催）、全日本かるた協会（後援）	バンコク日本文化センターホール、アートスペース	07.01.10～ 07.01.30	かるたのレクチャーデモンストレーション。小倉百人一首の歴史や、かるた遊びを紹介するレクチャー、現役トップクラス2選手による競技かるたの実演、観客が参加できるかるたゲームを実施した。また明治時代の百人一首や、ドラえもん、ポケモンかるたなど現代の各種かるたなどの展示もあわせて開催した

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
8	Sarawut Art Exhibition		バンコク日本文化センターアートスペース	07.02.08～ 07.03.03	The Installation Series of Untitled 2007 と名付けた現代アート展。Sarawut Chutiwongpeti氏は、1999年度国際交流基金本部の芸術家フェローシップとして6か月間日本に滞在した。その後欧米で活躍し、久々にタイにもどり、今回の新作個展を開いた
9	板倉敬子アート展（バンコク国際アートフェスティバル）	Bangkok International Art Festival	Playground Gallery、Children's Discovery Museum	07.02.23～ 07.03.18	タイや日本、イタリア、ブラジル、米国、英国などのアーティストが参加し、市内各所で多彩なアートイベントをくりひろげる国際的なアートフェスティバル。日本からは若手有望株のグラフィックデザイナー板倉敬子氏が来タイし、同フェスティバルの一環として、作品展と児童むけ絵画指導ワークショップを開催した。
10	現代日本の陶磁器展	国立美術館、チェンマイ国立博物館	国立美術館、チェンマイ国立博物館	07.03.02～ 07.04.26	日本の陶芸界において中堅的な位置を示し、その中でも近年注目すべき活躍を示している作家たちの作品約70点を紹介する展覧会。伝統的な焼き物の産地にあつて、「器」をテーマに様々な形態で新しい陶芸を創り出そうとする作家たちの作品を紹介。
11	写真展「アジアの子どもたち」		バンコク日本文化センターアートスペース	07.03.08～ 07.03.29	写真家トガシツトム氏によるアセアン10か国の子どもの日常をテーマにした写真60点あまりを展示した。アセアンジャパンセンターが後援
	【公演】				
12	青年団（平田オリザ「東京ノート」公演）	青年団	チュラロンコン大学付属劇場	06.06.15～ 06.06.26	日本を代表する現代演劇グループのひとつである青年団（平田オリザ主宰）による『東京ノート』のバンコク公演。公演3回のお他、公演中日の24日（土）には平田オリザ氏によるアフタートークを実施した
13	ハウス・コンサート		バンコク日本文化センターホール	06.07.15	当センターが行うハウスコンサート（自前の会場でおこなう音楽会）。2006年度は、箏、フルート、ピアノの共演によるコンサートを開催した
14	和太鼓公演		タイ文化センター大ホール チェンマイ国際園芸博覧会	07.01.11～ 07.01.17	日タイ修好120周年の幕開けイベントとして、1月16日、東京打撃団と炎太鼓の競演コンサートを実施した。冒頭周年開会式典があつた。また、1月13日、チェンマイ国際園芸博覧会会場で、日本週間幕開けイベントとして、式典のあとに東京打撃団のみによる演奏会を実施した
	【講演・シンポジウム】				
15	児童読書推進セミナー	Books for children Foundation	シリキット・コンベンションセンター	06.07.03～ 06.07.10	日本から2名の講師（松居直・日本国際児童図書評議会会長、杉田いづみ・ブックスタートプロジェクト責任者）を招き、タイおよびラオスで児童読書推進活動についてのセミナーを開いたほか、図書館の訪問や関係者との意見交換を行った。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
16	広域活動強化事業（児童読書推進セミナー）	Books for children Foundation	ビエンチャン市教育局会議室	06.07.05	タイで行った「児童読書推進セミナー」の講師（松居直・日本国際児童図書評議会会長、杉田いづみ・ブックスタートプロジェクト責任者）をラオスに派遣し、日本の絵本についてのセミナー、ラオス国立図書館の訪問や関係者との意見交換を行った
17	フェローセミナー		チュラロンコン大学	07.02.27～	日本の地域コミュニティの発展を紹介し、タイへの応用の可能性を考えるセミナー。タイの国際交流基金元フェロー及び関係者の交流の場を設けるとともに、日タイ修好120周年を記念して、一般聴衆も含めた日タイ間の交流・協力の機会とした。
18	【映画】 J Fシアター		バンコク日本文化センターホール	06.04.01～ 07.03.31	毎月テーマを定め、ウィークエンドの毎週金曜日及び第1・第3火曜日の18：30から定期的に開催する日本映画の上映会。原則として、タイ語字幕付きで上映した
19	【日本語教育】 紀要発行			06.04.01～ 07.03.31	タイの日本語教育に関する研究結果を共有するため、タイの日本語教育に特化した紀要を年1回発行。2006年度は、8月に「日本語教育紀要第3号」を700部印刷し、タイの日本語教育関係者に配布した。
20	日本語教育コンサルティング		バンコク日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	コース運営やシラバス策定など、日本語教育に関する相談に随時応じた。
21	教材・教具助成			06.04.01～ 07.03.31	タイの日本語教育機関に対して、バンコク日本文化センターが開発した教材を中心に、タイ国内で制作された日本語教材を寄贈した。
22	日本語教育派遣専門家連絡会議		バンコク日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	タイ国内で活動する、J F本部派遣の日本語教育専門家及びジュニア専門家が一堂に会し、活動報告と計画を発表するとともに、情報交換や問題共有・解決を図った。
23	日本語講座運営（一般講座）		バンコク日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	日本語中・上級レベルの学生・一般社会人対象とした日本語講座。2006年度は、通訳・翻訳コースなどの専門的なコースと、総合的な能力向上を目指すコースなど合計18コース19クラスを設定した。前期は5/30～9/9、後期は10/31～2/17に開講した
24	講師室図書整備		バンコク日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	タイ国内の日本語教師への情報提供を目的に主に日本で発行される日本語教育関連書籍を収集した。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
25	教材普及事業			06.04.01～ 07.03.31	タイの日本語教育事情に合わせた教材開発を行う事業。本年度は既刊のタイ中等教育機関向け日本語教材『あきこと友だち』の副教材として、単語集の制作を行った。
26	広域活動強化事業（日本語）			06.04.01～ 07.03.31	バンコク日本文化センターの広域活動対象国であるラオス、カンボジア、ミャンマー、ベトナムの各国に対する事業として、タイへの教師研修のための招へい、セミナーへの講師派遣や弁論大会などへの審査員派遣などの日本語関係事業を行った。
27	北部タイ中等日本語教師研修会	ユパラート高校	ユパラート高校 (チェンマイ)	06.04.01～ 07.03.31	北部タイに派遣中の日本語教育専門家（ジュニア専門家）による周辺のタイ人日本語教師向け週末セミナーを実施する。受講者の事情に合わせ、金曜日と土曜日の2日開講。通年で各16回実施した。
28	東北タイ中等日本語教師研修会	ウドンピタヤヌクーン高校	ウドンピタヤヌクーン高校 (ウドンタン)	06.04.01～ 07.03.31	東北部タイに派遣中の日本語教育専門家（ジュニア専門家）による周辺のタイ人日本語教師向け週末セミナーを実施した。前期は関係機関を個別に訪問し参加者の教授能力等を確認し、セミナーは後期に開講した。
29	日本語教育広報誌『タウン』発行			06.04.01～ 07.03.31	タイ日本語教育機関及び日本語教師向けニューズレターを作成・配布した。本年度は第38号（2006年8月）と第39号の2号を発刊した。印刷部数は各1,500部。
30	日本語教師集中研修会		バンコク日本文化センター	06.04.17～ 06.10.20	バンコクでの教師研修に参加が困難な地方在住の日本語教師を主な対象に、学期休みの4月及び10月を利用した短期集中型の研修を行った。前期研修会は4月17日～28日に、後期研修会は10月9日～20日に開講した。
31	邦人日本語教師教授法等研修会	泰日経済技術振興協会	バンコク日本文化センター	06.05.15～ 06.05.26	タイ国内の公的教育機関において日本語教育に携わることが決定している日本人で教授経験1年未満の経験の浅い日本語教師に対し、日本語教授法の基礎やタイの日本語教育に関する講義を行い、タイにおける日本語教授法の基礎を習得させた。
32	日本語教師水曜研修会		バンコク日本文化センター	06.05.31～ 07.02.17	日本語能力が比較的高いタイ人日本語教師を主な対象に、教授法に重点をおいた研修会を実施した。前期は5月31日～9月6日、後期は11月14日から2月17日に開講した。前後期各15回実施した。
33	中等学校現職教師新規養成講座	タイ教育省	バンコク日本文化センター	06.05.29～ 07.04.06	タイの高校で日本語教師が不足している状況を解決するため、他教科の高校教師に日本語と日本語教授法を習得させる研修を実施した

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
34	日本語教師金曜研修会		バンコク日本文化センター	06.06.02～ 07.02.16	日本語能力試験3・4級のタイ人日本語教師を主な対象に総合日本語と教授法の研修会を実施した。前期は6月2日～9月8日、後期は11月3日～2月16日に開講した。前後期各15回実施した。
35	東南アジア日本語サミット（インドネシア）	インドネシア日本語教育学会、ジャカルタ日本文化センター	バンドン（インドネシア）	06.06.23～ 06.06.24	インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの代表的な日本語教育関係者が集まり、「東南アジアにおける日本語教育の現状と展望～日本語運用の育成に向けて」をテーマに、シンポジウムを行った。
36	日本語教育セミナー（第1回）		バンコク日本文化センター	06.07.29	高等教育のタイ人教師を主な対象として「翻訳のコースデザインと教え方」のセミナーを実施した。
37	日本語弁論大会	在タイ日本国大使館、タイ国元日本留学生協会、盤谷日本人商工会議所、タイ国日本人会	バンコク日本文化センター	06.09.03	在タイ日本大使館やタイ国元日本留学生協会などとの共催で、タイ国全土を対象とした弁論大会を実施した。
38	日本語教育セミナー（臨時）			06.10.31	「敬語の力」をテーマにバンコク周辺の日本語教師を対象としたセミナーを行った。別件で講師がバンコクを訪問する機会を捉えて、バンコクの日本語教育従事者が日本の先端の専門家から話を聞く場を提供した。
39	日本語能力試験		バンコク日本文化センター	06.12.03	日本語能力試験の監督への説明会場としてホールを提供した
40	ミャンマー巡回指導（講師出張）			07.03.03～ 07.03.04	ミャンマーの現地人日本語教師を対象とした日本語教育セミナーに対し講師を派遣した。主催は在ミャンマー日本大使館で、当センターでは企画立案と講師派遣の協力を行った。
41	日本語教育セミナー（第2回）		バンコク日本文化センター	07.03.14	日本より専門家を迎え、「コミュニケーションのための日本語教育文法」というテーマでセミナーを行った。対象は高等教育・中等教育、タイ人・日本人と、タイで日本語教育に従事する教師を幅広く招待した。
	【図書館運営】				
42	図書館運営			06.04.01～ 07.03.31	2006年度第2四半期末現在、蔵書規模（日本語図書（日本語教材含む）13,847冊、英語図書5,801冊、タイ語図書2,882冊、DVD70枚、ビデオ1,359本、CD書籍・音楽CD520枚、カセット660セット）の図書館を運営し、タイにおける日本研究学者や日本語教師をはじめ、広範な利用者の用に供した。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【出版・広報】				
43	季刊広報誌 『Japan Letter』 発行			06.04.01～ 07.03.31	文化交流に関するエッセイやバンコク日本文化センター事業の活動報告を英・タイ2か国語、季刊で、毎号1,000部発行した
	【その他】				
44	文化備品貸出し			06.04.01～ 07.03.31	所有する文化備品を、日本文化紹介などのイベントを行う公的な機関や日本語を学習する中等学校・大学の文化祭（日本祭）などに貸し出した。
45	近隣諸国調査出張		プノンペン	06.04.01～ 07.03.31	広域事業実施の事前調査及び補助のため、カンボジアに職員が2回出張した
46	日本文化紹介 キャラバン（その他）		ナレースワン大学 パヤオ校	06.04.01～ 07.03.31	文化事業の地方展開として、各地の教育機関などで映画やその他の日本文化紹介事業を行った。
47	三好和義「日本の世界遺産」写真セット	コンケン大学、 国土交通省・国際観光振興機構	エンポリアムデパート コンケン大学	06.04.01～ 07.03.31	当センター所蔵の写真家三好和義氏による日本の世界遺産パネル写真セットの展示。コンケン及びバンコクで展示した
48	コンケン大学日本文化祭（日本文化紹介キャラバン）	コンケン大学	コンケン大学	06.07.01～ 06.07.31	文化事業の地方展開として、又コンケン大学に派遣されている長期派遣の坪根専門家への支援の双方の目的を兼ね、「日本の世界遺産写真展」「百人一首レクチャーデモンストレーション」「日本映画上映会」を実施した
	【本部事業受入】				
49	第9回アジア漫画展	チェンライ・ラーチャパット大学	チェンライ・ラーチャパット大学 バンコク日本文化センターアートスペース	06.07.05～ 06.08.20	1995年以降、毎年開催しているアジア漫画展の第9回の展示。「アジアのIT（情報技術）事情」をテーマに、アジア各国の第一線で活躍する8か国8人の漫画家の新作品80点を紹介した。タイからは、Palangkorn Suradej（パラングーン・スラデート）氏が参加。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
50	愛知県立芸大・シルパコン大学交換美術展	シルパコン大学	06.07.28～ 06.08.18	シルパコン大学と愛知県立芸大の教官による作品展。シルパコン大学の教官のひとりがかつて愛知芸大で学び、つながりができたのを活用し今回の2大学によるイベントとなった。

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
51	Art Connection 「Multiplying Emergence」	Art Connection	06.08.05～ 06.08.06	東南アジア各国よりコミュニティー活動に取り組む人々、芸術家、社会学者、NGOスタッフ等の多様な参加者を募り、激しく変化する東南アジアの大都市における芸術のあり方を考える2日間のワークショップを開催した。
52	第10回タイ短編映画祭助成	Thai Film Foundation	06.08.17～ 06.08.27	第10回タイ短編映画祭の一部として、日本を特集したプログラム（プリディパノムヨン劇場及び当バンコク日本文化センターホールで実施）の関係者3名の招へい経費を助成した
53	チュラロンコン大学 「Publishing of Japanese Studies Book」	チュラロンコン大学 アジア研究所	06.10.12～ 07.03.31	チュラロンコン大学アジア研究所が在タイ日本大使館広報文化部の支援を得て毎年実施している、社会科教員を対象とした日本についてのワークショップでの講演内容をまとめ、出版した。
54	J T A T 「第一回日 本語ドラマコンテス ト」	J T A T	06.10.14	J T A T（タイ人中心の日本語教師会）が実施する、タイの大学生による日本語コンテストへの経費助成。
55	IMMF 「The Changing Role of Women in Asia」 ワークショップ	IMMF	06.10.14～ 06.11.11	タイを含めたインドシナ諸国のジャーナリズムの向上に取り組むIMMFのジャーナリスト研修事業。研修にはインドシナ諸国のジャーナリストが参加し、ジェンダー問題をテーマに活発な議論を行った。
56	Institute of Security and International Studies	チュラロンコン大学 安全保障・国際問題 研究所	06.10.26～ 06.10.29	「民主主義と人間の安全保障」をテーマにした国際会議。東南アジア各国からの研究者、及び在タイの各国大使館員、助成財団関係者らが参加し、発表と議論を行った。
57	展覧会「Little More Sweet, Not Too Sour」助成	100 Tonson Gallery	06.11.09～ 07.01.28	100 Tonson Galleryが主催実施する現代女性アーティスト4名による作品展への小額助成。出展作家はフランスの大家Louise Bourgeois、日本の草間弥生、そしてタイを代表する二人の現代アーティストAraya Rasdjarmrearnsook とPinaree Sanpitak。
58	JSN-Thailand準備 会議	JSN-Thailand	06.12.01～ 07.03.31	2007年5月に設立予定のタイ国日本研究ネットワーク（JSN-Thailand）の設立準備会議。中心メンバーが、設立総会やその後の活動につき話し合った。
59	北部タイ中学・高校 日本語コンテスト	北部タイ中等教育日 本語教師会	07.01.26	北部タイ中等教育日本語教師の会が実施する年1回の日本語コンテストで、本年度で第3回目を数える。いろいろな活動を通じた日本語の運用力向上を目指しており、スピーチ、朗読、硬筆、クイズのジャンルに分かれて行われた。
60	北部タイ大学日本語 弁論大会	タイ北部元日本留學生 協会	07.02.10	タイ北部元日本留學生協会が主催して開催するスピーチコンテストで本年度は第2回目。タイ北部の大学で日本語専攻学科を有するほとんどの大学が参加した。会場は、チェンマイ大学人文学部のモムラントウイ講堂で行われた。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
61	The Sharing of Local Heart	Foundation for Regional Empowerment Education	07.02.28～ 07.03.03	第3回フェローセミナーで講師として招へいした高知県馬路村農協組合長及び馬路村役場職員が、馬路村と同様に村おこしの必要に迫られているタイの村落を訪れ、意見交換やアドバイスを行った。
62	北部タイ日本語教師会特別セミナー助成	北部タイ日本語教師会	07.03.03	「北部タイにおける日タイ二重国籍子女に対する日本語教育－バイリンガル教育及び第二言語習得からの課題と、今後の教育環境の構築－」と題するセミナーを実施した。
63	【会場提供】 施設開放		06.04.01～ 07.03.31	日本語教育に関するセミナー等への教室貸出
64	【その他】 文化事業協力		06.04.01～ 07.03.31	タイの各種機関が開催する催し物での日本文化紹介につき、協力を行った。

クアラルンプール日本文化センター

合計額 63,210,371円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
【公演】					
1	現代演劇公演 青年団	クアラルンプール舞台芸術センター (KLPac)	KLPac, Pentas 2	06.06.26～ 06.07.04	現代の日本を代表する劇作家、演出家である平田オリザが率いる青年団による演劇公演。海外でも広く紹介されている代表作『東京ノート』を上演したほか、平田氏による演劇ワークショップ、戯曲執筆ワークショップも実施。
2	能ワークショップ (シンガポール周年事業)	アジア文明博物館、在シンガポール日本大使館	アジア文明博物館	06.10.25～ 06.10.28	シンガポールのアジア文明博物館にて、“Hidden Faces - The Art of Japanese Masks”と題して開催された能面展 (会期：2006年9月7日-11月5日) の関連事業として、能のレクチャー・デモンストレーションを共催した。講師：リチャード・エマート教授 (武蔵野大学)、松井彬氏 (能楽師)、北澤秀太氏 (能面作家)
3	現代演劇公演 Kudan Project		KLPac, Pentas 2	06.11.03～ 06.11.05	KUDAN Projectの『真夜中の弥次さん喜多さん』を上演。『真夜中の弥次さん喜多さん』は、しりあがり寿の漫画を原作とし、天野天街が脚本・演出を手掛けた二人芝居で、2002年の初演時には、異なるジャンルの二つの才能の出会いが大きな話題を呼び、上演後は、全く新しい演劇体験として、驚きと共に各方面で絶賛され、その年のベスト・プレイ候補にも挙げられた作品。
4	現代舞踊公演 山海塾	クアラルンプール舞台芸術センター (KLPac)	KLPac, Pentas 1	06.11.25～ 06.11.26	日本を代表する舞踏カンパニー山海塾を招聘し、彼らの代表作である「遙か彼方からの-ひびき」の2回公演を実施。公演終了後の11/27には、国立芸術アカデミーの学生と一般参加者を対象に、メンバーの蟬丸氏によるワークショップを午後と夜にそれぞれ開催した。
【講演・シンポジウム】					
5	ちりめん小物作りワークショップ		クアラルンプール日本文化センター	06.05.20～ 07.03.10	日本人会等にてちりめん小物作りを指導する天芳子氏を講師に迎え、一般向けのワークショップを開催。第1回はキーホルダー作りで31名が参加。第2回は巾着袋作りで28名が参加した。
6	田中明彦教授巡回日本研究講演会	マレーシア日本研究者協会、マラヤ大学、マレーシア科学大学、サラワク開発問題研究所	マラヤ大学／ペナン科学大学／サラワク木材産業開発公社	07.01.04～ 07.01.10	マレーシア日本研究者協会との共催で、著名な日本研究者を日本、欧米等から招聘し、マレーシア国内各地を巡回するセミナーをほぼ毎年実施してきた。今年度は東京大学の田中教授を招へいし、「安倍新政権の対アジア外交政策」というテーマで、大学、研究所の共催を得て国内3箇所で開催した。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【映画】				
7	定期映画上映会	在マレーシア日本大使館、マレーシア観光センター	マレーシア観光センター	06.04.01～ 07.03.31	毎月第一、第三土曜日の16:30より、マレーシア観光センター小ホール（定員120名）にて、英語字幕つき日本映画上映会を実施。入場無料。フィルムは主に東アジアフィルムライブラリー所蔵の16mmフィルムを使用。
8	イポー日本文化祭	ペラ馬日協会、ペラ州立図書館、ペラ州文化センター	ペラ州立図書館／ペラ州文化センター	06.06.17～ 06.06.18	ペラ州イポーに隣接して建つ2つの施設、ペラ州立図書館とペラ州文化センターの2ヶ所を会場に日本文化祭を開催。3回の日本映画上映をはじめ、「職」写真展、折り紙教室、剣道デモンストレーション、生け花デモンストレーション等が行われた。
9	日本映画祭	ゴールデン・スクリーン・シネマ	ミッドバレー・ゴールデン・スクリーン・シネマ／ワンウタマ・ゴールデン・スクリーン・シネマ／ガーニープラザ・ゴールデン・スクリーンシネマ	06.08.05～ 06.08.20	実施形態：クアラルンプール日本文化センター、在ペナン日本国総領事館、ゴールデン・スクリーン・シネマ共催。Embun Day Spa 協賛。事業内容：2003年のアニメ映画祭から続く、恒例の日本映画祭で同会場での開催本年度3回目を迎えた。また、篠原哲雄監督を招聘し、監督の2作品「命」と「天国の本屋～恋火」を上映した他、国立美術アカデミーにおいて講演会も実施した。
	【日本語教育】				
10	浦和研修事前オリエンテーション		クアラルンプール日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	平成18年度海外日本語教師研修および平成19年度海外日本語教師研修（春期）の参加予定者を対象に研修参加にあたって必要な知識、自分にとっての課題、問題解決などについてオリエンテーションを行った。
11	シンガポール・ブルネイ ネットワーク形成	シンガポール国立大学 シンガポール日本語教師の会	シンガポール国立大学／シンガポール日本人会	06.04.01～ 07.03.31	シンガポール国立大学主催の国際会議、シンガポール日本語教師の会主催のセミナー出席の機会をとらえて、シンガポール日本語教育事情など情報交換をおこなった。
12	小規模日本語教材寄贈	Kolej Universiti Saing Dan Teknologi Malaysia Sekolah Menengah Kebangsaan Tinggi Melaka	Kolej Universiti Saing Dan Teknologi Malaysia Sekolah Menengah Kebangsaan Tinggi Melaka	06.04.01～ 07.03.31	日本語教育を始めたばかりで、日本語国際センターの教材寄贈プログラムを待っていたのでは授業が行えないような機関を対象とした緊急立ち上げ支援事業。今年度はMela c c a High School（中等教育機関）とKolej Universiti Sains Dan Teknologi Malaysia（高等教育機関）の2校に合計60点の寄贈を行った。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
13	第3回高校生日本語弁論大会	マレーシア教育省、クアラルンプール日本人会、マレーシア日本人商工会議所、在馬日大使館	クアラルンプール日本人会	06.04.23～ 06.04.24	2004年から開始して今年で3回め。全寮制中等学校、民間などで日本語を学習している15歳から18歳までの高校生で滞日経験過去5年以内で一週間までで親のどちらかが日本語母語話者でないことなどを資格要件として実施、原稿審査を経て出場者10名が日本招聘旅行を目指してスピーチを行った。なお、この大会前日に関西国際センター主催の「高校生訪日研修」選考のため、筆記試験と面接試験を実施した。
14	第1回北部地域日本語教育キャラバン	ペナン日本語協会	ペナン日本語協会	06.06.24～ 06.06.25	マレーシア北部在住のマレーシア人および日本人日本語教師を対象に「授業に素材を取り入れる」をテーマに2日間にわたってセミナーを行った。参加者はのべ40名。
15	第1回東マレーシア日本語教育キャラバン	マレーシアサバ国立大学	マレーシアサバ大学	06.07.22～ 06.07.23	東マレーシア在住のマレーシア人および日本人日本語教師を対象に「授業に素材を取り入れる」をテーマとして2日間にわたって行った。参加者のべ20名。
16	お寿司ワークショップ	クアラルンプール日本人会、日馬和里レストラン、築地マート	クアラルンプール日本人会	06.07.30	日本語弁論大会一般の部クアラルンプール（地区大会）の審査時間を利用して行った。事前登録をしたうえで7つのグループに分かれて、巻き寿司の作り方についてワークショップを行った。当日はクアラルンプール日本人会内のレストランのシェフがデモンストレーション、指導を行い、またクアラルンプール日本人会の協力により各グループに指導助手としてのボランティア6名が参加した。
17	日本語弁論大会一般の部	クアラルンプール日本人会、マレーシア日本人商工会議所、在マレーシア日本国大使館	クアラルンプール日本人会	06.07.30～ 06.09.03	1985年から始まって今回22回めとなる。18歳以上のマレーシア人で過去5年以内で日本滞在歴3ヶ月以内の日本語学習者を対象に、原稿審査を通過した出場者10名がスピーチを行った。クアラルンプール地区大会の上位4名が全国大会に進み、ペナン地区大会、イポー地区大会からの各3名をあわせた合計10名が日本招聘旅行を目指してスピーチを行った。全国大会では優勝者と準優勝者に社団法人日本在外企業協会招聘の日本研修旅行が授与された。
18	日本語弁論大会イポー地区	ペラ馬日友好協会、在ペナン日本総領事館	Hotel Excelsior	06.08.05	今年で20回めとなる。18歳以上で過去5年以内で滞日歴3ヶ月以内のマレーシア人を対象としている。出場者9名が全国大会を目指してスピーチを行った。上位3名が全国大会の出場権を得た。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
19	日本語弁論大会 ペナン地区	ペナン日本語協会、マレーシア日本協会、在ペナン日本総領事館	Caring Society Complex	06.08.12	今年で27回めとなる。二つの部門で構成され、学習時間が100時間以内の学生部門とそれ以外で18歳以上で過去5年以内で滞日歴3ヶ月以内の一般部門でマレーシア人を対象としている。学生部門に出場者4名、一般部門に出場者14名が全国大会を目指してスピーチを行った。一般の部上位3名が全国大会の出場権を得た。共催者として賞品購入代の一部と会場代を負担した。
20	第1回東海岸・南部地域日本語教育キャラバン		クアラルンプール日本文化センター	06.08.12～ 06.08.13	東海岸地域、南部地域、クアラルンプールおよび近郊在住のマレーシア人および日本人日本語教師を対象に「授業に素材を取り入れる」をテーマとして2日間にわたって行った。参加者はのべ40名。
21	漢字ワーク ショップ	マレーシア日本語協会、大阪産業大学	マレーシア日本語協会	06.08.24～ 06.08.24	「みんなの日本語・漢字」の著者の一人である新矢 麻紀子（大阪産業大学助教授）を迎えてクアラルンプールおよび近郊の日本語教師を対象に同教材の効果的な使い方やマレーシア人学習者に漢字を会得させる知識・技術を高めるためのワークショップを行った。マレーシア日本語協会と共催。
22	日本語すしクイズ大会	クアラルンプール日本人会	クアラルンプール日本人会	06.09.03	平成18年度日本語弁論大会一般の部（全国大会）の審査会議の間に実施。日頃の日本語学習の成果を楽しい経験につなげるため、日本語弁論大会の参加者・聴衆を対象に日本語・日本文化に関するクイズイベントを実施。日本人との交流もおこなえるよう、日本人とマレーシア人をミックスしたチーム編成にし、力を合わせて解答を導くよう、問題を工夫した。正解数や解答スピードに応じてランク付けされた「すし」が食べられる設定とした。
23	日本語フェスティバル	マレーシア日本語協会、在マレーシア日本国大使館、マラヤ大学言語学部	マラヤ大学言語学部	06.09.09～ 06.09.10	マレーシア日本語協会／マラヤ大学言語学部／在マレーシア大使館との共催事業。日本語および日本文化に関するレクチャー、レベル別日本語講座のほか、俳句、料理など日本文化紹介を通じて、初期日本語学習者、未学習者により日本語に対する関心を喚起させるための事業を行った。

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
24	日本語弁論大会 予備教育課程の部	クアラルンプール日本人会、マレーシア日本人商工会議所、ALEPS 在マレーシア大使館、在ベナン総領事館、東方政策元留学生同窓会、マレーシア元留日学生協会	クアラルンプール日本人会	06.09.17	一般の部から独立して今年で11回めになる。マレーシアで日本の大学、高専に留学するために、予備教育を行っている機関で日本語を学習している2年生を対象に、各機関より3名ずつ、計12名の出場者がスピーチを行った。優勝者には在マレーシア日本国大使館より大使杯が授与された。
25	中等教育教材 ワークショップ (東海岸)	マレーシア教育省	Sekolah Menengah Sains Dungun	06.09.20～ 06.09.20	東マレーシア地域で近隣にある平成18年度日本語国際センター教材寄贈先機関（中等教育）の日本語教師を対象に寄贈教材の有効的な使い方についてワークショップを行った。
26	日本語教育研究 発表会・浦和研 修報告会	教育省国際言語 教員養成学院 (IPBA) 国際言語教員養成所(I P B A)	国際言語教員養成所	06.10.07～ 06.10.07	今回で3回目となるマレーシアにおける日本語教育の研究発表、海外日本語教師研修より帰国後の報告を行うセミナー。当日は実践報告1件、公募によるポスター発表3件、日本語国際センター海外日本語教師研修に参加した日本語教師からの発表などを行った。参加者約100名。
27	第2回東マレー シア日本語教育 キャラバン	クチン全寮制科 学中等学校	Sekolah Menengar Sains Kuching	06.11.11～ 06.11.12	東マレーシアに在住のマレーシア人日本語教師（ノン・ネイティブ）を対象に日本語能力のブラッシュアップを目的に行った。外部より客員講師として大和 えり子（マレーシアプトラ大学）を招いて、日本語で説明する、日本語で考えを述べるなどの活動などを行った。
28	第2回北部地域 日本語教育キャ ラバン	ベナン日本語協 会	ベナン日本語協会	07.01.20～ 07.01.21	北部地域に在住のマレーシア人日本語教師（ノン・ネイティブ）を対象に日本語能力のブラッシュアップを目的に行った。外部より客員講師として大和 えり子（マレーシアプトラ大学）を招いて、日本語で説明する、日本語で考えを述べるなどの活動などを行った。
29	第2回東海岸・ 南部地域日本語 教育キャラバン		クアラルンプール日本文化センター	07.02.10～ 07.02.11	東海岸地域、南部地域、クアラルンプールおよび近郊に在住のマレーシア人日本語教師（ノン・ネイティブ）を対象に日本語能力のブラッシュアップを目的に行った。外部より客員講師として大和 えり子（マレーシアプトラ大学）を招いて、日本語で説明する、日本語で考えを述べるなどの活動などを行った。
30	日本語教育セミ ナー	マラヤ大学予備 教育部 (PAS, AAJ) 日本留学 特別コース	マラヤ大学予備 教育部日本留学 特別コース	07.03.03～ 07.03.04	マレーシア全域の日本語教師を対象に、日本語教育セミナーを実施した。基調講演は早稲田大学院小林ミナ教授を招聘し「コミュニケーションのための日本語教育文法を考える」をテーマに基調講演、分科会を行った。2日間のべ150名参加

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
31	マンガ日本語講座		クアラルンプール日本文化センター	07.03.10～ 07.03.17	初級レベルを修了した程度の日本語学習者（日本語能力試験3級程度）を対象に、日本語で書かれたマンガを主な教材として、話し言葉や男ことば・女ことば、擬音語や擬態語をマンガを通じて学習した。初級修了レベルであっても、ある程度マンガの中の日本語がわかるようになることを目的とした。
【図書館運営】					
32	図書館用図書購入費		クアラルンプール日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	人文社会科学、文学、劇映画DVDなどを購入
33	図書館用日本語教材購入		クアラルンプール日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	日本語教育関係研究書、教材、映像資料などを購入
34	図書教材購入（SRC）日本語教育図書教材サテライトリソースセンター	ペナン日本語協会、ペラ馬日友好協会	ペナン日本語協会 ペラ馬日友好協会	06.04.01～ 07.03.31	クアラルンプール日本文化センター図書館の分館として、ペナンとイポーに「サテライト・リソースセンター」を設置、最新教材等へのアクセスを付近の日本語教師に提供。イポーについては平成18年度前期をもって終了した。ペナンについても平成18年度をもって終了。
【出版・広報】					
35	広報誌TEMAN BARU発行			06.04.01～ 07.03.31	クアラルンプール日本文化センターのニュースレターを隔月で発行。18年度は計6号を発行した。
36	事業広報			06.04.01～ 07.03.31	事業広報の一環として、以下を実施した。古武道レクチャー・デモンストレーションにおいてTシャツを製作。平成19年度公募プログラム広報用ポスターの作成。クアラルンプール日本文化センターウェブサイトのリニューアル
37	日本語教育広報誌（ブンガラヤ）		クアラルンプール日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	日本語教育関係者を対象としたニューズレターで年4回発行。発行部数1,000部 マレーシア国内の日本語教師、教育機関、シンガポール、ブルネイ国内の日本語教師、機関にも配布。
【教室事業】					
38	日本語講座		クアラルンプール日本文化センター	06.05.23～ 07.03.30	民間の日本語教育機関ではあまりクラスが開講されない中級・上級レベルの日本語学習者を対象にレベル別に3つのクラスを開講した。中級レベルでは文化中級日本語Ⅰ、Ⅱの教科書を使い、上級クラスでは自主作成教材を使い、学習者の読む、書く、話す、聞くの4技能がバランスよく伸びるようにクラス運営を行った。

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【その他】				
39	学校・団体による事務所訪問	クアラルンプール日本文化センター	クアラルンプール日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	クアラルンプール日本文化センターに学校訪問を受け入れ、日本文化に関するレクチャーデモンストレーション、ワークショップなどを行った。平成18年度は9件実施。
40	センター内イベント（七夕）	クアラルンプール日本文化センター	クアラルンプール日本文化センター	06.07.04～ 06.07.17	センターロビーに笹を飾り、来場者の方々に短冊に自由に願い事を書いて吊るしてもらった。
41	サラワクにおける折り紙デモ	Tae中等学校	Tae中等学校	06.07.10～ 06.07.10	サラワク州のクチン近郊の町の中学校（Tae中等学校）で、折り紙のデモンストレーションを実施。
42	マラヤ大学 Foreign Language Festival	マラヤ大学言語学部日本語学科	マラヤ大学	07.03.02～ 07.03.09	マラヤ大学言語学部によって開催された”Foreign Language Festival”に対する助成。日本映画の上映会を共催した他、おにぎりワークショップ、折り紙ワークショップを助成した。
	【本部事業受入】				
43	H18日本語教育指導者養成（修士コース）	国際交流基金日本語国際センター	国際交流基金クアラルンプール日本文化センター	06.05.01～ 06.09.20	日本語教育指導者養成（修士コース）に参加するロキア・パイ（サラワク大学）に事前オリエンテーションをおこない、渡航に関することや研究課題について助言を行った。
44	日本語能力試験	マレーシア日本語協会、マレーシアサバ国立大学、ペナン日本語協会、ペラ馬日友好協会	ペナン日本語協会 ペラ馬日友好協会 マレーシアサバ大学 マレーシア日本語協会	06.06.01～ 07.03.31	日本語能力試験の実施機関との連絡、広報のほか、打合せなどで出張を行った。また日本語能力試験の受験者の増加、広報について反省と今後の対策について各実施機関の実務担当者を集めて会議を行った。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
45	小規模助成事業（ファイブ・アーツ・センター）	ファイブ・アーツ・センター	06.04.07～ 06.04.09	パフォーマンス・アートの公演・シンポジウム。主催はファイブ・アーツ・センター。4/12よりシンガポールで開催されるパフォーマンス・アートのイベント、“Future of Imagination”の開催に併せ、これに参加するアーティストをマレーシアへ招へいし、公演・シンポジウムを行うもの。日本から荒井真一氏を含め、総勢16カ国より21名+マレーシアのアーティストが参加した。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
46	マレーシア工科大学国際セミナー(助成)	マレーシア工科大学	06.04.13～ 06.04.15	マレーシア工科大学主催の国際セミナー。「LSP: EXPLORING NEW FRONTIERS」をテーマとして、日本語教育をはじめ、外国語、外国語教育に関する発表が行われた。発表者の一人である仁科 喜久子(東京工業大学教授)の招聘にあたり、旅費を助成した。
47	小規模助成事業(シンガポール舞台技術者協会)	シンガポール舞台技術者協会	06.04.14～ 06.04.16	シンガポール国立大学を会場に開催された、これからのアジアの劇場建築に関するシンポジウム。最終日の報告会は、同会場にて一般公開された。日本からは、可見市文化創造センター館長の桑谷哲男氏(前世田谷パブリックシアター技術課長)が参加したほか、香港・フィリピン・インドネシア・マレーシアからも参加者を集めた。
48	小規模助成事業(いけばなインターナショナル)	いけばなインターナショナル	06.06.08～ 06.06.09	日本から小原流の生け花講師3名を招聘し、いけばなインターナショナルの会員を対象にした講習会を行った。それとあわせ、首都圏の中学校、大学等の生徒・学生を対象とした生け花ワークショップも開催。
49	日研・知的小規模助成(マレーシア社会科学学会)	マレーシア社会科学学会	06.08.08～ 06.08.10	マレーシア社会科学学会(隔年開催)で設けられたセッション「マレーシアと日本との関係。過去と未来を考える」に招へいされた二名の教授の招へい旅費を助成。
50	マルチメディア大学国際セミナー(助成)	マルチメディア大学	06.08.21～ 06.08.22	マルチメディア大学主催の国際セミナー。「Multimedia Adventure in Languages Learning」をテーマに、日本語教育をはじめ各外国語教育におけるマルチメディア活用について議論がおこなわれた。才田 いずみ(東北大学教授)、海野多枝(東京外国語大学助教授)の招聘にあたり、旅費・謝金について助成を行った。
51	日研・知的小規模助成(IKMAS, UKM)	IKMAS, UKM マレーシア国民大学	06.08.21～ 06.08.24	各国持ち回りで開催されている国際会議「International Globalization Studies Network Conference」の第3回。東京大学の池本幸生教授を招へい経費を助成。池本教授は「ツーリズムとグローバリゼーション」というテーマで発表。
52	日研・知的小規模助成(USM NaHERI)	マレーシア科学大学	06.11.07～ 06.11.11	「高等教育政策研究とマネジメントに関する国際フォーラム」にインドシナ諸国から参加する研究者の旅費を助成。
53	マレーシア科学大学国際会議(助成)	マレーシア科学大学 言語翻訳センター	06.11.23～ 06.11.25	マレーシア科学大学言語翻訳センター主催の国際会議。「Current Practices in Curriculum and Materials Development」をテーマとして、日本語教育をはじめ、各外国語教育、外国語の研究者、教師が会議を通して意見交換、情報の共有を行った。才田 いずみ(東北大学教授)の招聘にあたり、謝金および旅費について助成を行った。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
54	シンガポール国立大学語学教育センター国際会議（助成）	シンガポール国立大学語学教育センター	06.12.07～ 06.12.09	シンガポール国立大学語学教育センター主催の国際会議。「Processes and Processes-orientation in Foreign Language and Learning」をテーマに日本語教育をはじめ、外国語教育の研究者、教師がお互いに情報、意見を交換、共有する場となった。基調講演者の一人である早稲田大学大学院川口義一教授の招聘にあたり、旅費について助成を行った。
55	シンガポール日本語教師の会 日本語教育セミナー（助成）	シンガポール日本語教師の会	06.12.10～ 06.12.10	シンガポール日本語教師の会主催のセミナー。「新しい表現指導－文法もわかって言いたいことも言える」をテーマに早稲田大学大学院川口義一教授を迎えて、講演を行った。講師謝金、市内交通費について助成を行った。
56	小規模助成事業（Tourniquet Productions）	Tourniquet Productions	07.01.19～ 07.01.28	四谷怪談を原作とした演劇公演”Okiku”に対する小規模助成（会場借料に対する助成）。Kuala Lumpur Performing Arts Centre, Pentas2において9回公演を実施。
57	小規模助成事業（New Era College）	New Era College	07.01.19～ 07.01.21	日本の人形劇団ブークのメンバーを招へいし、人形劇の小公演とワークショップを実施。対象は子供、教師、演劇指導者。主催者は、舞台芸術学科を持つ中華系のNew Era Collegeで、学内に完成したばかりのブラックボックス・シアターにて実施された。
58	小規模助成事業（The Necessary Stage Ltd）	The Necessary Stage Ltd	07.02.08～ 07.02.11	今年2回目を迎える、シンガポールの舞台芸術イベント、シンガポール・フリンジフェスティバルに参加した、パフォーマンス・アーティスト高橋朋子氏招へい経費に対する助成。高橋氏は、2/8-2/11にかけて、シンガポール美術館において、”Reset Button”と題する作品を上演した。
59	小規模助成事業（Multimedia University）	マルチメディア大学マラッカキャンパス	07.03.17～ 07.03.18	マラッカにあるマルチメディア大学の学生が主催する、アニメ、マンガ、コンピュータゲームのフェスティバル。昨年に引き続き今回が2回目の開催。日本のアニメキャラクターのコスプレコンテスト、ゲーム大会、同人マンガ雑誌の展示販売、フィギュアコンテストの他、日本から著名な声優、古谷徹氏を招聘し、講演も行った。
	【その他】			
60	中等教育シラバス改訂	マレーシア教育省	06.04.01～ 07.03.31	マレーシア教育省カリキュラム開発センターの依頼を受けて中等教育新シラバスについて当センター派遣専門家がアドバイザーとして作成会議に4回にわたって参加した。また完成した中学2年生用シラバスについて日本語への翻訳作業に協力した。
61	中等教育教科書改訂	マレーシア教育省	06.04.01～ 07.03.31	マレーシア教育省カリキュラム開発センターの依頼を受けて、新教科書作成会議に当センター派遣専門家がアドバイザーとして年4回にわたって参加したほか、会議前に教科書作成にあたって必要な知識を共有するため、ワークショップを実施した。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
62	中等教育日本語教師養成協力 (IPBA)	マレーシア教育省、国際言語教員養成学院 (IBPA)	06.04.01～ 07.03.31	マレーシア教育省の依頼を受けて、中等教育教員養成プログラムに当センター派遣専門家がアドバイザーとして協力した。
63	プロジェクトコンサルティング	マレーシアサバ国立大学	06.04.01～ 07.03.31	マレーシアサバ国立大学言語知識促進センター (UMS) で2004年度より行っている「指導項目見直しおよび評価方法検討プロジェクト」の勉強会にUMSの依頼によりアドバイザーとして当センター派遣専門家が参加した。
64	東南アジア日本語サミット	ジャカルタ日本文化センター パジャジャラン大学	06.06.23～ 06.06.24	「東南アジアにおける日本語教育の現状と展望～日本語運用の育成に向けて」をテーマとしてジャカルタ日本文化センター・インドネシア日本語教育学会等の主催でインドネシア日本語教育学会セミナーに発表者として当センター派遣専門家、マラヤ大学言語学部スラヤ准教授、シンガポール国立大学語学教育センターウォーカー泉主任講師が招聘され、当センターは旅費を負担した。
65	中等教育レジデンシャルスクール日本文化の日	マレーシア教育省	07.02.03～ 07.02.04	ブミプトラ (マレー系と先住民) のエリート養成校である全寮制中高等学校・レジデンシャルスクールのうち、日本語が教えられている学校からそれぞれ数名の生徒と教師が集まって2年に1度実施するもの。教師や生徒が主体となって、ゆかた着付やおにぎりコンテストなど日本文化に関するブースなどが出された。JFKLでは、すし日本語クイズの出展と、日本語スケッチコンテスト (学習した内容をもとに寸劇を作り演じる) への協力をおこなった。

シドニー日本文化センター

合計額 139,637,474円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	イン・ザ・ステルネス		シドニー日本文化センター	06.04.06～ 06.04.27	メルボルン在住の繊維造形アーティスト、太田奈緒美による繊維造形作品展。RMIT(メルボルン工科大学)で博士号を取得。沖縄の島を題材とした、テキスタイルと彫刻の中間的要素を持つユニークなアート作品を展示
2	ワンダーバス展示会		シドニー日本文化センター	06.05.05～ 06.05.29	2005年に本部の先駆的事业として行われた「ワンダーバスジャパン」の様子を伝える写真展。また、ワンダーバスの紹介ビデオも上映された。写真家は、2005年と2006年にワンダーバスに参加した、香庄謙一
3	90年代の絵画展(本部巡回展)		シドニー日本文化センター	06.06.07～ 06.06.30	現在、活躍中の現代若手作家がそれぞれのジャンルにおいて、どのようにその変化を理解し、絵画に取り組み新しい芸術表現を獲得しようとしたのかを、合計55点の絵画によって考察する。出展参加者は、村上隆、会田誠、奈良美智、越前谷嘉高など9名
4	「繋がり」書道展		シドニー日本文化センター	06.08.07～ 06.08.23	東京在住のアーティスト中山雅彦による墨絵展。筆を使った従来の墨絵作品とは一風異なり、指や草木など身近な自然に生えているものや通常墨絵には使用されないものを道具として使うことで、筆使いのテクニックとは異なる作風を表現。和傘や巻物など、約50点を展示
5	百田穂積・ヘレン展示会		シドニー日本文化センター	06.10.09～ 06.10.27	オーストラリアと日本の関係における、愛、芸術、人権活動、死、創造性、文化交流などで、オーストラリアで活動した日本人芸術家 百田穂積の没後30年の記念及び日豪交流年を記念した回顧展。百田氏が残した作品に、当時起こった出来事を写真で語る展示会。タイトルは、「HOMAGE-オーストラリアの日本人アーティスト、百田穂積の人生とそれを取り巻く人々の物語」とした
6	ちぎり絵展示会 & ワークショップ		シドニー日本文化センター	06.11.22～ 06.12.01	パース在住のアーティスト 睦子・ボナルドーによる「くみ絵」の展示会。日本の伝統芸のほり絵、ちぎり絵を元に日本の伝統工芸である和紙を使い、オーストラリアのワイルドフラワーや風景画を創作した作品50点を展示。ちぎり絵と手作り香水バックのワークショップも開催

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
7	氷山ルリの大航海 展示会	シアター・オブ・イメージ、劇団影法師	シドニー日本文化センター	07.02.16～ 07.03.16	氷山ルリが北極から南極に向かって旅をする物語「氷山ルリの大航海」(高円宮妃久子・文、飛鳥童・絵)が、日本の「劇団影法師」とオーストラリアの劇団「シアターオブイメージ」によって共同舞台化された。その公演に併せて、「フロム・ページ・トゥ・ステージ」として、絵本のイメージが舞台となるまでの軌跡を絵コンテ及びビデオにて展示
8	【公演】 日豪交流年関連 (ワラタ)	在パース日本総領事館	パースロイヤルショー	06.09.30～ 06.10.02	パースで開催された日豪交流年記念事業パースロイヤルショーに、箏・サクソ・パーカッションからなるフュージョン・トリオ「Waratah」を派遣。日本パピリオンにて演奏を行った
9	【講演・シンポジウム】 日豪フォーラム	マコーリー大学、早稲田大学、在シドニー日本総領事館	シドニー日本文化センター、ブレイク・ドーン法律事務所、ルナ・パーク	06.04.01～ 06.11.30	日本とオーストラリアが、アジア大洋州地域において国際協力の分野で果たすべき役割について話し合うことを目的とした4回シリーズの公開フォーラム。毎回日豪両国から1名ずつスピーカーを招き、講演と質疑応答を行った。日本からのスピーカーは、明石康(元国連事務次長)、伊勢崎賢治(元国連東ティモール暫定政府行政官)、中村哲(ベシヤワール会医療サービス総院長)、中馬清福(信濃毎日新聞社主筆)の4名
10	戦後日本文学と井上靖	シドニー大学	シドニー日本文化センター	06.05.03～ 06.05.03	井上靖記念文化財団からシドニー大学に対する井上靖全集の寄贈、および日本研究奨励のための井上靖賞の設立を記念して、井上靖の作品に関する講演会および映画上映会を開催。講演者は曾根博義・日本大学教授、また映画は「おろしや国酔夢譚」を上映
11	【映画】 フィルムライブラリー	オーストラリア、ニュージーランド、大洋州の各都市の公館	大洋州地域各地	06.04.01～ 07.03.31	在豪大及び各州の総領事館、在フィジー大、NZ大及び総領事館など9公館に日本映画フィルムを貸し出し。貸し出し本数 年35回、のべ50本
12	水曜映画会		シドニー日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	フィルムライブラリーの所蔵作品を利用して、毎週水曜日に日本映画の無料上映会を開催

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
13	巡回日本映画祭	JAL、ファーストリンクキューブ、The Lab、マッドマンなど、スポンサー14社。(シドニーのみ) 在オーストラリア公館 日豪友好協会	アレクサンダー図書館 グレーターユニオンシネマ リージェントシネマ 映像美術センター 国立図書館	06.10.23～ 06.12.22	第10回目を迎えた巡回日本映画祭。シドニーでは規模を拡大して19本を上映。巡回作品は、『スウィングガールズ』、『父と暮せば』、『砂の器』、『ガラスのうさぎ』、『チルソクの夏』。シドニーでは、このほか『Always 三丁目の夕日』、『花田少年史』、『早咲きの花』などを上映
14	日豪学生映画フォーラム	日本映画学校、シドニー工科大学、シドニー映画学校、アデレード大学など。	グレーターユニオンシネマ	06.12.04～ 06.12.04	豪州と日本の学生による卒業制作作品を上映し、若手の映画制作者の交流の場を提供。豪州側からは、豪州国立映画・テレビ&ラジオ学校、シドニー工科大学、シドニー映画学校、アデレード大学の4校が参加し、日本側からは日本映画学校及びシネビスシネマ映画祭が参加し、全部で11本を上映。今回は、第10回日本映画祭のプログラムに組み込み、無料イベントとした
	【日本語教育】				
15	日本語教育研修会支援	各州教育省、日本語教師会、私立学校協会他	日本語教師会など	06.04.01～ 07.03.31	各州で行われる日本語教師研修会等に、シドニー日本文化センターの講師が出講。平成18年度はNSW州2回、ACT1回、VIC州1回、SA州1回、WA州1回、QLD州2回、TAS州2回の合計10回の出講を実施
16	日本語教育補助教材制作	NSW州立美術館	シドニー日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	NSW州立美術館と共同で、日本の美術を題材にしたActivity Resourceを制作。初等教育段階から中等教育段階までで利用できることを目的にしている
17	ニューズレターWeb掲載費 (Dear Sensei)		シドニー日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	過去にシドニー日本文化センターで制作した「Activity Resource」や当センターで発行している季刊Newsletterに載せているアイデア集を、より有効活用してもらえるように、シドニー日本文化センターのWebsiteに掲載
18	オンライン日本語講座		シドニー日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	日本語を母語としない教師が自分の時間に日本語運用力の向上を図れるよう、オンラインによるベーシック日本語講座を開発。平成18年度は第2段階の開発に取り組む
19	高等教育支援 (共同研究)	ニュー・サウス・ウェールズ大学	各地の教育機関	06.04.01～ 07.03.31	ニューサウスウェールズ大学と連携して、オーストラリアにおける日本語教育事情と日本語教授法に関する共同研究を行う。特に初等・中等教育段階、高等教育段階間での日本語教育の連携等について調査を行う

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
20	VIC州特別支援	ビクトリア州教育省	ビクトリア州教育省ほか	06.04.01～ 07.03.31	平成17年度ビクトリア州教育訓練省付け日本語教育アドバイザーポスト打ち切り後の支援として、同州への教師研修会へのシドニー日本文化センター講師の出張派遣や関係機関との打ち合わせへの出張を行う
21	情報交流		コロンビア大学	06.08.01～ 06.08.10	オーストラリア国内だけでなく、世界の日本語教育事情についての情報収集を図るとともに、当国の日本語教育事情や当センターでの活動についての情報を発信すべく、シドニー日本文化センター講師が日本語教育世界大会（NY コロンビア大学）に出席、発表を行う
22	NSW州日本語弁論大会	在シドニー日本総領事館、ASICS、CANON、JALPAK、KINOKUNIYA、SONY	シドニー日本文化センター	06.09.02～ 06.09.02	全豪日本語弁論大会の予選を兼ねたNSW州日本語弁論大会。Senior High School部門、Open Beginner部門、Open部門、Background Speaker部門の4部門に分かれて、総勢約60名が参加
23	日本語教育短期研修会（10月）	各州教育省、私立学校協会、カトリック系学校団体等	シドニー日本文化センター	06.10.03～ 06.10.06	全豪及びNZの初中等教育機関の日本語教師を対象とし、日本語力・教授技術の向上を目的とした研修会。今回の研修では、Basicレベルの日本語運用力である日本語教師を対象とした
24	日本語発表会		シドニー日本文化センター	06.10.13～ 06.10.18	NSW州の幼児から高校生までが日頃の日本語学習の成果を、劇や歌など、それぞれ思い思いの形で発表する会。また、学習成果を絵画や工作などで表現する展示の1週間行う
25	全豪日本語弁論大会	在豪日本大使館、ASICS、CANON、JAL、JR東海、KINOKUNIYA、SONY	シドニー日本文化センター	06.10.21～ 06.10.21	各州の州予選大会を勝ち抜いた20名が4部門に分かれて競い合う全豪日本語決勝大会。今回で37回目を迎えた。多くの日本企業からのスポンサー協力を得ている
26	評価委員会	各州教育省、私立学校協会、カトリック系学校団体	シドニー日本文化センター	06.11.24～ 06.11.24	各州代表者や大学関係者を招き、それぞれの州での日本語教育の現状を聞くとともに、シドニー日本文化センターの日本語教育支援事業について評価・助言を行ってもらう場である
27	日本語教育短期研修会（1月）	各州教育省、私立学校協会、カトリック系学校団体	シドニー日本文化センター	07.01.15～ 07.01.19	オーストラリアおよびNZの中等後期課程で日本語を教えている日本語教師24名を対象にした1週間の短期集中研修。日本語運用力のブラッシュアップ、最新の日本文化事情、ITを使った教室活動などの内容を盛り込んだセッションを行う

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
28	NZ特別支援	NZ現代語教師会	NZ現代語教師会	06.07.02～ 06.07.05	NZオークランド地区の日本語教育アドバイザーポストの打ち切りに伴って、その後の継続的な支援を目的として、シドニー日本文化センターの講師を派遣。今回は、オークランドで行われたであるNZALT（NZ現代語教師会）のBiennale大会で、主任講師が2セッションを担当
	【図書館運営】				
29	図書館運営		シドニー日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	図書館運営。月曜から金曜まで毎日開館。月2回週末（土曜日）開館。図書貸し出し、レファレンスサービス、Web-Opacなどのサービスを提供
	【出版・広報】				
30	イベントマーケティング		シドニー日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	通年事業を通してのブローチャーなどの広報活動として支出
31	学術ジャーナル発行		シドニー日本文化センター	06.04.01～ 06.12.31	若手研究者の育成とネットワーク化を目的として、新しい学術ジャーナル『NEW VOICES』を創刊。発表機会の少ない博士課程の学生や若手研究者を対象に意見交換やネットワーク化の機会を提供する
32	ニューズレター発行		シドニー日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	季刊ニューズレター『OMUSUBI』を発行（年4回。各3000部）
	【教室事業】				
33	日本語講座		シドニー日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	中上級の日本語運用力を持つ一般の人を対象とした講座を3回（2006年5月～6月、9月～10月、2007年3月～4月）開いた。併せて2006年8月から、日本語初級講座を開講。
	【その他】				
34	ワンダーバスジャパン2006	各都市自治体や学校と共催。JAL、アシックス、トヨタ自動車など、スポンサー8社。	クイーンズランド州	06.05.12～ 06.05.29	日ごろ、日本文化に接する機会が少ない豪州国内の地方都市・町・村を巡回する総合的日本文化紹介キャラバン。北クイーンズランド州の6都市（ケアンズ、モスマン、タウンズビル、チャーターズタワー、ヒュエンデン、マウントアイザ）を訪れ、一芸に秀でたボランティア・パフォーマンスや地元日本語学習者、地元自治体などを中心に、和太鼓、南中ソーラン節、空手、習字、茶道など日本文化パフォーマンスを披露。また、現地の人々が一緒に参加できるワークショップや日本食（ラーメン）の試食なども行った

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
35	江戸伝統職人ワークショップ	在シドニー総領事館	シドニー日本文化センター	06.09.25～ 06.09.25	江戸すだれ、江戸べっ甲、おろし金、江戸提灯、江戸はさみ、江戸刺繍のそれぞれ6人の職人によるデモンストレーション
36	【本部事業受入】 日本語能力試験		各地の大学など	06.12.03～ 06.12.03	オーストラリア6都市で実施されている日本語能力試験を管轄。試験補助員などとして職員が出張

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
37	日本語教育セミナー助成		06.04.01～ 07.03.31	地方における研修会の拡充を図り、教師ネットワークの形成を支援するために、各州の関係機関が主催する日本語教師研修会などに、教師招聘費用及び地方在住教師の参加旅費を中心に助成を行う。1件採用
38	タスマニア・ライターズ・ワークショップ	タスマニア・ライターズ・センター	06.05.01～ 06.06.30	タスマニア・ライターズ・センターが主催するワークショップに日本からの参加者の渡航旅費の一部を助成
39	日本フェスティバル	日豪友好協会（アデレード）	06.05.02～ 06.05.09	豪日友好協会（アデレード）の主催する日本文化紹介のためのフェスティバルに対して助成
40	木村弓コンサート	エミネンス	06.07.02～ 06.07.07	ローカル助成として、2000豪ドルを支出。オーストラリア在住の若手音楽家によって結成されたアニメ・ゲームを主とするオーケストラ、エミネンスが千と千尋の神隠しの主題歌として有名な木村弓を招聘して、コンサートを開催
41	ブリスベン映画祭	ブリスベン映画祭事務局	06.08.02～ 06.08.13	ブリスベン映画祭に対して、上映権料、輸送料などの一部を助成
42	アデレード映画祭	アデレード国際映画祭事務局	07.02.22～ 07.03.04	アデレード映画祭に対して、上映権料、輸送料などの一部を助成
43	OUR Media国際会議	西シドニー大学	07.03.20～ 07.04.20	世界の市民メディアの活動と役割に関する国際会議に、日本からの参加者招へい、翻訳費などの一部を助成
	【会場提供】			
44	茶道ワークショップ	茶道裏千家・淡交会	06.04.29～ 06.04.29	茶道裏千家・淡交会による茶道のワークショップ
45	出倉秀夫の包丁式		06.06.14～ 06.06.14	シドニー在住の料理研究家 出倉秀男による、日本料理の伝統を今に伝える儀式「包丁式」

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
46	生け花デモンストレーション	生け花インターナショナル	06.09.04～ 06.09.04	日本より池坊教授を招聘して、生け花インターナショナルが展示及びデモンストレーションを開催

トロント日本文化センター

合計額 77,630,576円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	Marco Bohr 写真展		トロント日本文化センター	06.05.18～ 06.06.23	カナダで写真を学んだドイツ人写真家マルコ・ボアによる、日本の「ユニフォーム」をテーマにした写真40点を展示。同展はCONTACT・FOTO・FESTIVALのパンフレットの表紙を飾った。アイコン的存在にもなった。ボア氏は、日本人の仕事や生活に関するユニフォームとそれをまとう人々に焦点を当て、そこから見える日本の文化・生活、被写体となった人物の個性などを表現している。
2	Yumiko Katsuya 展		トロント日本文化センター	06.06.24～ 06.06.30	トロント在住の陶芸家で、茶道師範でもある勝谷 由美子の陶芸作品展。自作の茶道具を用いて、茶道のデモンストレーションも実施
3	Noriko Saito 展		トロント日本文化センター	06.07.12～ 06.08.18	1997年に続き、トロント日本文化センターにおける齊藤典子氏の二度目の展覧会、齊藤氏はアクリル等を使った抽象画の作家で、同氏は初期から「水」をテーマにして描き続けており、今回の展覧会は水の持つ普遍的な意味や水の惑星である地球に思いを巡らせる作品を展示。そのすべての作品の出発点が武満氏の音楽と言葉に因るものであり、今年が武満氏没後10年に当たるため、武満氏へのオマージュがサブタイトルとなっている。
4	Shojo Manga展		トロント日本文化センター	06.09.06～ 06.10.04	戦後から現在に至るまで日本の少女漫画界に最も貢献のあった23人の作家による200点余りの作品展。初日には、本展キュレーターの徳 雅美（カリフォルニア州立大学チーコ校準教授）による講演会も実施
5	Found in Translation 展		トロント日本文化センター	06.10.13～ 07.01.19	4人のカナダ人アーティストによる、日本の伝統的な素材（和紙、織物、染物など）を活かした作品の展示会。オープニング・レセプションでは、参加アーティストらによるパネルディスカッションと音楽の演奏も行った。
6	Masahiro Mori 展		トロント日本文化センター	07.02.01～ 07.05.05	森 正洋（陶磁器デザイナー）の陶磁器作品展。国内外で数々のデザイン賞を受賞し、生活文化をデザインする同氏の作品を展示

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【公演】				
7	Toronto Storytelling Festival	語りの会、Tronto Storytelling Festival	トロント日本文化センター	07.03.24～07.04.01	3月23日～4月1日まで開催された第29回 Toronto Story Telling Festival関連事業。当地日系StorytellersのKatari（語りの会）によるパフォーマンスを当センターイベントホールにて実施。「語りの会」メンバー5名がフェスティバルテーマにそって、太鼓や笛を交えた昔話、落語や創作アイヌ民話などを英語で語った。また尺八奏者2名の演奏もプログラムに組み込まれた。
	【講演・シンポジウム】				
8	コガワ&日塔出版記念事業	Penguin Canada Groundwood Books	トロント日本文化センター	06.05.26～06.05.26	ジョイ・コガワ（カナダ首相賞受賞作家）の作品『エミリー・カトー』、日塔 富夫（グラフィックデザイナー）の絵本『The Red Rock』の出版記念行事。Penguin CanadaおよびGroundwood Booksとの共催事業
9	多和田 葉子講演会		トロント日本文化センター	06.10.24～06.10.24	多和田 葉子（芥川賞作家）を迎え、2005年に『Kyoto Journal』で発表した「Is Europe Western?」を題材にして、多和田氏自身の作品をいくつか取り上げながら講演会および朗読会を実施
	【映画】				
10	ドキュメンタリーフィルム上映会		トロント日本文化センター	06.07.13～06.11.23	7月～11月の各第2・4木曜日の夜7時よりイベントホールにて、日本文化を紹介するドキュメンタリービデオ上映会を実施。全10回。上映ビデオはすべてトロント日本文化センター図書館所蔵作品
	【日本語教育】				
11	日本語教師情報交換会		トロント日本文化センター	06.11.21～06.11.21	オンタリオ州の日本語教育関係者を中心に、1. 高校生訪日研修参加者及び中高教員グループ招聘者の訪日体験の発表、2. ヨーク大学で2006年9月から開始している遠隔地日本語教育講座についての講義を実施
	【図書館運営】				
12	図書館運営		トロント日本文化センター	06.04.01～07.03.31	蔵書方針：一般カナダ人が気軽に来館したり、インターネット検索したりできる、日本関連蔵書・資料を有する図書館を目指しており、日本に関する幅広い情報・蔵書を収集している。言語は英語及び日本語の書籍、映像・音響資料とする（一部フランス語あり）。蔵書数：約13,000点（映像・音響資料含む）。来館者数：18,937人/年。貸し出し数：19,939件/年。リファレンス数：1,176件/年。新規会員登録者数：660件/年

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【その他】				
13	トロント国際映画祭関連事業 アジア・ナイト・レセプション	UNI JAPAN、 KOFIC、 JETRO 韓国映画振興協会 日本映像国際振興協会 日本貿易振興機構	トロント日本文化センター	06.09.10～ 06.09.10	06.09.07から06.09.16に開かれたトロント国際映画祭に合わせて、4社共催にて、映画監督・配給会社等関係者、メディア関係者、日系・韓国系コミュニティの著名人らを招待し、レセプションパーティーを開催
	【本部事業受入】				
14	桂小春團治カナダ古典落語公演	在カナダ日本大使館 在カルガリー総領事館 在モントリオール総領事館	カルガリー日系人会館 トロント日本文化センター モントリオール市立植物園ヘンリ・トーシャ講堂 在カナダ日本大使館	06.12.07～ 06.12.14	桂小春團治（落語家）による上方古典落語のカナダ巡回公演。12月7日のトロントでの公演の他、オタワ（9日）、モントリオール（11日）、カルガリー（13日）でも公演を実施

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
15	日本語遠隔地教育	ヨーク大学、セント・マリー大学	06.04.01～ 07.03.31	ヨーク大学の主導により行われている遠隔地日本語教育への支援（ビデオ会議方式の技術を利用した日本語講座）
16	高校生弁論大会	ジャイルズ・スクール	06.04.30～ 06.04.30	日本語を第三言語としてイマージョンプログラムを行っているジャイルズスクール主催の第二回高校生日本語弁論大会の経費の一部を助成
17	日本研究・知的交流部 海外事務所企画 開発事業	「モントリオール日本月間05 2006」実行委員会	06.05.31～ 06.06.01	在モントリオール総領事館主導による「モントリオール日本月間 05 2006」事業の一環として、マギル大学で5月1日に社会問題対話シンポジウムが「Sharing Experiences On Aging Societies : A Japan-Quebec Dialogue」というテーマで開かれた。日本とシカゴから20名以上の専門家が集い、両国間で課題となっている高齢化社会問題について話し合われた。日本側キーノート・スピーカーとして、産業医科大学の神代雅晴教授が講演を行った。
18	ケベック博・日本庭園事業	「モントリオール日本月間05 2006」実行委員会 ケベック博日本館実行委員会	06.08.09～ 06.08.27	ケベック博（ケベックシティ）の日本館内に製作・展示された「日本庭園」事業の経費の一部を助成。在モントリオール総領事館主導による「モントリオール日本月間05 2006」関連事業

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
19	(多和田葉子氏講演会 会モントリオール)	モントリオール大学	06.10.19～ 06.10.23	多和田葉子（芥川賞作家）を招き、モントリオール大学とクイーンズ大学で講演・朗読会、マギル大学でシンポジウム「Yoko Tawada: Cross-Cultural Encountres」を実施
20	能公演	カナダ「能」組織委員会	06.11.09～ 06.11.15	ROMの高円宮ギャラリー開設関連行事として、カナダ「能」組織委員会が日本より観世流能楽師である河村晴久氏を招き、ロイヤル・オンタリオ博物館（トロント）とカナダ文明博物館（ガティーン）にて講演を実施。
21	長谷川祐子講演会	パワープラント	06.11.10～ 06.11.10	パワー・プラントが開催するトロント国際アートフェアにて実施された、長谷川 祐子（キュレーター）による講演会を助成
22	日本週間支援事業 (アルバータ大学)	アルバータ大学	07.02.24～ 07.03.04	アルバータ大学にて行われた日本文化紹介行事の一環として、日本舞踊西川流より4名を日本から招待し、舞踊を披露
23	日本週間支援事業 (オタワ)	Ottawa Japanese Community Association オタワ日系コミュニ ティー・アソシエー ション	07.02.27～ 07.02.27	ニューヨーク在住の竹沢 恭子（ヴァイオリニスト）をオタワに招き、日加文化交流事業として、ピアノ・バイオリンのデュオコンサートを実施

サンパウロ日本文化センター

合計額 139,034,588円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	デザイン展	サンパウロ美術館、ブラジル日本移民百周年記念協会	サンパウロ美術館	06.12.12～ 07.01.14	国際交流基金海外巡回展『現代日本デザイン100選』展は日本のプロダクト・デザインの近年の傾向や特色を取上げ、約100点のデザイン製品により、今日の日本文化の新たな側面を紹介する事業である。展示の平行事業として、サンパウロ美術館小講堂にて特別講演会を在外事業の一環として実施した。ブラジル住宅博物館館長、アデリア・ボルジェスによる同講演会は『日本デザインの伝統と革新』をテーマに、あらゆる角度から日本のデザインの特徴を紹介した。講演会後には展示ツアーも実施した
	【公演】				
2	第62回FIAF国際フィルムアーカイブ連盟国際会議 オープニングセレモニーの音楽コンサート	ブラジル・シネマテーク、ブラジル連邦政府文化教育省、サンパウロ州政府文化局他	ブラジル・シネマテーク	06.04.23～ 06.04.30	FIAF 国際フィルムアーカイブ連盟は毎年、各国で国際会議を開催する。今年の第62回目会議はサンパウロで行なわれ、ブラジル・シネマテークの設立60周年を記念する事業となった。国際交流基金サンパウロ日本文化センターは在外事業の一環として、オープニングセレモニーを飾る音楽コンサートを主催。民族音楽グループ「マワカ」のポケットコンサートで、参加国の代表的な音楽を紹介、締めくくりには日本の音楽3曲を紹介し、翌年のFIAF会議が東京で行なわれることをアナウンスした
3	土笛とギターコンサート	レストラン新鳥	レストラン新鳥	06.06.10～ 06.06.11	日本のオカリナ奏者、麻生圭子さんとブラジルのクラシックギター奏者カミロ・カハラによるジョイントコンサート。麻生氏は武蔵野音楽大学器楽科フルート科を卒業、日本の音楽文化発展を願い、1988年にNPO法人「蒼の会」を設立。老後施設や保育園、学校や病院など、非営利団体を中心とした公演活動を行う傍ら、国際交流を目的とした海外での公演も企画している
4	フルート・チェロコンサート		サンパウロ日本文化センター	06.08.08～ 06.08.09	ニューヨーク在住のブラジル人フルート奏者セリナ・シャルリエによる公演。日本現代音楽、童謡、民謡などの名曲を独自に編曲してチェロとのデュオリサイタルをサンパウロ日本文化センターで実施した。また、在ポルトアレグレ駐在官事務所の要望で、同事務所管轄内のフロリアノポリス市でも実施した
5	「狂言」公演・ミニ講座	カンピナス大学芸術交流部学部演劇学科	カンピナス大学	06.08.25～ 06.09.17	狂言をブラジル風に再読した演劇作品。国際交流基金元アーティストフェローで演劇研究者、演出家柳生アリスの新作発表

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
6	「からくりとロボット」デモンストレーション	セスキ・サンパウロ商業連盟社会サービス	セスキ・ビラ・マリアーナ	06.10.15	平成18年度文化庁派遣文化交流使に指名された演出家Ikuo三橋（むごん劇かんばにい代表）による日本の伝統からくり人形とロボットによるパフォーマンス
7	マワカ10周年記念とDVDリリース	セスキ・サンパウロ商業連盟社会サービス	セスキ・ビラ・マリアーナ	06.11.15	世界の民族を紹介する「マワカ」グループは女性ボーカル7人、演奏者6人によって編成され、今年に設立10周年を記念して、ブラジル初のハイビジョンDVDを制作することとなった。本コンサートはそのリリースを目的とするもの。日本の「ソーラン節」、「安里屋ゆんた」、「蛸来い」なども披露
8	「軌跡」複合企画公演	サンパウロ州文化局、セスキ・サンパウロ商業連盟社会サービス	セスキ・サンジョゼドス・カンボス	07.03.02～ 07.03.31	日系ダンサー及びコレオグラファーのレチシア・セキトの企画事業。公演者の内なる世界から発生する日本に対する観念と外部から指摘される要素を再読して身体表現、映像、音楽、パフォーマンスを交差する複合的な試み
9	尺八コンサート		カシオエイラ音楽ホール	07.03.31	尺八奏者、邦楽研究者のシェン・リベイロを中心に、和楽器とジャズ・アンサンブルによる日本とブラジルのインストルメンタル音楽を紹介する事業。第1部は邦楽の名曲を紹介、第2部にはブラジル音楽（ボサノバ）を中心に紹介
【講演・シンポジウム】					
10	食文化シリーズ（味の知恵）	JBC出版社、ブラジル日本移民百周年記念協会	サンパウロ日本文化センター		サンパウロ日本文化センターではブラジル、とりわけサンパウロ市における日本食ブームを分析するとともに、日本人移民がブラジルの食卓に与えた影響、そして、ブラジル人が求めている日本食とは何か、を追求する企画を発足。アプローチは現象学、人類学などの分野を交差して、食文化評論家、学術専門家、著名なシェフなどを招いての文化講演会をシリーズで催すことにした
11	文化講座・三島由紀夫・演劇と映画の男		サンパウロ日本文化センター	06.07.10～ 06.08.01	三島由紀夫演劇美学における能楽、歌舞伎、西洋的影響を分析する講座。講師は基金元フェローとして国際日本文化研究センターで研究活動を行い、帰国後もポスト博士号取得、「映画と演劇の男・三島由紀夫」を出版（平成17年度出版協力プログラム対象案件）したダルシ・クサノ。講座は8回（各2時間半）にわたって実施、受講者は申し込み制で80人参加
12	文化講座戦後日本エロチシズムの破壊		サンパウロ日本文化センター	06.08.02～ 06.08.16	フランスの舞踏研究者、マルチアーティストであるヌーリット・マソン・セキネによる50年代から発展した日本の身体芸術の潮流を講義と映像インスタレーションによって分析する講座

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
13	文化講座20世紀末の思考革命・アートとポップの融合		サンパウロ日本文化センター	06.08.07～ 06.09.26	元国際交流基金フェローのクリスティーネ・グライナーによる1990年代日本の芸術の変遷を分析する複合的講座。身体芸術記号論を中心軸として、現代美術、ポップカルチャー、映像美学に見られる今日の日本文化を分析。サンパウロ日本文化センターにおける文化講座実施要望が高まり参加希望者が多数出たことから、2部制を導入
14	講演会「江戸時代の絵画の多様性とその意味」		サンパウロ日本文化センター	06.08.29	国際交流基金本部助成対象事業「第17回全伯日本語日本文学日本文化大学教師学会」(主催:サンパウロ大学日本文化研究所)の複合企画として実現した講演会。同学会に参加した国際日本文化研究センター早川聞多による講演
15	Valeria Melo 講演	在レシフェ日本総領事館、国際交流基金サンパウロ日本文化センター、ベルナンブコ州文化教育局	※在レシフェ日本総領事館	06.09.13	平成16年度国際交流基金フェロー、Valeria Melo (セアラ州立大学)を招いて日本の教育事情に関する文化講演会をレシフェにて実施
16	日本思想に関する第一回討論会(西洋と東洋の出会い-京都学派の遺したもの)		サンパウロ日本文化センター	06.09.28	サンパウロ・カトリック大学、カンピーナス大学で教鞭をとるZeljko Loparic教授を中心とする日本思想研究者グループによる討論会。京都の花園大学よりJeff Shore教授を招聘し、同氏・Loparic教授を含む計8名にて講演
17	能楽ワークショップ・公演(在外事業・ブラジル)	ブラジル日本大使館	※ブラジル大学	06.10.20～ 06.10.21	国際交流基金元フェローシップ、能楽研究者のアンジェラ・永井の派遣により、能楽についての講演会、ワークショップ、デモンストレーションの実施。在ブラジル大使館企画の日本月間事業の一環として協力
18	遭遇点：新たな日本研究		サンパウロ日本文化センター	06.10.20～ 06.10.20	大学院修士課程・博士課程・博士後課程の研究者達が集い、互いの研究内容発表および情報交換の場として国際交流基金サンパウロ日本文化センターを提供。講演者は計6名、専門分野も仏教・仏像から映画・アニメまで幅広い内容
19	少女漫画講演会(在米日本専門家南米派遣事業)	JBC出版社	サンパウロ日本文化センター	06.11.01	国際交流基金ニューヨーク事務所の在米日本専門家中南米派遣事業の一環として実施され、徳雅美(カリフォルニア州立大学チーコ校準教授)が派遣された。視覚文化社会における日本のマンガの影響を分析。また、サンパウロ日本文化センターでは「ブラジルにおける少女漫画の歴史」をパネル化して展示するほか、コスプレファッションショーも企画

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
20	太田恵美子先生による教育技術方法論		サンパウロ日本文化センター	07.02.14～ 07.02.14	元公立学校教師、NPO法人グローバル・ドリーム・ビジョン・インターアクション理事長の太田恵美子先生による、教育問題をテーマとした講演会
21	JUM NAKAO		サンパウロ日本文化センター	07.03.02	ブラジルのファッション界を風靡した注目の日系3世のスタイリスト、ジュン・ナカオの作品は世界的にも注目されるようになってきた。2008年にはブラジル日本移民百周年記念事業の一環として東京での講演会が準備されている。それに先駆けて、サンパウロ日本文化センターではライブ音楽を交え、映像、画像、デッサンなどの上映による複合講演会を実施し、観客から絶賛された。講演のタイトルは「ジュン・ナカオと見え隠れのファッション」
22	ジャポニズム		サンパウロ日本文化センター	07.03.05～ 07.03.28	講師にLUIZ CARLOS DA SILVA DANTAS（カンピーナス州立大学大学院課程教授）を迎え、同時にコレオグラファーのDENISE CURTOUKEによるダンス実習講座で構成したミニ講座。DANTASはエクス・マルセイユ第1大学大学院を終えた後、現職。文学理論及び文学評論について教鞭をとっている。一方CURTOUKEは日本で舞踏家田中泯の「舞塾」に参加した経験があり、ドイツ、スペイン、イギリスなどでもソロ公演を催しているダンサー及びコレオグラファーである
	【映画】				
23	日本記録映画特集	ブラジルシネマテーク	ブラジルシネマテーク／サンパウロ日本文化センター	06.08.15～ 06.08.27	日本映画研究者、英国リード大学ワールドシネマセンター所長を務めるルシア・ナジブ博士による文化講演会（テーマは「日本の記録映画の展望・原一男の世界を中心に」）。同時並行企画「日本の記録映画の展望」（国際交流基金本部主催事業）の一環として実施。講演会には「吉田喜重が語る小津さんの映画」を上映、ナジブ教授によるコメント
24	映画特集「いつもシネマ」		サンパウロ日本文化センター	06.10.03～ 07.03.29	ブラジルFL所蔵作品を定期的上映する企画を開始。「森の学校」、「阿修羅のごとく」、「アドレナリン・ドライブ」、「どら平太」、「はつ恋」、「ロボコン」など新作未公開映画を紹介。2007年に入ってからには新作「ウォーター・ボーイズ」、名作の「日本の黒い夏」、「砂の器」を上映

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
25	「国境を横断する視線」記録映画		サンパウロ日本文化センター	06.11.08～ 06.11.10	生まれ育った土地から追い立てられ、離散を余儀なくされた人々の移動、そしてそれによって生じる様々な文化的交差に視線を向けて日本人移民が直面した環境と風土の違いによる摩擦、日系子弟出稼ぎ労働者が日本で発見する行き詰まり、そして在伯日系アーティストが表現で訴える世界観をテーマとした記録映画特集。短編、中篇9本によって構成
	【日本語教育】				
26	大学研究会（日本語教育）		サンパウロ日本文化センター	06.04.01～ 07.03.31	ブラジル国内の日本語教師用に、ポルトガル語・日本語によるバイリンガル日本語教育マニュアルを作成
27	CEL・CELEM 教師研修（初任者）	サンパウロ州教育局、パラナ州教育局	サンパウロ日本文化センター	06.04.26～ 06.04.28	サンパウロおよびパラナ両州教育局の運営する州立学校（中等教育課程）の課外講座としての日本語講座の奨励協力事業として、その教師の定期的研修（初任者レベル）を実施
28	公教育日本語支援事業（ポスターコンクール）	サンパウロ州教育局、パラナ州教育局、日本語学校等	サンパウロ日本文化センター	06.09.01～ 06.11.15	サンパウロ、パラナ両州教育局運営の日本語講座（CEL・CELEM）を中心として、中等教育課程で日本語講座を有する学校に対し、日本語講座の広報・学習奨励として、日本語学習呼びかけのポスター・絵のコンクールを行ない、優勝者をはじめとする入賞作品の絵をカレンダーにして、参加校を含め、全国の日本語学校に配布した
29	CEL・CELEM 教師研修（上級）	サンパウロ州教育局、パラナ州教育局	サンパウロ日本文化センター	06.09.28～ 06.09.29	サンパウロおよびパラナ両州教育局の運営する州立学校（中等教育課程）の課外講座としての日本語講座の奨励協力事業として、その教師の定期的研修（上級レベル）を実施
30	CEL・CELEM 学生研修	サンパウロ州教育局、パラナ州教育局	サンパウロ日本文化センター	06.11.14～ 06.11.15	サンパウロ、パラナ両州教育局運営の中等教育課程日本語講座の学習者支援、学習奨励として、成績優秀な学習者を選抜して、サンパウロで研修を実施
31	日本語スピーチコンテスト全国大会		サンパウロ日本文化センター	06.11.25	ブラジル各州（全8地区）で行なわれる弁論大会で優秀な成績を修めた者を招き、全国大会を実施。一部の地区大会の支援を行なった
32	公教育日本語支援事業（全国大学生）		サンパウロ日本文化センター	07.01.08～ 07.01.19	ブラジル全国23の大学日本語講座より各1名を選抜してサンパウロ日本文化センターでのグループ集中講座に参加させ最新の教材と自律学習への指針を与えると同時に、各地大学日本語講座の交流と活性化を図った

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
33	南米・ブラジル 日本語教育巡回 セミナー	在ボリビア大使館、在キューバ大使館、在ドミニカ大使館、在ベネズエラ大使館及び各国の日本語教師会等	ハバナ大学他	07.01.27～ 07.02.28	当該国または近隣国の日本語教師の質的向上を図るため、サンパウロ日本文化センターの専任講師が教授法などに関する教師研修を実施
34	ブラジル・カラ オケ日本語学習 キャラバン	開催各地の日本人会及び日本語学校、各地の在外公館	ブラジル日本文化協会他	07.02.03～ 07.03.11	ブラジル国内数カ所の拠点地域へ出かけて行き、ブラジルで日本語を学ぶ学習者の大多数を占める中学生・高校生および大学生の若者に対し、日本の若者の歌を通じて日本語を学ぶ楽しさを伝え、現場の先生方へは歌を通じた教授活動のデモンストレーションを行なった。あわせて現地で「ブラジルの若者による日本の歌カラオケコンテスト」及び「教授活動デモンストレーションコンテスト」を実施し、優秀者数名ずつを選抜し、サンパウロで全国大会を実施
35	【図書館運営】 図書館運営		サンパウロ日本文化センター		図書館における閲覧、貸し出し、各種照会対応サービスを行なった。年間入館者数13,485名、貸し出し冊数25,001冊（うち図書16,709冊）、所蔵図書数：和書8,096冊、洋書：5,641冊、視聴覚資料1,871部
36	【出版・広報】 ホームページ管理・電子マーケティング事業案内				ホームページ、電子マーケティングによる広報活動。サンパウロ日本文化センターのイベント紹介。各種国際交流基金プログラム、事業、イベント情報、図書館等をポルトガル語で紹介。平成18年度(年間)アクセス回数462,560、ページビュー数7,400,703
37	ニュースレター 発行費(トビラ)				サンパウロ日本文化センター事業広報季刊誌として、Aquarelaに代わり新規に出版することとしたTobiraは毎回1万部を発行、ブラジル国内在外公館をはじめ、主要文化機関及びサンパウロ日本文化センターマーケティングリストへ無料配布をしている。電子マーケティング速報と併せて、インタビュー、事後報告、向こう3ヶ月間の事業案内を中心に紹介している
38	日本研究ジャーナル発行				日本研究に関する記事の原稿執筆料

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【その他】				
39	映像記録 楠野隆夫暗黒舞踏史料収集	Vitae財団		06.05.01～ 06.07.31	2006年ブラジル・ビタエ財団文化芸術事業促進プログラムに推薦された案件に対する援助。企画者は演劇プロデューサーマツカ・ヒデキ氏。1970年代後半にブラジルに移住した日本人舞踏コレオグラファー楠野隆夫の軌跡をたどって、同氏がブラジルの舞台芸術に与えた影響をインタビューや稽古・作品のシーンを通じて紹介。楠野氏はブラジルの多くの演劇関係賞を獲得して、2001年に死去。映像史料はブラジル国内の演劇研究所、大学図書館に寄贈される
40	T P A M関係者との意見交換		サンパウロ日本文化センター		エリアーネ・パレイラス（ウジミナス製鉄所文化センター）、マルコス・マントゥアン（ブラジル銀行文化センターサンパウロ総合ディレクター）、ジョエル・ナイマイエル・パドルラ（SESCサンパウロ商業連盟社会サービス文化事業専務取締役）をブラジル代表として、東京芸術交流部見本市に派遣。出発前の事前打ち合わせ、及び意見交換を兼ねての会議

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
41	CEL・CELEM勉強会	州立学校日本語講座	06.04.01～ 07.03.31	サンパウロ、パラナ両州教育局運営の州立学校日本語講座の教師に対する、日本語教育、日本語の授業やテクニクに関する勉強会を行なう会。CEL（サンパウロ州）は月に一回集まり、3ヵ月に一回サンパウロ日本文化センターの講師が指導している。CELEM（パラナ州）は、年10回行なわれ、同じく3ヵ月に一回、国際交流基金から講師を派遣
	【文化備品・視聴覚資料貸出】			
42	図書ビエンナーレ	在ポルトアレグレ駐在官事務所	06.10.01～ 06.10.30	ポルトアレグレ図書ビエンナーレへの日本関係図書の貸し出し及び展示
	【その他】			
43	日本祭り	ブラジル日本都道府県人会連合会	06.07.15～ 06.07.23	第9回日本祭り（サンパウロ）に参加。日本総領事館のブース内で国際交流基金サンパウロ日本文化センター事業を紹介、フェローシップなど各種プログラムの案内も実施

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
44	NOI SM	セスキ商業連盟社会サービス	07.02.08～ 07.02.09	文化庁派遣によるノイズム（金森譲監督振り付け）のサンパウロ公演に対する便宜供与として、国際交流基金サンパウロ日本文化センター職員を通訳として派遣。サンパウロで紹介された作品は「NINA-物質化する生け贄」。劇場はSESCPinheiros

マニラ事務所

合計額 34,214,634円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	廣田 緑・現代美術展『パサール・市場・タリパバ』	グリーン・パパイア・アートギャラリー	グリーン・パパイア・アートギャラリー	06.08.03～ 06.08.15	インドネシア在住の日本人美術家、廣田 緑による品物の交換をテーマにした現代美術展
	【公演】				
2	オペラ『マダム・バタフライとプッチーニの夕べ』	フィリピン文化センター、フィリピン・オペラ・カンパニー、ストーリーレーン	フィリピン文化センター	06.07.28～ 06.07.29	プッチーニのオペラ『ラ・ボエーム』、『トゥーランドット』、『トスカ』の中のアリア、『蝶々夫人』の名場面の上演。指揮：篠崎 靖男、演奏：フィリピン交響楽団
3	よさこいソーラン in レイテ	レイテ・ノーマル大学、パロ市	パロ市 レイテ・ノーマル大学	06.08.04～ 06.08.05	第2次世界大戦中、マッカーサーが再上陸したレイテ島パロ市からの招待を受け、同市主催フィエスタにて、日比の日本語教師らによる「よさこいソーラン」を披露。タクロバンでも公演
4	日比共同制作現代演劇『バケレッタ』	タンハラン・フィリピーノ、シナーグ・アート・センター	シナーグ・アート・センター、フィリピン文化センター	06.10.20～ 06.11.26	鄭 義信脚本／演出による、劇団タンハラン・フィリピーノのホラー喜劇『バケレッタ』上演
5	現代演劇『真夜中の弥次さん喜多さん』	KUDAN Project	フランシスコ・サンチャゴ・ホール	06.10.27～ 06.10.29	KUDAN Projectの『真夜中の弥次さん喜多さん』の上演。原作：しりあがり 寿、脚本・演出：天野 天街
6	日比友好歌謡公演	日本艶歌歌謡協会、マニラ会、マニラ市	フィラムライフ講堂	06.11.27～ 06.11.27	日本艶歌歌謡協会主催の津山 洋子、高樹 一郎ほか出演コンサートの共催
7	現代演劇『フィリピン・ベッドタイム・ストーリーズ』	燐光群、フィリピン文化センター、シナーグ・アーツ財団	シナーグ・アーツ・スタジオ、フィリピン文化センター	07.02.17～ 07.02.25	劇団燐光群による、ベッドをドラマの舞台とする日比俳優競演の『フィリピン・ベッド・タイム・ストーリー』の上演。芸術監督：坂手 洋二、演出：吉田 智久
	【日本語教育】				
8	日本語教育研究交流会		マニラ事務所	06.04.07～ 07.03.03	日本語教育およびその周辺領域における分野の実践/研究月例報告会。H18年度は8回開催。
9	第3回フィリピン日本語教師フォーラム		JICAフィリピン事務所	06.05.27～ 06.05.28	日本語教育の実践報告、研究発表、ネットワーキングのための日本語教師フォーラムの開催

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
10	東南アジア日本語サミット	インドネシア日本語教育学会、ジャカルタ日本文化センター、パジャジャラン大学	パジャジャラン大学	06.06.23～ 06.06.24	インドネシアで開催された「東南アジア日本語サミット」へ、星 亨(マニラ事務所日本語教育アドバイザー)、アティーナ カバズール(同日本語教育コーディネータ)、ファラ クナナン(フィリピン大学講師)を派遣
11	第4回フィリピン日本語教師フォーラム		JICAフィリピン事務所	06.11.03～ 06.11.04	日本語教育の実践報告、研究発表、ネットワーキングのための日本語教師フォーラムの開催。テーマ「自己研修型日本語教師を目指して」
12	「第5回セブ日本語弁論大会」	セブ日本人会	S Mセブシティ会議場	07.01.27～ 07.01.27	「第5回セブ日本語弁論大会」の審査員として、星 亨(マニラ事務所日本語教育アドバイザー)が参加
13	日本語フィエスタ		クラム・シェル	07.03.03～ 07.03.03	マニラ、セブ、ダバオで予選を勝ち抜いた出場者による第34回日本語弁論大会をメインとした日本文化紹介事業
【図書館運営】					
14	図書室の運営		マニラ事務所	06.04.01～ 07.03.31	日本文化、日本語教育関係書籍・資料を揃えた図書室の運営
【出版・広報】					
15	ニューズレター『SUKI』発行		マニラ事務所	06.04.01～ 07.03.31	マニラ事務所の文化・芸術交流、日本研究・知的交流に関するニューズレター。年3回発行。発行部数6,000部
16	ニューズレター『みりえんだ』の発行		マニラ事務所	06.04.01～ 07.03.31	日本語教育ニューズレターの発行。年1回、1,000部、2色、使用言語は日本語・英語。日本語教育事業に関する主催・助成事業の紹介、特集記事等
17	事務所サイト運営		マニラ事務所	06.04.01～ 07.03.31	マニラ事務所のイベント、グラントなどを紹介するサイト
【その他】					
18	和菓子デモンストレーション	元日本留学生フィリピン連盟	フィリピン工科大学	06.07.19～ 06.07.19	元日本留学生フィリピン連盟創設30周年記念式典にあわせ和菓子づくりのデモンストレーション実施
【本部事業受入】					
19	コンドルズ公演	フィリピン文化センター	フィリピン文化センター	06.06.21～ 06.06.23	コンテンポラリーダンスグループ「コンドルズ」による公演の開催。あわせて石井 達郎(舞踊批評家)の講演を実施

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
20	世界遺産写真展	イースト大学、国立中央ルソン大学、サン・カルロス大学、国立西ヴィサヤス大学、フィリピン工科大学、ユチェンコ博物館、国立科学技術大学、ケソン市公園開発財団、ライシウム大学、レイテ・ノーマル大学、イロイロ博物館、ボホール工科大学、キャピトル大学イリガン・キャピトル大学、ミンダナオ国際大学	イースト大学、イリガン・キャピトル大学、イロイロ博物館、キャピトル大学、ケソン市講演開発財団、サン・カルロス大学、フィリピン工科大学、ボホール工科大学、ミンダナオ国際大学、ライシウム大学、レイテ・ノーマル大学、国立西ヴィサヤス大学、国立中央ルソン大学	06.07.19～ 07.02.25	三好 和義撮影『世界遺産写真展』を全国16カ所で開催
21	能レクチャー・デモンストレーション	フィリピン大学国際研究センター、静岡芸術大学	VOCAS カルロス・ロムロ・ホール、フィリピン大学バギオ校、フィリピン大学ミンダナオ校、フィリピン大学ロスバニョス校、ミンダナオ国際大学	06.07.23～ 06.08.30	梅若 猶彦(フィリピン大学国際研究センター(UPCIS)客員教授)ならびに、UPCIS能シアターアンサンブルによる日比友好年記念能公演。演目『翁』、『シーサー』
22	古武道	ポーディアム、モール・オブ・アジア、バギオ大学	バギオ大学、ポーディアム、モール・オブ・アジア	06.08.19～ 06.08.21	日本柔術の源流で最古の武道といわれる竹之内流を中心に、棒術、捕縄術、居合い抜き、柔道専門家によるデモンストレーション
23	第9回アジア漫画展	EDSAシャングリラ・プラザ・モール	EDSAシャングリラ・プラザ・モール	06.09.13～ 06.10.01	「アジアのIT事情」をテーマとする日本、フィリピン、中国、韓国、インド、インドネシア、マレーシア、タイの8カ国8名の漫画家による80作品の展示
24	日本映画祭	EDSAシャングリラ・プラザ・モール、フィリピン大学フィルムセンター、フィリピン文化センター、在セブ出張駐在官事務所	EDSAシャングリラ・プラザ・モール、アヤラセンター、フィリピン大学フィルムセンター、フィリピン文化センター	06.09.13～ 06.10.31	2000年以降製作の8作品(顔、どら平太、鏡の女、アカルイミライ、たそがれ清兵衛、笑う蛙、ふくろう、ナイン・ソウル)、鄭 義信脚本3作品(月はどっちに出ている、マークスの山、岸和田少年愚連隊)を上映

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
25	イスラム女性リーダー研修報告会	ピース・ウーマン・パートナーズ	EDSA シヤングリラ・プラザ・モール、フィリピン大学アジアセンター、マニラホテル	06.11.27～ 06.12.06	国際交流基金の助成により訪日したイスラム女性リーダーが、その成果を報告するため「平和への巡礼」と題する写真展、フォーラムを開催
26	『Junction between Filipinos & Japanerse: Transborder & Reminiscences』出版	クルトゥーラ・ウィカ社		07.03.03～ 07.03.03	アーノルド アズリン(フィリピン大学講師)、シルバノ・マフィオ(フィリピン大学准教授)ほかによる日比関係論文集の出版
27	日本語教師向けパイロット講座		マニラ事務所	06.03.11～ 07.03.29	H17年度から継続の「日本語教育研究コース」(第2～第4モジュール)ならびに、18年度から開始した「日本語教師のためのブラッシュアップコース」(第1モジュール)の日本語教師向け講座の運営

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
28	小規模助成(日本研究・知的交流):アテネオ・デ・マニラ大学	アテネオ・デ・マニラ大学	06.02.06～ 06.07.26	フォト・エッセイ・コンテスト「Shoot & Write」開催経費への助成
29	小規模助成(日本研究・知的交流):アテネオ・デ・マニラ大学	アテネオ・デ・マニラ大学	06.05.10～ 06.05.12	日本研究会議「比日関係:愛、金、環境、そして」開催経費助成
30	小規模助成(日本研究・知的交流):デラサール大学ユチェンコ・センター	デ・ラサール大学ユチェンコセンター	06.05.31～ 06.05.31	日本研究シンポジウム「フィリピンと日本 地域的、世界的文脈における新しいパートナーシップに向かって」の報告書出版経費助成
31	小規模助成(日本研究・知的交流):キャピトル大学	キャピトル大学	06.07.28～ 06.07.28	「カガヤン・デ・オロにおける日本研究レクチャー」開催経費助成
32	小規模助成(日本研究・知的交流):レイテ・ノーマル大学	レイテ・ノーマル大学	06.08.04～ 06.08.05	「日比友好50周年記念 社会科学・自然科学シンポジウム」開催経費助成

	事業名	対象機関	期間	事業内容
33	小規模助成（日本研究・知的交流）：フィリピン大学アジアセンター	フィリピン大学アジアセンター	06.08.16～ 06.08.16	「岐路に立つ比日関係：浮かび上がる二国間、地域的課題」に関する会議開催経費助成
34	小規模助成（文化・芸術）：世界ダンス連盟フィリピン支部	世界ダンス連盟フィリピン支部、フィリピン文化センター	06.08.17～ 06.08.20	「Wi-Fiボディ：第1回インディペンデント・コンテンポラリーダンス・フェスティバル」開催経費助成
35	小規模助成（文化・芸術）：アルマ・キント	DAWN、フィリピン大学ディリマン校、トマサ高齢者センター、教育省、フィリピン大学ミンダナオ校	06.08.18～ 06.12.31	ビジュアル・アーティストのアルマ・キントによるトラウマに焦点をあてたリサーチ、ワークショップ「ハウス・オブ・コンフォート」実施経費助成
36	小規模助成（日本研究・知的交流）：フィリピン大学ミンダナオ校	フィリピン大学ミンダナオ校	06.10.20～ 06.10.21	「第1回比日言語学会」開催経費助成
37	小規模助成（文化・芸術）：フィリピン大学国際研究センター	フィリピン大学国際研究センター	07.02.01～ 07.03.25	日比両国からユネスコ無形文化世界遺産に登録されている「能」と「フドゥフドゥ」に関する学会開催経費助成
38	小規模助成（文化・芸術）：フィリピン・フォト・ジャーナリズム・センター	フィリピン・フォト・ジャーナリズム・センター	07.02.01～ 07.03.25	「アジア－ヨーロッパ若手写真家会議2006」開催経費助成
39	小規模助成（文化・芸術）：ドナ・ミランダ	グリーン・パパイヤ・アートギャラリー	07.02.01～ 07.03.25	「横浜ダンスコレクションR 2007」に参加したドナ・ミランダ、ジェイ・クルスの作品『Beneath polka-dotted skies』製作経費助成。同作品は審査員賞を受賞
40	小規模助成（日本研究・知的交流）：アテネオ・デ・マニラ大学	アテネオ・デ・マニラ大学	07.02.01～ 07.02.03	アジアの文学とアイデンティティに関する国際会議開催経費への助成
41	小規模助成（文化・芸術）：アルンアルン・ダンス・サークル	アルンアルン・ダンス・サークル	07.02.16～ 07.02.28	南部フィリピンを代表するスルー諸島の舞踊「パンガーライ」の保存プロジェクト経費助成
42	小規模助成（文化・芸術）：フィリピン大学アジアセンター	フィリピン大学アジアセンター	07.02.24～ 07.02.24	南洋舞踊に関するレクチャー、リサイタル開催経費助成
43	小規模助成（文化・芸術）：イエイソン・バナル	イエイソン・バナル	07.03.09～ 07.05.09	アート・イニシアティブ・トウキョウで展覧会を行うイエイソン・バナルの作品製作経費助成

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
44	小規模助成（文化・芸術）：トゥパダ	トゥパダ	07.03.31～ 07.03.31	パフォーマンス・アートを紹介する「TAMA'07 トゥパダ・アクション&メディアアート」開催経費助成
45	小規模助成（日本研究・知的交流）：フィリピン大学アジアセンター	フィリピン大学アジアセンター、フィリピン大学イスラム研究所他	07.03.31～ 07.03.31	「アチェ紛争、ミンダナオ平和構築実施過程」に関する国際会議開催経費助成
46	小規模助成（日本研究・知的交流）：アテネオ・アジア研究センター	アテネオ・アジア研究センター	07.03.31～ 07.03.31	「アジアの民主主義：政治的過程、記憶、権利、伝統」に関する国際会議開催経費助成
	【後援事業】			
47	「夢=Dream」展	チャイルド・ファン ド・ジャパン	06.05.25～ 06.05.29	「夢=Dream」展～フィリピンと日本の子ども絵画展 in マニラ」への後援名義付与
48	「第5回セブ日本語 弁論大会」	セブ日本人会	07.01.27～ 07.01.27	
	【その他】			
49	日本の伝統音楽演奏 教授法、学習法に関する講演	フィリピン大学国際 研究センター	06.11.20～ 06.11.20	フィリピン大学国際研究センター主催の三味線、能楽に関する講演、デモンストレーションの共催

ニューデリー事務所

合計額 77,872,019円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【公演】				
1	晃麗邦楽会公演	在インド日本大使館	シュリ・ラム・センター劇場 在インド大使館	06.11.01～ 06.11.02	平塚芳朗氏を団長とする公演団19名による琴・尺八・日本舞踊の邦楽公演。11月1日に日本大使公邸(デリー日本文化月間オープングレセプション)、11月2日にシュリ・ラム・センター劇場で公演。
2	大石真理恵パーカッション公演	Foundation for the Arts 在インド日本大使館	シュリ・ラム・センター劇場 在インド大使館	06.11.08～ 06.11.09	大石真理恵氏をはじめとする日本人打楽器奏者3名によるパーカッション公演。11月8日にシュリ・ラム・センター劇場で公演。11月9日に日本大使公邸でインド人奏者2名と競演。
3	基金ニューデリー日本文化センター開所式・大蔵流能狂言公演		デリー大学 ディーン・ダヤル・ウパディヤル・カレッジ 国際交流基金 ニューデリー日本文化センター	06.12.04～ 06.12.05	茂山千三郎師による大蔵流能狂言公演。公演団9名。12月4日の国際交流基金ニューデリー日本文化センター開所式で「三番三」「男舞」「棒縛り」を上演。12月5日は、デリー大学ディーン・ダヤル・ウパディヤル・カレッジで上演。
4	東京・大阪外大語劇公演	大阪外国語大学 ヒンディー語劇団 東京外国語大学 「ウルドゥー語劇団」	国立演劇学校	07.02.23～ 07.02.24	東京外国語大学ウルドゥー語劇団、大阪外国語大学ヒンディー語劇団による公演。基金ニューデリー日本文化センターは、2月23日、24日の国立演劇学校での上演に関し、広報面で協力した。
5	観世流能公演	在インド日本大使館	シュリ・フォート劇場	07.03.03～ 07.03.03	観世宗家による能公演。2007年日印交流年事業。3月3日にシュリ・フォート劇場で「羽衣」「清水」「葵上」を上演。
	【講演・シンポジウム】				
6	日本文学講演(バンガロール)	バンガロール大学外国語学科 バンガロール日本語教師会	バンガロール大学外国語学部	07.02.25	バンガロールの一般市民および日本語関係者を対象に、池内輝雄デリー大学客員教授による日本文学講演会を実施。講演題目は「文学にみる日本の家庭・家族」。聴衆70名。
7	拡大フェローシップ・コンファレンス報告書ブックリリース		インディア・インターナショナル・センター	07.03.08	2005年3月に国際交流基金ニューデリー事務所で実施した拡大フェローシップ・コンファレンスの報告書「India and Japan : in search of Global Roles」(2007年刊行)についての出版記念会。来場者80名。

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
8	日本研究セミナー（スリランカ）	国際民族学研究中心		07.03.30～ 07.03.31	3月30日、31日に日本研究セミナーをスリランカにて実施。セミナー題目は「日本と南アジアの協力関係に関する展望と拡大」。パネリスト7名。聴衆50名。
9	【日本語教育】 日本語教育アドバイザー事業			06.04.01～ 07.03.31	国際交流基金ニューデリー事務所は、インドに常駐する日本語教育派遣専門家とともに、インド及び南アジアにおける日本語教育促進のサポートを実施。
10	【出版・広報】 ウェブサイト運営			06.04.01～ 07.03.31	国際交流基金ニューデリー事務所のウェブサイトの更新及び維持管理。
11	プレティン発行			06.04.01～ 07.03.31	国際交流基金ニューデリー事務所の広報誌の発行。
12	記者懇談会		国際交流基金 ニューデリー日 本文化センター	06.10.13	デリーのマスコミ各社の文化担当記者を対象に、国際交流基金関連行事、12月4日の国際交流基金ニューデリー日本文化センター開所式、2007年日印交流年の概要、につき広報を実施。記者数30名。
13	基金文化センター開所式		国際交流基金 ニューデリー日 本文化センター	06.12.04	国際交流基金ニューデリー事務所は、06年7月に現在の建物に事務所移転を行うとともに、06年12月に日本文化センター化した。日印両国の来賓を含め、来場者延べ200名。
14	【その他】 公募助成案件コンサルタント			06.12.01～ 07.01.31	2007年度本部知的交流会議助成プログラムに関して、申請案件の内容について、本部審査の際の参考用に、第三者の当地インド人専門家から意見コメントの聴取を実施。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
15	【助成事業】 助成(Dr.S.K.Jain、 Dr.Ajay K. Mehra)	第20回国際政治学会	06.07.09～ 07.07.13	福岡で開催された第20回国際政治学会（20th World Congress of International Political Science Association (IPSA)）に対し、インドからS.K.Jain(デリー大学教授)、Ajay K. Mehra (Centre for Public Affairs所長)が参加。
16	助成 (The Bombay Chamber Orchestra)	ボンベイ室内オーケストラ	06.09.10～ 06.09.10	ボンベイ室内オーケストラは、英国在住の日本人ピアニスト森麻衣子をソリストに迎えて、ムンバイにてコンサートを実施。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
17	助成(Japan Habba)	バンガロール大学外国語学部	06.09.24～ 06.09.24	バンガロール大学外国語学部、バンガロール日本語教師会、コーヨー日本語談話グループは共催で、日印文化紹介イベントを実施。来場者延べ1,000名。
18	助成(セミナー「Japanese Poetic Aesthetics」)	Indo-Japan Association for Literature & Culture	06.11.03～ 06.11.03	Indo-Japan Association for Literature & Cultureは、国際交流基金ニューデリー日本文化センターを会場として短歌と俳句のセミナー「Japanese Poetic Aesthetics」を実施。
19	助成(Dr. Madhusudan Ghosh)	5th International Conference of Japan Economic Policy Association	06.12.02～ 06.12.03	青山学院大学にて実施された国際会議「5th International Conference of Japan Economic Policy Association」に対し、インドから、ヴィシュヴァ・バラティ大学のMadhusudan Ghosh教授がパネリストとして参加。
20	助成 (Mr. Shafi Rhaman)	International Symposium on 「Sangaku」	06.12.08～ 06.12.09	早稲田大学にて実施された散楽に関する国際会議「International Symposium on 『Sangaku』」に対し、インドからShafi Rhaman (インディアン・エクスプレス新聞社編集委員) がパネリストとして参加。
21	助成(折り紙ワークショップ)	Akriti Creations	06.12.24～ 06.12.28	Akriti Creationsは、インディア・ハピタット・センター会場で青少年50名を対象に折り紙ワークショップを実施。
22	助成(バンガロール日本語スピーチコンテスト)	バンガロール日本語教師会	07.02.07～ 07.02.07	バンガロール日本語教師会は、バンガロール市および周辺地域の日本語学習者を対象とした日本語スピーチコンテストを実施。
23	助成 (生花展覧会)	生花インターナショナル・グルガオン支部	07.02.10～ 07.02.10	生花インターナショナル・グルガオン支部は、草月・大原・池坊の合同で、生花の展覧会を実施。
24	助成(セミナー「SAARC 2015」)	ネルー大学国際関係学部	07.02.10～ 07.02.11	ネルー大学国際関係学部は、国際会議「SAARC 2015:Expanding Horizons and Forging Cooperation in a Resurgent Asia」を実施。日本から龍谷大学中村教授が参加。
25	助成(セミナー「沿岸地域の環境及び持続可能な発展」)	ネルー大学環境学部	07.02.12～ 07.02.14	ネルー大学環境学部は、国際会議「International Conference on Coastal Zone Environment & Sustainable Development」を実施。80名の研究者が参加。
26	助成(セミナー「日本の文学や文化に現れる季節感」)	ネルー大学日本&北東アジア学科	07.02.27～ 07.02.28	ネルー大学日本&北東アジア学科は、国文学資料館との共催で、日本文学セミナー「Japanese Perception of Seasons in Literature and Culture」を実施。会場は国際交流基金ニューデリー日本文化センター。日本からは、伊藤鉄也教授をはじめとする6名の研究者が参加。

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
27	助成(セミナー「contemporary art in asia」)	The Biennale Society	07.03.09～ 07.03.11	The Biennale Societyは、Rajiv Gandhi Foundationを会場として国際セミナー「elective affinities, constitutive differences: contemporary art in asia」を実施。日本から、南條史生（森美術館館長）と黒田雷児（福岡アジア美術館キュレーター）が参加。

ニューヨーク事務所

合計額 50,691,198円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	事務所写真パネル貸し出し	ティップフィン中学校、ウイスコンシン国際協会		06.04.01～ 07.03.31	ニューヨーク事務所所蔵写真パネル「日本の世界遺産」を中西部2都市で開催された世界文化フェスティバルに貸出し、展示した。
	【公演】				
2	在米日本専門家中南米派遣事業(竹中真/ジャズピアノ)	在ポルトアレグレ出張駐在官事務所、在ブラジル日本大使館		06.10.28～ 06.11.05	在ポルトアレグレ出張駐在官事務所および在ブラジル大使館からの要請に基づき、ボストンに活動拠点を置くジャズピアニスト、竹中真(パークリー音楽院助教授)を派遣し、公演およびレクチャー・デモンストレーションを行なった。
3	在米日本専門家中南米派遣事業(AUN/和太鼓)	在グアテマラ日本大使館、在コスタリカ日本大使館、在コロンビア日本大使館		06.11.01～ 06.11.14	グアテマラ、コスタリカ、コロンビアの各日本大使館からの要請に基づき、ニューヨークに活動拠点を置くAUN(双子の和太鼓ユニット)と真部裕(ヴァイオリン奏者)を派遣し、公演およびレクチャー・デモンストレーションを行った。
4	在米日本専門家中南米派遣事業(なら春子/ジャズピアノ)	プエルトリコ音楽院、在トリニダード・トバゴ日本大使館		07.03.26～ 07.03.31	在ニューヨーク総領事館および在トリニダード・トバゴ大使館からの要請に基づき、ニューヨークに活動拠点を置くジャズピアニスト、なら春子(コロンビア大学教育学部助教授)とカメルーン出身のヴォーカリスト、ジーノ・シトソンをプエルトリコとトリニダードに派遣し、公演およびレクチャー・デモンストレーションを行なった。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【講演・シンポジウム】				
5	北米巡回現代日本文学セミナー	アルフレッドA クノッフ社 エリオットベイ 書店 カリフォルニア 大学パークレー 校 カリフォルニア 大学ロサンゼルス 校 コロンビア大学 サンフランシスコ 紀伊国屋書店 シアトル紀伊国 屋書店 ニューヨーク紀 伊国屋書店 ワシントン大学 在シアトル総領 事館		06.04.01～ 07.03.31	日本文学作品を一般に紹介するために、北米各地の読書クラブ、大学等に対し、英訳作品を寄贈し、その後、作家を派遣し、セミナー等を実施。本年度は桐野 夏生（作家）を派遣。
6	在米日本専門家中南米派遣事業（郡 裕美／建築）	サンパウロ日本文化センター		06.09.20～ 06.10.13	第27回サンパウロ・ビエンナーレの並行事業として、在ニューヨークの日本人建築家、郡 由美による講演会をサンパウロ商業連盟社会サービス・ピニエロス文化センターで実施した。なお、郡は同センターにインスタレーションを設置し、約3か月半にわたり展示を行なった。
7	在米日本専門家中南米派遣事業（徳 雅美／少女マンガ）	在ベネズエラ日本大使館、サンパウロ日本文化センター、在アルゼンチン日本大使館		06.10.27～ 06.11.09	最近欧米を中心に注目を集めている日本のポップカルチャーに関し、日本の少女マンガをテーマにした講演会を実施した。講師は徳雅美（カリフォルニア州立大学チーコ校准教授）。講演では、日本のマンガの歴史、その特徴、ストーリー性、独特な表現方法等について、徳自作のパワーポイントによる資料を駆使しながら視覚的に展開。日本における少女マンガを第一世代～第三世代に分類して、各時代に活躍したマンガ家のプロフィール、代表的な作品の特徴や魅力等について解説した。
8	第59回全米アジア学会年次総会でのフェロー懇親会			07.03.23～ 07.03.23	07.03.22～07.03.25にボストンで開催された第59回米国アジア学会（AAS）年次総会において、基金事業の広報と日本研究関係者との人脈維持・形成を目的としてレセプションを開催。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【映画】				
9	大学巡回日本映画祭（南部）	フロリダ大学、サウス大学スワニー校、テキサス大学サンアントニオ校、デューク大学、エッカードカレッジ		07.02.01～ 07.03.19	日本文化が紹介される機会が比較的少ない地域において、地元の大学等の協力を得て実施しているニューヨーク事務所主催の巡回映画上映会。本年度は、南部の5大学（テキサス大学サンアントニオ校、フロリダ大学、エッカードカレッジ、サウス大学スワニー校、デューク大学）で実施した。
	【出版・広報】				
10	米国における日本研究関連団体活動実態調査			06.04.01～ 07.03.31	ニューヨーク事務所職員が北米日本資料調整評議会（NCC）会議など、日本研究関連の主な会議・シンポジウム・ワークショップに参加し、関係者との意見交換を通じて、米国における日本研究の現状と課題を把握するとともに、基金プログラムの広報を積極的に行なった。
11	ニューズレター発行			06.04.01～ 07.03.31	ニューヨーク事務所のニューズレター”Bridges”（年2回発行、カラー印刷、4,000部作成）を発行。米国において基金が主催または助成する各種事業を、基金事業に必ずしも馴染みのない大学・研究機関、文化・芸術団体の関係者に向けて分かりやすく広報することを主眼とした。
12	ウェブサイト運営			06.04.01～ 07.03.31	ニューヨーク事務所の概要、公募プログラムの案内、ニューズレター電子版等を掲載。使用言語は英語。電子メール（info@jfn.org）による各種照会にも対応。URLはhttp://www.jfn.org
	【その他】				
13	松風荘襖絵製作協力	松風荘友の会		07.02.01～ 07.04.30	松風荘は1954年に故・吉村 順三の設計により建築された書院造りの日本建築で、ニューヨーク近代美術館（MoMA）で一般公開された後、1958年にフィラデルフィア市フェアモント公園内に移築されたが、管理上の不備により、故・東山 魁夷画伯の描いた襖絵すべてを含む建物が全損してしまったため、1976年以降数回にわたり大規模な修復工事が実施された。千住 博画伯（京都造形芸術大学副学長）が新たな襖絵の制作に無償で取り組むにあたり、障壁画表装工事にあたる4名の経師派遣費用を支援した。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
14	越境体験：日本の部	Binghamton University	06.04.07～ 06.04.23	ニューヨーク州北部の小都ビンハムトンで開催された東アジア出身の現代美術作家によるグループ展に安部典子と奥村雄樹（いずれもフィリップ・モリス・アート・アワード受賞者でニューヨーク在住）が参加した。展覧会に並行して、出展作家によるワークショップ、パフォーマンスや公開トークが、地元の学生や芸術家を対象に行われた。
15	「投入と拡散」展	Japanese Association of Northeast Ohio	06.04.15～ 06.05.15	オハイオ州北東部の小都、ゲーツ・ミルズおよびチャグリン・フォールズで開催された在米日本人芸術家4名によるグループ展。「東洋と西洋の出会い」をテーマに開催された本展では、日本のモチーフを生かしたステンシル、急須、箸置き、墨絵の制作実演も行われた。
16	音楽、仮面、マイムによる日本のお伽噺	Susquehanna Folk Music Society	06.05.05～ 06.05.05	ペンシルヴェニア州の州都ハリスバーグ近郊で行なわれたクニコ・ヤマモト（フロリダ在住）による日本のお伽噺のパフォーマンス。本公演に先立ち、地元の児童生徒を対象とするワークショップも実施された。
17	北東部日本語教師会 (NECTJ) 主催俳句コンテスト	Northeast Council of Teachers of Japanese	06.05.13～ 06.05.13	ニューヨーク周辺の小中高校生を対象に、英語および日本語で作った俳句のコンテストを実施。各校にクラス単位での参加を呼びかけ、集まった俳句の中から優秀作品3点と奨励作品数点を選抜し、国連高校で表彰式および優秀作品の展示を行った。
18	アジアン・アーティスト&コンサーツ交響楽団国連本部公演	Asian Artists and Concerts	06.05.22～ 06.05.22	在ニューヨークのアジア系若手音楽家の活動支援を目的とする非営利団体Asian Artists & Concerts (AAC) による国連創設60周年と日本の国連加盟50周年を記念するコンサート。会場となった国連本部総会議場は約1,200人の観客で埋まり、冒頭の大島賢三国連大使の挨拶に続き、AAC代表であり、ニューヨーク・シティ・オペラ指揮者でもある山田敦が指揮するAACオーケストラの演奏に耳を傾けた。
19	堀江 慶監督『全身と小指』米国プレミア上映会	Brooklyn International Film Festival	06.06.02～ 06.06.11	第9回ブルックリン国際映画祭における日本からの招待作品として、堀江 慶監督の『全身と小指』を上映。
20	ウィーヴィング・ジャパニーズ・サウンドズ・コンサート	Fractured Atlas	06.06.18～ 06.06.18	「ジュリアード音楽院の代表的卒業生」として、同学院創立100周年記念刊行物でも取り上げられた加藤 幸子が率いるWeaving Japanese Soundsの第3回コンサート。マンハッタン内のピアノ販売店に併設されたコンサート・ルームに50名以上の観客が集まり、武満 徹をはじめとする日本の作曲家による現代音楽や、日本にインスピレーションを受けた在米作曲家による現代音楽のハイレベルな演奏を楽しんだ。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
21	能トレーニング・プロジェクト	Bloomsburg Theatre Ensemble Noh Training Project	06.07.17～ 06.08.04	シアター能楽の芸術監督であり、武蔵野女子大学教授でもあるリチャード・エマートが、主に米国人芸術家を対象とする能の研修プログラムをペンシルヴェニア州ブルームスバーグで実施。最終日に行われた一般向けの公演には約120人の観客が集まり、英語能の舞台を鑑賞した。
22	ワールド・フェストにおける日本パヴィリオン	Kentucky World Trade Center	06.09.01～ 06.09.02	ケンタッキー州ルイヴィルで開催されたワールド・フェスト会場にケンタッキー日米協会がジャパン・パヴィリオンを出展し、一般市民向けに日本文化紹介事業を行った。在ニューヨークの箏奏者、石樽雅代が率いる邦楽アンサンブルがゲスト出演した。
23	15：マッケンドリー・カレッジ日本フェスティバル	McKendree College	06.09.10～ 06.09.16	イリノイ州の小都レバノンのマッケンドリー・カレッジで開催された日本フェスティバル。同カレッジと田中育英財団、東京工学院専門学校との姉妹関係締結15周年記念事業の一環として実施された。
24	都市、アートおよび再生	Lower Manhattan Cultural Council	06.09.14～ 06.09.17	芸術を通じた都市再生に関するシンポジウム「都市、芸術、再生：その次に来るもの」に日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル（NIPAF）の実行委員長、霜田誠二が招かれ、「アジアにおけるパフォーマンス・アートと身体の使い方」をテーマに講演を行なった。
25	「日米職業交流」国際シンポジウム	The Center for Professional Exchange (CEPEX)	06.09.15～ 06.09.15	米国の大学で日本研究を専攻して卒業しても、その知識を生かした就職先が企業・財団・大学で減っているのではないか、という問題意識から、日本研究専攻の学生および若年層の卒業生を対象に就職支援を行なうために設立されたNPO団体が開催したシンポジウム。「職業交流の歴史」と「職業交流の未来」という2つのセッションが行われ、約60名が参加した。
26	伊藤さちよ50周年記念舞踊公演	Sachiyo Ito & Company	06.09.30～ 06.09.30	在ニューヨークの日本舞踊家、伊藤さちよの50周年舞踊公演会をロウワー・マンハッタンにあるペース大学内の劇場で実施。
27	ニューヨークー東京音楽祭2006	City Parks Foundation	06.09.30～ 06.09.30	日米両国の若者に人気があるものの、相手国には知られていない各3名のアーティストがニューヨークのセントラルパークの野外ステージで正味4時間に及ぶ無料コンサートを行なった。
28	杉本 博司の選ぶ日本映画特集	Modern Art Museum of Fort Worth	06.10.07～ 06.11.25	在ニューヨークの写真家、杉本 博司の写真展「時の終わり（原題” End of Time”）」がフォートワース現代美術館で開催されるのにあわせ、杉本の選んだ日本映画7作品の連続上映会を実施。7本中5本を基金本部のフィルムライブラリーから貸し出した。2005年にニューヨーク日本協会で開催した上映会のスピノフ企画。
29	日本舞踊アトランタ公演	Oglethorpe University	06.10.07～ 06.10.11	アトランタのオグルソープ大学ラプトン音楽堂において花柳 友章が日本舞踊の公演を行なったほか、学生を対象とするワークショップにも取り組んだ。アトランタで毎年開催されている大規模なジャパン・フェストの関連企画。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
30	川端 康成『雪国』 講演シリーズ	Scholars at Wright	06.10.12～ 06.11.09	川端康成の小説『雪国』を題材とした連続講演会。中西部の大学で教鞭をとる若手の日本文学研究者3名が交代で講演会を行い、シカゴ周辺の日本文学愛好家、在留邦人、高校生、大学生などが参加した。
31	「移行期の日本」国際シンポジウム	Lawrence University	06.10.13～ 06.10.15	ウィスコンシン州アップルトンのローレンス大学で開催された国際会議で、日米関係の現状と今後について政治・経済・文化の様々な側面から議論が行われた。栗山元駐米大使が参加し、初日に「日本と米国：進化する同盟関係」(原題"Japan and the United States: the Alliance in Evolution")と題する基調講演を行った。
32	田中正秋・智佳子二人展	Middle Tennessee State University	06.10.16～ 06.11.03	中部テネシー州立大学付属ギャラリーにおいて版画家・画家である田中正秋・知佳子夫妻の二人展を開催。田中夫妻は本展にあわせて同大学を訪問、学生向けのワークショップに取り組んだほか、田中正秋氏の講演会には約125人の学生が集まった。
33	日本を祝う	Tiffin Middle School	06.10.26～ 06.11.19	オハイオ州北部の小都ティッフィンの国際文化センターにおいて日本文化祭を開催。邦楽コンサート、映画上映会、武道デモンストレーション、日本食試食会など充実した内容のプログラムが展開された。ニューヨーク事務所所蔵写真パネル「日本の世界遺産」も展示。
34	モビウス国際パフォーマンス・アート・フェスティバル	Mobius, Inc.	06.11.01～ 06.11.05	ボストンで開催された国際パフォーマンス・アート・フェスティバルに日本からアーティスト、山岡佐紀子が参加し、パフォーマンスを披露したほか、世界各国から集まった約15名のアーティストとともにボストン美術館付属美術学校におけるシンポジウムにパネリストとして出席。
35	サンノゼ太鼓による2006年国際フェスティバル公演	Nationalities Council of Indiana	06.11.02～ 06.11.05	インディアナポリスのインディアナ州立博覧会場では毎年開催される国際フェスティバルにサンノゼ太鼓が招かれ、会場内のメインステージで5回公演を行なったほか、地元の高校を訪問し、インディアナポリス周辺で打楽器を演奏する高校生200人を対象にセミナーを実施。
36	箱島安「デュアリティII」	Danmari Ltd.	06.12.02～ 06.12.02	ニュージャージー州モンクレアに拠点を置き、40年にわたって国際的に活躍するマイムアーティスト箱島安が、ニューヨークのトライベッカ舞台芸術センターにおいて、ダ・カーポ室内楽アンサンブルとともに新作「デュアリティ I I」を披露した。約160名の観客が公演を楽しんだ。
37	青島 千穂「The Divine Gas」	The Institute of Contemporary Art	06.12.10～ 07.10.28	ボストンのウォーターフロント再開発計画の一環として、デラー・スコフィディオ+レンフロの設計によって新装オープンしたボストン現代美術館のロビー壁面に現代美術作家、青島千穂の新作「The Divine Gas」を約11ヶ月にわたり展示。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
38	ハンナの鞆	Metro Theater Company	07.01.11～ 07.01.21	ナチス・ドイツの迫害を受け、アウシュヴィッツ強制収容所で犠牲となった少女（ハンナ）の鞆をめぐる、少女の運命を日本の女性（石岡史子ホロコースト教育資料センター代表）が日・チェコ・カナダ等を探し求めた実話を下敷にした、カナダ人作家カレン・レビンの小説『Hana's Suitcase』を演劇化した作品を、在セントルイスの劇団メトロ・シアター・カンパニーが連続公演した。
39	「少女マンガのパワー」展	The Japan-America Society of Washington, DC	07.01.29～ 07.03.19	在米国大使館広報文化センター内ギャラリーにおいて、徳 雅美（カリフォルニア大学チーコ校准教授）監修による日本の少女マンガ展を開催。
40	能ワークショップ	Georgetown College	07.02.04～ 07.02.04	ケンタッキー州のジョージタウン大学で観世流能楽師3名が6日間にわたりワークショップを実施。最終日に一般向けの公演を行なった。
41	現代日本陶磁器展	Towson University	07.02.10～ 07.05.11	メリーランド州ボルチモア近郊のトーンソン大学アジア芸術文化センターで現代日本陶磁器展を開催。レクチャーやワークショップ、舞台公演などの関連企画も実施。
42	坂手洋二原作『屋根裏』	The Play Company	07.02.21～ 07.03.24	劇作家・演出家、坂手洋二作『屋根裏』の英語版が、世界各国の現代戯曲を紹介する在ニューヨークの劇団プレイ・カンパニーにより、マンハッタン中心部の59丁目劇場で連続上演された。
43	アシッド・マザーズ・テンプル公演	Swiss Institute - Contemporary Art	07.02.24～ 07.02.24	スイス出身の現代美術作家ヴィドヤー・ガスタルドンの個展がニューヨークのスイス・インスティテュートで開催されるのに合わせ、日本を代表するサイケデリックバンドとして国際的に活躍するアシッド・マザーズ・テンプルがゲスト出演した。
44	鶴沢久と能グループによるウェレズリー公演	Wellesley College	07.02.25～ 07.02.25	観世流能楽師、鶴沢久一行がボストン近郊のウェレズリー大学において公演とワークショップを実施した。
45	日本の書道の芸術	East Carolina University Foundation	07.02.27～ 07.02.27	ノースカロライナ州グリーンヴィルのイースト・カロライナ大学において、学生と地元的一般市民を対象とする書道のワークショップが行なわれた。
46	「現在の起源：コミュニティを再構築するーシカゴにおける日系アメリカ人の再定住」展	Japanese American Service Committee of Chicago	07.03.10～ 07.06.02	シカゴ日系人協会の創立60周年を記念し、「現在の起源：コミュニティを再構築するーシカゴにおける日系アメリカ人の再定住」と題する展覧会を開催した。シカゴのアップタウンにあるシカゴ日系人協会コミュニティ・センターでは、日系人が戦中・戦後に歩んできた歴史を振り返る内容のマルチメディア展示にあわせて、和太鼓、日本舞踊などの公演、教育ワークショップなどの関連企画も実施された。

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
47	カルナ・カツーム MATAフェスティ バル公演	Music At The Anthology	07.03.15～ 07.03.20	ニューヨーク・ブルックリンで開かれた実験音楽の祭典「MATAフェスティバル」に京都在住のサウンド・アーティスト、カルナ・カツーム（川本かなえ）が出演し、在ニューヨークのビデオインスタレーション作家、森家成和とともにオリジナル作品「ハイドロ・ワールド」を上演した。
48	米国議会図書館所蔵 日本関係貴重書シン ポジウム	Library of Congress	07.03.27～ 07.03.27	米国議会図書館が所蔵している日本関連資料を題材にしたシンポジウム。「貴重書一般」「貴重美術本」「浮世絵」「古地図」の4つのトピックについて日米双方の専門家による発表と参加者による質疑応答を行なった。
49	「今日の日本の音 楽」2007年国際シン ポジウム	University of Maryland, Baltimore County	07.03.30～ 07.03.31	1992年以来メリーランド大学ボルチモア校が連続開催してきたアジアの音楽に関する国際シンポジウムの最終回として、現代日本における音楽の諸相をテーマにした国際シンポジウムを実施。日本から3名の作曲家（伊藤 弘之、山本裕之、愛澤伯友）が参加し、講演を行うとともにパネルディスカッションにも参加した。

ロサンゼルス事務所

合計額 93,382,595円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【公演】				
1	文化主催事業 (和紙レクチャー・デモン ストレーション)	国際交流基金ロ サンゼルス事務 所 日米文化会館、 ボイジー州立大 学、クマモトプ ラザ、デンバー 植物園等	国際交流基金ロ サンゼルス事務 所／日米文化会 館／ボイジー州 立大学／クマモ トプラザ／デン バー植物園	06.09.10～ 06.09.17	浜田 洋直と浜田 治の2人の和紙職人による日 本の伝統的な手漉き和紙を紹介するレクチャー とデモンストレーションを4都市（カリフォル ニア州ロサンゼルス、アイダホ州ボイジー、モ ンタナ州ヘレナ、コロラド州デンバー）の会場 で実施。和紙の製作工程についての講演と専門 家による紙漉きの実演が行なわれた。
2	文化芸術主催事 業(日韓アニ メーション上 映)	エジプシャンシ アター、韓国文 化センター、ア メリカン・シネ マティーク、韓 国文化コンテン ツ振興院 国際交流基金ロ サンゼルス事務 所	エジプシャン劇 場	07.03.31～ 07.03.31	米国において注目を集めるアジアのアニメー ションの中から日本の作品『時をかける少女』 (2006年日本公開・第30回日本アカデミー賞最 優秀作品賞受賞)と韓国の作品『アッチ&シパッ ク』(2006年韓国公開)を上映すると共に、上映 作品の細田 守監督とバンジン・ジョ監督、米 国のアニメーション・プロデューサーや研究者 によるパネルディスカッションを行なった。
	【講演・シンポジウム】				
3	日本語教育シン ポジウム	国際交流基金ロ サンゼルス事務 所／全米日本語 教師会連合／ ATJ(日本語・ 日本文学)／全 米日本語教師会	シェラトン・ ナッシュビル・ ダウンタウン	06.11.17～ 06.11.18	米国の日本語教育の今後の方針に関する討論。 1日目は米国の日本語教育界のリーダーを集め、 10年前に設定した課題の達成度を確認するとと もに、これからの10年に向けてどのような新た な課題を設定すべきか、ブレインストーミング を行なった。2日目は日本語教育の現状と前日 の日本語教育リーダーを集めたクロズド・ セッションの結果を報告し、一般参加者との意 見交換を行なった。意見交換の後のレセプション を開き、各地から集まった参加者の交流の場 を設けた。
	【日本語教育】				
4	米加英研修事前 事業研修	ロサンゼルス事 務所 全米日本語教師 会連合(AATJ)	ロサンゼルス事 務所	06.06.23～ 06.06.23	米国・カナダ・英国初中等日本語教師研修研修 参加者のための訪日出発前オリエンテーション 研修。研修を活かして米国の教育事情に即した 教材作りができるよう、予備知識として米国特 有の日本語教育知識（ナショナルスタンダード 等）を説明。

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
5	日本語教育コンサルティング委員会開催	ロサンゼルス事務所 筒井道雄氏、ジンジャー・マーカス氏、ウィリアム・コラゾ氏	ロサンゼルス事務所	07.01.13～ 07.01.13	平成19年度対米日本語関係プログラムの予備審査過程として、米国在住日本語教育専門家3名による委員会を開催。
6	【図書館運営】		ロサンゼルス事務所	06.04.01～ 07.03.31	基本的には日本語教育専門図書館であり、主な利用者層は日本語教師。一部、日本研究、日本文化・芸術に関する蔵書もそろえている。 蔵書：図書資料 7464冊、視聴覚教材 1560点 利用者数：518名 会員数：1169名。
7	【出版・広報】 ニューズレター発行『ブリーズ』	ロサンゼルス事務所		06.04.01～ 07.03.31	全米の日本語教育関係者によるエッセイや、米国における日本語教育事情の調査結果を報告する情報誌の刊行。本年度からウェブマガジン化し、より柔軟な構成となった。
8	日本語ニューズレター発行『ワフー!』	ロサンゼルス事務所		06.04.01～ 07.03.31	中学・高校で日本語を学習する生徒を対象に作成した日本語学習ウェブマガジン。日本文化紹介と遊びの要素を含んだ自習用日本語練習問題から構成されている。中学・高校に加えて全米各地の日米協会・在米公館にもオンラインにより紹介。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
9	日本語教育ミニグラント(アリゾナ日本語教師会ワークショップ)	アリゾナ州日本語教師会	06.04.07～ 06.04.07	アリゾナ州外国語教師会による「米国南西部外国語教育学会」において、片岡 裕子(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校教授)を迎えてアドバンスト・プレースメント・プログラムの日本語に関する講演を行なった。
10	日本語教育ミニグラント(南ネバダ日本語教師会ワークショップ)	南ネバダ日本語教師会	06.05.06～ 06.05.06	中等教育レベル教師の啓蒙と資質向上および高等教育レベル教師との連携を念頭に置いたアドバンスト・プレースメント・プログラムの日本語に関する講演を片岡 裕子(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校教授)が行なった。
11	文化・芸術ミニグラント(茶道陶器に関する講演会)〈在外公館対象〉	裏千家カリフォルニア協会	06.05.10～ 06.05.10	日本で生活し、日本の陶芸の世界に魅せられたRichard Milgrim氏を招いて、日本の茶道で使用する陶器に関する講演会と茶道の実演・陶器の展示を行った。裏千家財団サンフランシスコ事務所が企画。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
12	文化芸術ミニグラント(東松ドキュメンタリー)	サンフランシスコ現代美術館	06.05.13～ 06.08.13	戦後の日本写真界で注目された東松 照明の写真展(240作品)を開催。同時に1日数回、東松 照明のドキュメンタリー番組を上映。英語訳を製作するための費用について助成を行なった。
13	文化・芸術ミニグラント(米国相撲大会2006)	全米相撲協会(NJ)南カリフォルニア相撲協会	06.06.10～ 06.06.10	毎年日本で行われる世界選手権の米国代表選考会。全米から40名程の力士が集まり、代表権を争う公式トーナメント。毎年全米各地で行われるが今年はロサンゼルス近郊で開催された。
14	文化・芸術ミニグラント(能楽セミナー2006)	メアリー佐野スタジオ・オブ・ダンカン・ダンシング	06.07.14～ 06.07.14	大倉 正之助(能楽大鼓)と波吉 雅之(能楽宝生波吉家14代当主)を日本から招き能楽を米国人に理解してもらうためのワークショップとパフォーマンスを開催。北カリフォルニア日本協会が共催し、在米国サンフランシスコ総領事館が後援。伝統的な能楽と共に米国人ダンサーとのコラボレーションパフォーマンスも披露した。
15	日本語教育ミニグラント(カリフォルニア外国語教師会セミナー)	カリフォルニア外国語教師会	06.08.01～ 06.08.04	カリフォルニア外国語教師会主催の4日間にわたる教師研修。言語別のみならず、言語共通のセッションも設けられ、様々な外国語教師との交流が図られた。日本語向けセッションでは、ヨシコ・斎藤・アボット(カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校教授)と阿座間 ヨシハル(サリナス高校教諭)がアドバンスト・プレースメント・プログラムの日本語に関するカリキュラム作りの指導を行なった。
16	日本語教育ミニグラント(ロッキー山脈日本語教育シンポジウム)	コロラド日本語教師会	06.09.16～ 06.09.16	コロラド州および近隣の州の日本語教師(初・中・高等の全レベル)を対象に実施された日本語教育シンポジウム。片岡 裕子(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校教授)によるレクチャーと、ラウンドテーブルという構成で同地域が抱える日本語教育の問題点の洗い出しと、その解決方法をさぐるための熱心な情報交換・議論が行なわれた。
17	文化・芸術ミニグラント(ジャパン・アーツ・デーズ)	アートコア	06.09.23～ 06.09.27	ワイオミング州キャスパーで毎年行なわれる地元アートイベントの一環として、小・中学校の生徒を対象に太鼓の演奏とワークショップを実施。
18	文化・芸術ミニグラント(チャノマ・フィルム・フェスティバル2006)	日米メディア協会	06.10.20～ 06.10.26	子供から大人まで楽しめる最近の日本映画をハリウッドにて11作品上映。話題の日本映画から心温まる作品を中心に上映。上映作品のひとつである「スクールウォーズ」主演の照英(俳優)を日本から招聘。
19	日本語教育ミニグラント(北加日本語教師会ワークショップ)	北加日本語教師会	06.10.29～ 06.10.29	北カリフォルニア地域における日本語教師の資質向上及びネットワーク形成促進を目的に、北加日本語教師会が在サンフランシスコ総領事館の協力を得て実施した日本語教師用セミナー。数多くの日本語教材を執筆している牧野 成一(プリンストン大学教授)をゲストスピーカーに招き、日本文化の捉え方、教授法についての講演を行った。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
20	日本語教育ミニグラント（ハワイ日本語教師会ワークショップ）	ハワイ日本語教師会	06.11.03～ 06.11.04	當作 康彦（カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）および片岡 裕子（カリフォルニア州立大学ロングビーチ校教授）を講師に招き、アドバンスト・プレースメント・プログラムの日本語に関するワークショップを行なった。中・高等教育レベルにおける日本語教育の連携の重要性、および具体的な試験対策についての講義がなされた。
21	日本語教育ミニグラント支払（デラウェアバレー日本語教師会ワークショップ）	デラウェアバレー日本語教師会	06.11.18～ 06.11.18	日本語教材『げんき』の著者である品川 恭子（カリフォルニア大学サンタバーバラ校日本語講師）をゲストスピーカーに招き、同教材の構成と利用方法について3時間にわたるレクチャーを行なった。講義の合間には参加者がグループに分かれて意見交換する場が設けられ、講義を踏まえた上で『げんき』に即したアクティビティについて活発にアイデアを出し合った。
22	文化・芸術ミニグラント（リスニング・東京・サンフランシスコ）	インターセクション・フォー・アーツ・モモライン・リスニング・東京・サンフランシスコ	06.12.06～ 06.12.16	日本と米国で行われる日米アーティストによる現代美術展。2006年7月に日本（昭和記念公園）で開催されたのに続き、本事業はサンフランシスコのアートギャラリーで行なわれた。20歳から30歳代のパフォーマンス、サウンドアート、映像アートなど時間軸を意識した芸術分野で活動する若手作家作品を中心に展示。
23	日本語教育ミニグラント（アドバンスト・プレースメント・プログラムを通じての中等・高等教育連携日本語および文化ワークショップ）	ATJ（日本語・日本文学）継承日本語分科会	06.12.10～ 06.12.16	継承日本語学校・補習校の運営者（学校長・事務局長・教師）および継承日本語話者の保護者を対象に、アドバンスト・プレースメント・プログラムの日本語試験の説明会を実施し、最新情報を提供するとともに、継承日本語話者に焦点を当てた受験のテクニックを紹介した。
24	文化・芸術ミニグラント（事始め）	日米文化会館	07.01.07～ 07.01.07	ロサンゼルスを「現代のシルクロード」になぞらえた野外パフォーマンス。日本舞踊とフラメンコダンス、弓道のコラボレーション作品。
25	文化・芸術ミニグラント（津軽三味線コンサート）	曹禅寺	07.01.10～ 07.01.10	日本から新田 昌弘（津軽三味線奏者）、地元ロサンゼルスからケビン・メッツ、マイケル・ペニーの日米共演で行われた津軽三味線のコンサート。ヒダノ 修一（和太鼓奏者）も参加した。
26	文化・芸術ミニグラント（日系移民をテーマとした演劇）	コミュニティー・アジア・シアター・オブ・シエラ	07.01.18～ 07.02.10	ベリナ・ハス・ヒューストン（南カリフォルニア大学教授、作家）が書き下ろした戦争花嫁5人の新しい土地での苦労を描いた戯曲の舞台化。アジア系米国人の女優が戦争花嫁として渡米した日本人女性を演じた。
27	文化芸術ミニグラント（ねぶた・イン・ロサンゼルス）	リトル東京ビジネスアソシエーション	07.01.30～ 07.08.18	ロサンゼルス青森ねぶた祭りで使用するねぶた製作費用の一部を支援。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
28	文化・芸術ミニグラ ント(少女マンガ展)	二世ウィーク基金	07.02.05～ 07.08.18	少女マンガは近年米国でも注目され日本の少女マンガ雑誌が英訳されて販売されるようになった。本展覧会は手塚治虫から現代の代表的な少女マンガを作品200点と共に解説するものであり、本事業はその展覧会を成功させるための広報資料制作と告知活動を支援した。
29	文化・芸術ミニグラ ント(鼓童アーツ・ スフィア・アメリカ 2007 ワークショッ プ)	鼓童アーツ・スフィ ア・アメリカ	07.02.08～ 07.02.18	鼓童のメンバー小島 千絵子とニューヨーク在住の渡辺かおるによる太鼓と日本伝統音楽のワークショップ。ハワイとロサンゼルス为学校やコミュニティ施設でワークショップを開催し、一般向けのコンサートも行なった。
30	日本語教育ミニグラ ント(ウイスコンシ ン州初・中・高等教 育日本語教師ワーク ショップ)	ウイスコンシン大学 指導教授理事会シス テム	07.02.10～ 07.02.10	米国中西部の日本語教師(幼稚園から大学までの全レベル)を対象とし、アニメーション・漫画をテーマに、日本語及び日本文化の教授法についてのワークショップを実施した。ゲストスピーカーとしてイトウワット(インディアナ大学教授)を招き、中上級者向けの日本語クラスでのアニメーション・漫画の活用方法について講演を行なった。
31	日本語教育ミニグラ ント(加州日本語学 園協会年次総会)	加州日本語学園協会	07.02.10～ 07.02.10	継承日本語学校(南カリフォルニア地域)の教師を対象に実施した研修会。片岡 裕子(カリフォルニア州立大学ロングビーチ校教授)をゲストスピーカーに招き、「日本語スタンダードを取り入れた日本語教育：日本語学校の場合」についての基調講演を行なった。午後は教育レベルごとに5つのグループに分かれて、日頃抱える問題点についてそれぞれ意見交換を行なった。
32	日本語教育ミニグラ ント(オンライン日 本語教師養成コース 開講準備)	全米日本語教師会連 合	07.03.01～ 07.03.31	2001年に採択されたNo Child Left Behind法の影響で教師資質が厳しく問われるようになり、正式な資格を持たない日本語教師が失職する事態が生じている。こういった状況をいち早く食い止めるため、財政難で一時停止していたオンライン日本語教師養成講座(JOINTプログラム)開発の端緒として電子メールとチャット方式によるオンライン教師養成コースが開設されることとなり、同コースへの支援を行なった。
33	文化・芸術ミニグラ ント(キャディ! キャディ!キャ ディ!)	ボディー・ウェ ザー・ラボラトリー	07.03.01～ 07.03.04	ポール・チャベツ(作曲家)、オグリ(舞踏ダンサー)によるコラボレーション公演。ウィリアム・フォークナー(米国作家)の作品を題材に演出された作品。
34	日本語教育ミニグラ ント(第19回中部日 本語教師会ワーク ショップ)	アイオワ大学	07.03.03～ 07.03.04	これまでは高等教育レベルのみの日本語教育関係者を対象とした学会であったが、2006年はイリノイ日本語教師会(初中等レベルの日本語教師が主なメンバー)との共同企画とし、初等から高等まで、全教育レベルの交流(ネットワーク強化)を目的とした学会を実施した。アンドリュー・コーエン(ミネソタ大学教授)及び牧野 成一(プリンストン大学教授)が基調講演を行なった。

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
35	日本語教育ミニグラント(第22回南東部日本語教師年次総会)	メンフィス大学	07.03.03～ 07.03.04	米国南東部の日本語教育関係者を対象に、初・中・高等教育の連携を念頭に「日本語スタンダードと日本語教育の新しい方向」というテーマで様々な発表を行なった。基調講演では、當作 靖彦(カリフォルニア大学サンディエゴ教授)が、外国語教育スタンダード作成の経緯と内容に加え、日本語のアドバンスト・プレースメント・プログラム導入が今後の米国における日本語教育に与える影響などについての発表を行なった。当日は甲藤 岳史(在米国ニューオリンズ総領事館副領事)および渡邊 真紀(国際交流基金ロサンゼルス事務所日本語専任講師)が出席。
36	文化・芸術ミニグラント(サンフランシスコアジア美術館)	アジア美術館	07.03.08～ 07.03.27	アジア美術専門の美術館としては西海岸最大といわれるサンフランシスコのアジア美術館の図書館における日本美術専門図書、特に浮世絵から現代のマンガに関する蔵書増強を支援した。
37	日本語教育ミニグラント支払(アドバンスト・プレースメント・プログラムを通じての中等・高等教育連携勉強会)	ATJ(日本語・日本文学)教師養成分科会	07.03.17～ 07.03.17	大学の日本語プログラムにアドバンスト・プレースメント・プログラムの日本語試験の価値を認知させるため、大学レベルの日本語教育関係者(日本語プログラム運営上の決定権をもつ代表者)を対象とした、同プログラムおよびその中枢となる日本語スタンダードの勉強会を実施。

メキシコ事務所

合計額 32,459,613円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【公演】				
1	セルバンティーノ国際芸術祭舞踏家ワークショップ（笠井叡）	国立芸術センター、セルバンティーノ国際芸術祭	国立芸術センター、ローラ・リンセ・ダンススタジオ	06.09.25～ 06.10.03	第34回セルバンティーノ国際芸術祭の一環として、9月25日から28日までメキシコシティにおいて、また同29日から10月3日までグアナフアトにおいて、舞踏家笠井叡氏によるワークショップを実施。
	【講演・シンポジウム】				
2	日本料理紹介	在メキシコ日本国大使館広報文化センター、メキシコ農牧省、食肉輸出組合、日航ホテル、クルブ・ボスケ	ホテル・ニッコー・デ・メヒコ他	06.11.17～ 06.11.22	在墨日本大使館と共催で、ペルーにて活躍する日本人シェフ小西俊郎氏を招聘して、メキシコの調理関係者、食肉業者および財界人などを対象に、同氏による日本料理の調理の実演や解説を実施。
3	イベロアメリカ日本研究シンポジウム	メトロポリタン自治大学、メキシコ国立自治大学、エル・コレヒオ・デ・メヒコ	メトロポリタン自治大学	07.03.27～ 07.03.28	中南米各地から20名弱の日本研究者が参加し、最新の日本事情についてのシンポジウムを開催。また、このシンポジウムを受けて、中南米スペイン語圏の日本研究者を中心に「中南米日本研究協会」の設立が合意された。
	【日本語教育】				
4	日本語運用能力ブラッシュアップ研修	メキシコ日本語教師会	国立工科大学イスタカルコ校	06.04.22～ 06.11.18	メキシコ人日本語教師の日本語運用能力の向上を目指して、4月から11月までの期間に合わせて12回のレッスンを実施。メキシコ人教師13名がこのコースに参加。
5	日本語教師夏期集中講座	メキシコ日本語教師会	日本大使館広報文化センター	06.06.29～ 06.06.30	メキシコ日本語教師会と共催で6月29、30の2日間にわたり日本語教師夏期集中講座を実施。講師としては日本からスリーエーネットワークの三輪さち子氏を迎え、「初級から中級への移行」をテーマとして講習とグループ活動を行った。本事業には全国から42名の日本語教師が参加した。
	【図書館運営】				
6	図書館運営			06.04.01～ 07.03.31	所蔵冊数：7,373冊、来館者数：1,377人。

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【出版・広報】				
7	広報誌の発行		メキシコ事務所	06.04.01～ 07.03.31	メキシコにおける日本語教育に関する情報誌「El Patio」を年3回各500部発行。日本語教授法や教材に関する情報を提供し、国内で開催される日本語教育に関する催し、日本語教育機関の活動などを紹介。
8	ホームページの運営		メキシコ事務所	06.04.01～ 07.03.31	http://www.fjmex.org/、アクセス数：年間41,996件、総リクエスト数：年間80,319件。
9	推薦図書書評執筆		メキシコ事務所	06.09.01～ 07.03.31	スペイン語に翻訳出版されている日本文学図書を広報するため、エル・コレヒオ・デ・メヒコのギジェルモ・クアルトゥッチ教授に推薦図書10冊を選んでの書評執筆を依頼。推薦された図書についてはメキシコ事務所の図書館に所蔵し、書評と共に推薦図書として展示する。
10	情報発信機能強化		メキシコ事務所	06.11.01～ 07.03.31	http://www.fjmex.org/arte.japon/、日本の芸術に関する最新状況を紹介することで、日本の芸術に対する関心を高めるとともに、それぞれの分野の専門家が日本の芸術紹介事業を企画したいと考えた場合に役立つ情報を提供するため、スペイン語による日本の文化芸術関係情報の発信のためのホームページを開設。
	【本部事業受入】				
11	新藤兼人映画祭	国立シネマテーク（シネテカ・ナショナル）	国立シネマテーク	06.07.18～ 06.07.26	「原爆の子」「裸の鳥」「鬼婆」「竹山ひとり旅」「落葉樹」「三文役者」「ふくろう」と、シネマテーク所有の「藪の中の黒猫」の計8本を上映した「新藤兼人監督特集」のオープニングレセプションを国立シネマテークと共催。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
12	ショートショートフィルムフェスティバル2006	ショートショートフィルムフェスティバル・メキシコ	06.09.01～ 06.09.07	1999年から日本で開催されている米国アカデミー賞公認の短編映画祭であるショートショートフィルムフェスティバルを、中南米で初めてメキシコシティにおいて開催する。メキシコシティ内の映画館7館で、日本やアジア、ヨーロッパの作品を上映する他、スペイン語圏から作品を募集しコンペを実施する。基金は日本側フェスティバルディレクターの東野正剛氏招へいのための航空賃を助成。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
13	在墨日本文化専門家 (茶の湯/キューバ) 派遣助成	裏千家メキシコ	06.09.25～ 06.10.01	キューバのハバナ市(キューバ忍術協会会館、キューバ国立高等芸術学院、アジアの家)及びマタンサス市(パラシオ・デル・フンコ博物館)の計4会場にて実施される茶道デモンストレーションに、在メキシコの茶の湯専門家(日暮豊弘(茶道裏千家メキシコ駐在講師))を派遣する。基金は専門家の航空賃及び滞在費を助成。
14	第2回メキシコ中部 地方日本語弁論大会	グアナフアト大学語 学学校	06.10.07～ 06.10.07	メキシコ中部地方の4つの日本語教育機関の日本語学習者による日本語弁論大会をグアナフアト大学にて開催。
15	日本研究セミナー開 催(コリマ大学)	コリマ大学環太平洋 研究センター	06.10.25～ 06.10.27	日本とメキシコの関係に関するセミナーをコリマ大学にて開催。経済、政治、文化等の様々な分野の専門家がそれぞれの観点から講演を行った。
16	第4回ベラクルス州 日本語弁論大会	ベラクルス日本語教 師会	06.10.28～ 06.10.28	ベラクルス州の日本語教育機関5校が参加して、日本語学習者による日本語弁論大会をオリサバ市にて開催。
17	在墨日本文化専門家 (生花/ホンジュラ ス)派遣助成	生け花インターナ ショナル・メキシコ	06.11.12～ 06.11.17	在ホンジュラス日本大使館の要請に基づき、同館が実施する生け花のデモンストレーションの講師として、メキシコ在住の生け花専門家2名を派遣。デモンストレーションはホンジュラスの首都テグシガルパで2回、サン・ペドロスーラで1回の計3回行った。
18	砂の女	Fundacion Seki Sano	06.11.15～ 06.12.10	安部公房原作の「砂の女」の上演。日本とメキシコで活躍した演出家、劇作家である佐野碩を記念する財団が制作し、佐野碩にゆかりのあるメキシコシティのコヨアカン劇場においてメキシコ人俳優によりスペイン語で上演した。
19	建築会議	アナワック北大学、 アルキネ社(出版社)	07.03.12～ 07.03.14	世界各国から著名な建築家を集めて国立芸術院において3日間の建築会議を開催。日本から建築家の妹島和世氏を招聘するための航空賃を助成した。
【文化備品・視聴覚資料貸出】				
20	日本玩具セット	アニメーション・イ・ ディフシオン・クル トゥラル ソシエダ・シビル・ エン・マルチャ テウアカン市役所 メキシコ国立自治大 学アラゴン校	06.04.01～ 07.03.31	ソシエダ・シビル・エン・マルチャ(サン・ミゲル・デアジェンデ市)、メキシコ国立自治大学アラゴン校(ネツァウアルコヨトル市)、アニメーション・イ・ディフシオン・クルトゥラル(パチューカ市)、テウアカン市役所で開催された日本文化週間等のイベントに日本玩具セットを貸し出した。
21	茶道セット	アニメーション・イ・ ディフシオン・クル トゥラル コレヒオ・ナシオナ ル・シルハノス・デ ンティスタス ソシエダ・シビル・ エン・マルチャ テウアカン市役所	06.04.01～ 07.03.31	ソシエダ・シビル・エン・マルチャ(サン・ミゲル・デアジェンデ市)、コレヒオ・ナシオナル・シルハノス・デンティスタ(メキシコ市)、アニメーション・イ・ディフシオン・クルトゥラル(パチューカ市)、テウアカン市役所で開催された日本文化週間等のイベントに茶道セットを貸し出した。

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
22	日本の世界遺産	クエルナバカ市役所 ソシエダ・シビル・ エン・マルチャ テウアカン市役所 国立シネマテーク (シネテカ・ナシオ ナル)	06.04.01～ 07.03.31	
23	ふろしき	ソシエダ・シビル・ エン・マルチャ テウアカン市役所	06.04.01～ 07.03.31	ソシエダ・シビル・エン・マルチャ (サン・ミゲル・デ・ アジェンデ市)、テウアカン市役所で開催された日本文 化週間等のイベントにふろしきを貸し出した。
24	原田泰治画伯絵画	アニメーション・イ・ ディフシオン・クル トゥラル コリマ大学	06.04.01～ 07.03.31	コリマ大学 (コリマ市)、アニメーション・イ・ディフシオ ン・クルトゥラル (パチューカ市) で開催された日本文 化週間等のイベントに原田泰治画伯絵画を貸し出した。
25	京都写真	アニメーション・イ・ ディフシオン・クル トゥラル コリマ大学	06.04.01～ 07.03.31	コリマ大学 (コリマ市)、アニメーション・イ・ディフシオ ン・クルトゥラル (パチューカ市) で開催された日本文 化週間等のイベントに京都写真を貸し出した。

ロンドン事務所

合計額 107,806,984円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	事務所備付展示 セット運営	日本大使館、J N T O	在英大使館	06.04.01～ 07.03.31	海外事務所課から配布のあった「日本の世界遺産」写真パネルのお披露目展覧会を大使館内ギャラリーにて開催。オープニングはJ N T Oの協力により世界遺産にちなんだ観光地に関する情報提供、文化交流使・勝美巴湖氏による日本舞踊レクデモが行われ、盛大なイベントとなった。
	【講演・シンポジウム】				
2	日本研究フェ ローシップ リ ユニオン会議		カンバーラン ド・ロッジ	06.05.02～ 06.05.03	2005年に実施した英国内の基金フェローの追跡調査の結果、現状が把握できた約40名を招待して、フェロー同士の交流を図るとともに、基金との連帯感を強めることを目的に会議を実施。また野上駐英大使及び作家の池澤夏樹氏をゲストに向かえて意見交換を行った。
3	池澤夏樹講演会	ジャパン・ソサ エティ、ロンド ン大学 S O A S	ロンドン事務所	06.05.03～ 06.05.03	池澤 夏樹（作家）による講演会を実施。現代日本と国際社会におけるその役割について、自身の経験や考えを述べ、会場との質疑応答を行った。司会はAlan Cummings（ロンドン大学SOAS講師）。
4	日本研究・知的 交流関連講演 会：Rebecca Salter Book Launch	A&C Black Publishers Ltd	ロンドン事務所	06.09.20～ 06.09.20	日本の木版画に関する「Japanese Popular Prints」（18年度出版・翻訳協力プログラム対象事業）の出版を記念し、著者Rebecca Salter氏の講演会を出版社と共催で実施。
5	文化講座シリー ズ：日本の現代 美術は世界を席 捲するか		ロンドン事務所	06.10.10～ 06.10.10	小山 登美夫（小山登美夫ギャラリー代表）、さわ ひらき（美術作家）、鈴木 昌明（美術作家）、David Risley（ギャラリスト）を迎え、日本の若手作家の育成と国内での現代美術の市場形成に取り組んできた小山ギャラリーのマーケット戦略を紹介するとともに、日本の現代美術の将来について美術市場の観点から話し合うセミナーを開催。司会はGeorgina Adam（The Art Newspaper紙）。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
6	文化講座シリーズ：日本のアニメーションと山村浩二の世界	Norwich International Animation Festival	ロンドン事務所	06.10.16～ 06.10.16	日本を代表するクリエイターの山村 浩二の作品を紹介するとともに、山村氏本人をゲストとして迎え、日本のアニメ界の動向ならびにその中における山村氏の位置付けを検証。司会は Jayne Pilling (British Animation Award代表)。また、英国の日本アニメ研究の第一人者、Helen McCarthyが日本のアニメーションの歴史ならびに現況を紹介するプレゼンテーションを行った。
7	文化講座シリーズ：和紙人形の世界	在英日本国大使館	ロンドン事務所	06.11.08～ 06.11.08	岩手県を中心に活躍する和紙人形師丹野 恵美子による、和紙人形ワークショップ。実際の人形製作のほかに、和紙の歴史や和紙人形づくりの実態なども紹介された。在英日本国大使館で実施された丹野氏のグループの和紙人形展の関連事業。
8	文化講座シリーズ：Re-interpreting The Past for The Future		ロンドン事務所	06.11.22～ 06.11.22	教育と収蔵品解釈方法の観点から、英国の博物館・美術館による日本文化紹介への新しいアプローチの可能性について日英の専門家が討論。司会は、デビッド・アンダーソン(ビクトリア・アルバート博物館 教育部長)。三木 美裕(九州国立博物館学芸部企画課長)が九州国立博物館の事例、ティモシー・クラーク(大英博物館 日本部長)が新しく生まれ変わった大英博物館の日本ギャラリーの事例を紹介した。
9	横浜トリエンナーレ2008キュレーター会議		ロンドン事務所	07.02.18～ 07.02.18	出席者：Hans Ulrich Obrist (ロンドン、サーペンタインギャラリー国際プロジェクト担当ディレクター)、Daniel Birnbaum (フランクフルト市立美術大学学長)、Beatrix Ruf (クンストハーレ チューリッヒ ディレクター)、Hu Fang (インディペンデント・キュレーター)、Akiko Miyahke (CCA北九州プログラム・ディレクター)、伊東 正伸(国際交流基金芸術交流部トリエンナーレ準備室長)。
	【映画】				
10	主催映画祭	Watershed Media Centreを含む5機関	Edinburgh Filmhouse, Queens Film Theatre, Riverside Studios, Showroom, Watershed Media Centre	07.02.04～ 07.03.29	家族の模様が描かれた日本の現代映画6作品の巡回上映を、英国5都市5会場にて実施した。上映作品は、「カナリア」「笑う蛙」「空中庭園」など。(海外日本映画祭(主催)プログラム)。
11	主催映画祭			07.02.04～ 07.03.29	日本映画上映特集「Move Over, Ozu」に使用した映画フィルムにかかった通関料。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【日本語教育】				
12	日本語教育研修会・出張指導		ロンドン事務所	06.04.01～ 07.03.31	ノンネイティブの日本語教師の日本語力ブラッシュアップのためにリフレッシュ・コースを2006年7月に、日本語を導入していない学校で模擬授業を行うボランティア育成のためStep Out Netを実施、TrainingDayも開催した。2月には、日本語教育をこれから始めようと考えている学校関係者を対象にHead Start Courseを開催。初めての試みとしては、12月と1月の二回に渡り、「Talking Contemporary Japan」と題した上級者向けの日本語講座を開催、好評を博した。
13	BATJ共催セミナー	英国日本語教育学会 (BATJ)	シェフィールド大学 ブリストル大学 ロンドン事務所 他	06.04.01～ 07.03.31	BATJとの共催で毎年数回セミナー・ワークショップを開催している。毎回、内外の講師による講演が行われ、教師の相互研鑽と教師間のネットワーク強化・情報交流の活性化に貢献している。
14	アイルランド日本語教師会共催セミナー	アイルランド日本語教師会	ダブリン・シティ大学	06.04.29～ 06.04.30	アイルランド日本語教師会の要請により、会員教師の相互研鑽と情報交流を促すため、日本語センターのアドバイザーが同地を訪問して講習会を開催。
15	日本語スピーチコンテスト	Japanese Language Committee、在英大使館、英国日本語教育学会 (BATJ)	ロンドン大学 SOAS 在英大使館	06.04.01～ 07.03.31	中等レベルの日本語スピーチコンテストをJLC (Japanese Language Committee)・日本大使館と、大学レベルの日本語スピーチコンテストをBATJ(英国日本語教育学会)と共催で実施。日系企業・英国助成団体等の協賛もあり。
16	日本語教育関連セミナー・会議参加		ウィーン大学 マンチェスター大学 ロンドン大学 SOAS ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校等	06.04.01～ 07.03.31	情報収集及び関係者とのネットワーク構築を目的とし、ALL Language World (4月)、SOAS日本語学国際学会(6月)、ヨーロッパ日本語教育シンポジウム (9月)、BATJ発表大会 (9月)、Primary Language Show(3月)、E-Learning Conference(3月)へ参加したのをはじめ、各地の学校で開催されたJapan Dayなども訪問した。
17	日本語教育情報(ニューズレター) 発信			06.04.01～ 07.03.31	日本語教育に関する情報と教材を掲載したニューズレター「まど」を2回発行した。紙媒体での情報発信はこれで打ち切りとし、2007年からはウェブサイトの充実とメールマガジンの発行に着手し、情報発信の頻度を高める。

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
18	日本語教育情報 (ウェブ関係) 発信			06.04.01～ 07.03.31	200名に及ぶ日本語教師が参加するメーリング リストを運営。教材・文法に関する質問や求人 など幅広いテーマで日本語教育に関するコミュ ニケーションの場として利用されている (JLE-UK)。ロンドン事務所のウェブサイトにも 日本語教育に関連する情報を掲載。中等教育 修了試験に対応した新しい教材「力」も掲載し た。 Http://www.jpfr.org.uk/language/index.php
19	海外日本語教育 機関調査			06.04.01～ 07.03.31	3年に一度実施される、海外日本語教育の機関 調査（データ等収集）。910機関を対象にアン ケートを実施。
20	日本語教育関係 展示イベント	国際観光振興機 構ロンドン事務 所		06.11.02～ 06.11.04	ロンドン・オリンピアで開催された外国語教育 に関する総合的な見本市であるLanguage Show 2006にJNTOと共同で3日間出展。
21	【図書館運営】			06.04.01～ 07.03.31	日本語教育に関連する資料(教科書・教材・参考 図書)を中心とする専門図書館を運営。図書館 の日本語教育リソースセンター化を目指して環 境を整えつつある。
22	【出版・広報】 文化情報発信			06.04.01～ 07.03.31	事務所ウェブサイトの内容更新及びメンテナ ンス及びニュースレター『Perspectives』の発 行。
23	Verdigo Magazine Launch	Vertigo Magazine		07.02.20～ 07.02.20	英国アーツカウンシルから助成金を受けて発行 される映画専門誌「Vertigo」が、に2007年1月 号に日本特集を組んだことに関連し、その出版 披露会を実施した。会では同誌の紹介の他、国 際映画祭のアジアプログラマーとして活躍する Tony Raynsをゲストに迎え、日本映画の秘話 などを聞く機会を設けた。
24	【その他】 英国日本研究機 関調査			06.04.01～ 07.03.31	英国内の高等教育機関を対象に、日本研究の実 施状況を調査。2001年に実施した調査 「Japanese Degree Courses 2001-2002」のフォ ローアップという位置づけ。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
25	文化事業協力助成： Okeanos Plus	Society for the Promotion of New Music	05.11.01～ 06.06.30	英国に在住する西洋音楽の訓練を受けた若手作曲家に、日本の伝統的楽器を取り入れた作品を創作する手法や機会を伝えるワークショップを開催すると同時に、作られた作品を国内巡回コンサートを通して紹介した。ワークショップモデレーターの謝金ならびに交通費の一部を助成。
26	文化事業協力助成： A Scottish Journey	Scottish Poetry Library	06.04.23～ 06.04.27	吉増剛造氏の詩とパフォーマンスのリサイタル。プロジェクト参加者は、吉増氏の他、Marilya Corbot (歌) Jean-Francois Pauvros (ギター)。
27	日本研究・知的交流 研究事業協力助成： Oxford Brooks University	オックスフォード・ ブルックス大学	06.05.05～ 06.05.06	「Fieldwork: Examining its practice among biological anthropologists and primatologists」と題するフィールドワークに関する会議を開催。霊長類学、自然人類学、社会人類学という異なる分野から専門家が参加。霊長類に関する研究が進んでいる日本からも2名が出席、発表を行った。
28	文化事業協力助成： Listening to this space	Slade Research Centre	06.05.12～ 06.05.12	日英のサウンドアーティスト交流事業に、日本より Tatusya Umeda氏、Takahiro Kawaguchi氏を招聘し、1週間のレジデンス期間中にサイトスペシフィックな作品を制作、最終日に展覧会を実施した。
29	日本研究・知的交流 研究事業協力助成： Tsumiki Workshop	Yamanashi-UK Exchange Promotion Group	06.05.15～ 06.05.19	山梨県在住の家具職人で積み木を使ったユニークなワークショップを行うことで有名な荻野雅行氏を英国に招待し、ロンドン、ケント州、バークシャー州において、5つの小学校でワークショップを実施。
30	文化事業協力助成： Dance City, National Dance Agency	Dance City	06.05.19～ 06.05.20	勅使河原三郎氏が主宰するダンスカンパニーKARASと欧州ダンサーとのコラボレーション公演。
31	日本研究・知的交流 研究事業協力助成： SOAS, Rethinking Embodiment	ロンドン大学SOAS	06.06.05～ 06.06.06	2005年11月に逝去した心理学者・哲学者で、大阪大、筑波大、桜美林大名誉教授の故・湯浅泰雄氏を追悼するワークショップ「Rethinking Embodiment: A Japanese Contemporary Perspective」を開催。湯浅教授の功績を振り返るとともに、現代日本における身体性や仏教と神経科学とのつながりなどについての発表と討論が行われた。
32	文化事業協力助成： Passport to Japan Exhibition	McLean Museum & Art Gallery	06.06.23～ 06.08.31	美術や工芸、映画、音楽などを通して、日本の文化を幅広く紹介しようとする事業。McLean museum & art galleryの収蔵品を使っの、大規模展覧会も同時に開催された。広告の一部に助成。

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
33	文化事業協力助成： City of London Festival 2006	City Arts Trust Ltd	06.06.26～ 06.07.13	毎年ロンドンの金融街区を拠点として開催される芸術フェスティバル。今年は日本特集年として、クラシックから伝統音楽、ジャズなどの音楽公演、またワークショップや、ミニ展覧会などが行われた。フェスティバルカタログ作成費の一部を助成。
34	日本研究・知的交流 研究事業協力助成： GDPism and Risk, Bristol Univ.	ブリストル大学東ア ジア研究センター	06.07.12～ 06.07.13	グローバル化社会がもたらす急速な経済成長と持続可能な社会開発について、東アジア諸国の状況を話し合う会議「GDPism and Risk: Challenges for Social Development and Governance in East Asia」を2日間にわたって開催。
35	文化事業協力助成： iconoclasm.jp	ICONOCLASM	06.09.15～ 06.09.24	当地で活動する若手デザイナーのグループ展。ロンドンの大型デザインショー「100%Design」の時期に合わせて開催された。
36	日本研究・知的交流 研究事業協力助成： 5th Anglo-Japanese Conference	ロンドン大学歴史研 究所	06.09.27～ 06.09.29	日英の歴史研究者による会議の第5回目、テーマは「Migration and Identity in British History」。日本人の英国史研究者が発表を行い、英国人研究者とともに議論を深めるという形式ですすめられた。
37	日本研究者旅行支援 プログラム：Jessica Bush		06.10.02～ 06.10.12	調査・研究のため短期間の訪日を希望している研究者に対し、航空賃を助成する、ロンドン事務所独自のプログラム。対象者（所属機関）：Jessica Bush（Buckinghamshire Chilterns University College博士課程）、研究テーマ：Art in Retail: An Examination of the presence of Art in high-end Fashion Retail
38	日本研究・知的交流 研究事業協力助成： Northumbria University	ノーザンプリア大学 日英防災研究セン ター	06.10.12～ 06.10.15	世界自然災害の日になみ、日本の災害支援NGOの代表者（海外災害援助市民センター事務局長の村井雅清氏及びレスキューストックヤード代表理事の栗田暢之氏）を招いて講演会を実施し、大学関係者、消防関係者、NGO団体等との交流を図った。
39	文化事業協力助成： Instal 06	The Arches Theatre	06.10.13～ 06.10.15	実験音楽ならびにアンダーグラウンド音楽の紹介を目的とする年次音楽フェスティバル。今回は、日本人ミュージシャンを中心としたフェスティバルを開催、Sachiko、灰野啓二など多数が参加した。参加日本人ミュージシャンの謝金の一部を助成。
40	文化事業協力助成： Norwich International Animation Festival	Norwich International Animation Festival Ltd	06.10.18～ 06.10.21	日本を代表するアニメーション作家、山村浩二氏の特集を組むと同時に、氏を本年度の映画祭の審査員に招いた。山村氏の渡航費の一部を助成。

	事業名	対象機関	期間	事業内容
41	文化事業協力助成： The Compass of Horror	Compass: Film Int. Ltd	06.11.04～ 06.11.05	世界各国のホラー映画の視点を比較検証することを目的とした映画祭。日本、カナダ、イギリス、ナイジェリアの4カ国からホラー作品を1本ずつ選んで上映するとともに、監督や映画批評家、プログラマーを招いてシンポジウムを行った。日本からは「鏡地獄」「芋虫」など4話オムニバスからなる「乱歩地獄」が上映作品として選ばれ、「芋虫」を手がけた佐藤久保監督が招聘されて討議に参加した。上映作品の上映権料の一部を助成。
42	日本研究者旅行支援 プログラム： Graham Cooper		06.11.13～ 06.11.21	調査・研究のため短期間の訪日を希望している研究者に対し、航空賃を助成する、ロンドン事務所独自のプログラム。対象者（所属機関）：Graham Cooper（Art and Architecture代表）、研究テーマ：Project Japan - Art Media in Context
43	日本研究・知的交流 研究事業協力助成： Leicester Japan Day	レスター・ジャパ ン・ソサエティ	06.11.16～ 06.11.19	英国中部にある地方都市レスターにおいて、日本の芸術、文化、科学などを総合的に紹介するジャパン・デーの主要行事として、宇宙航空研究開発機構的の川泰宣教授を招き、講演会を実施。
44	文化事業協力助成： London Musicians Collective	London Musician's Collective Ltd	06.12.15～ 06.12.17	London Musicians Collectiveの活動30年を記念し、大友良英など日本を代表する音楽家を招聘して、特別フェスティバルを開催した。日本人音楽家の謝金の一部を助成。
45	日本研究者旅行支援 プログラム：Yew Meng Lai		07.01.25～ 07.03.25	調査・研究のため短期間の訪日を希望している研究者に対し、航空賃を助成する、ロンドン事務所独自のプログラム。対象者（所属機関）：Yew Meng Lai（ウォリック大学博士課程）、研究テーマ：The Politics of Pride?:Rising Nationalism in Contemporary Japan-China Relations
46	文化事業協力助成： A Season of Contemporary Japanese Films	University of Glasgow	07.02.16～ 07.03.09	毎年グラスゴー大学の映画施設を利用して行われている映画上映会。今年は日本の高校生をテーマに、欧州フィルムライブラリーの現代作品4本を無料上映した。
47	文化事業協力助成： Alvar Aalto展	Barbican Centre	07.02.22～ 07.05.27	フィンランドの歴史的建築家Alvar Aalto展に日本の建築家坂茂氏がキュレーターとして参加し、坂氏の目を通してAaltoを検証した。展覧会には、Aaltoに啓発された坂氏の作品（模型や作品写真）なども同時に展示された。坂氏に対する謝金の一部を助成。
48	文化事業協力助成： Momentary Momentum: Animated Drawings	Parasol unit foundation for contemporary arts	07.03.03～ 07.04.15	世界各国より短編アニメーションを20本ほど集めてギャラリーにて紹介、辻直之、東芋などの作品が展示された。辻氏の航空運賃の一部を助成。

海外事務所

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【会場提供】			
49	SOAS会議： Revisiting Japanese Modality	ロンドン大学SOAS	06.06.24～ 06.06.24	2006年6月24日～25日に開催された、言語学に関する国際会議「Revisiting Japanese Modality」の歓迎レセプション会場として、ロンドン事務所ホール及びスタッフのサポートを提供。
50	英国JETプログラム 20周年記念イベント	国際観光振興機構ロ ンドン事務所	07.03.22～ 07.03.22	JETプログラムの実施が20周年を向かえたことを記念して、JETAA（同窓会）のメンバーを招待してセミナー及び懇談会を実施。当事務所ホール及びスタッフのサポートを提供した。
51	大英博物館ワーク ショップ	大英博物館等4機関	07.03.22～ 07.03.23	大英博物館、ロンドン大学SOAS、セインズベリー日本芸術研究所、National Institute for the Humanitiesが共催する2日間の専門家ワークショップ「The Representation of Japan in the New Japanese Galleries at the British Museum」の会場として、ロンドン事務所ホールを提供した。

ブダペスト事務所

合計額 23,931,794円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	事務所所蔵展示 セット巡回展		ブダペストアールムヴィラーグ 財団他、計8か所		事務所所蔵の巡回展セット「日本人の日常生活」、「風・独楽」、「日本の世界遺産」、などをハンガリー各地、ブルガリアなど8か所で展示した。
	【講演・シンポジウム】				
2	講演会シリーズ 「ハンガリーから見た日本」		国際交流基金ブダペスト事務所	06.04.01～ 06.10.31	ペトラニー・ジョルト（国立現代美術館長）、マレーク・ヴェロニカ（絵本作家）などハンガリー国内で著名な人物に、自分の日本との出会い、印象等を自由に語ってもらう講演会を実施した。
3	講演会シリーズ 「本が開く日本の扉」		国際交流基金ブダペスト事務所	07.01.28～ 07.03.02	国際交流基金が翻訳出版に協力した『菊と刀』、日本語翻訳に対し協力した『北は山、南は湖、西は道、東は川』の編集者、著者による講演会を実施した
	【映画】				
4	日本映画上映	ハンガリー国立フィルムアーカイブ	ハンガリー国立フィルムアーカイブ/ウルクモズゴー映画館	06.05.11～ 07.03.31	欧州フィルムライブラリー収蔵作品を用い、毎月第2、第4水曜日に日本映画を上映する。「ロボコン」「ごめん」など、12作品を上映した。
5	現地映画祭出品 (Film Heritage)	ハンガリー国立フィルムアーカイブ	ハンガリー国立フィルムアーカイブ/ウルクモズゴー映画館	06.09.19～ 06.09.25	国立フィルムアーカイブが実施するフィルムヘリテージ映画祭に、今村昌平監督の2作品『にっぽん昆虫記』『楢山節考』を出品、上映した。
6	アニフェスト	シンプラー・フィルム	ウラーニア映画館	06.11.30～ 06.12.03	アニメーション映画祭であるアニフェストをシンプラー・フィルム社と協力し、コンペ部門の審査員として株式会社マッドハウス取締役の丸山正雄氏を、プレミアム上映のゲストとして細田守監督を招聘し、細田監督による『時をかける少女』、丸山氏がプロデューサーとして関わった『パブリカ』を上映した。

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
7	【図書館運営】		ブダペスト事務所	06.04.01～ 07.03.31	開架式の図書館として、日本語書籍、ハンガリー語による日本関連書籍を中心に1万冊程度を所蔵し、年間約4,400人の利用者がある。日本人の利用者も多く、図書の閲覧ばかりでなく、ハンガリー人利用者と日本人利用者の交流の場ともなっている。また、図書館を会場として、講演会やレクチャー等も実施している。
8	【教室事業】 日本語講座		国際交流基金ブダペスト事務所	06.04.01～ 07.03.31	初級から中級程度までの学習者を対象に、6コース8クラスを設け日本語教育を行う。年間90分の授業を60コマ実施すると同時に、講師会での討議、フィードバックなどにより非常勤講師の教授技術の向上もはかり、事務所で所蔵する豊富な教材を活用して新たな授業展開にの可能性を見いだすための役割も果たしている。前期は約120人、後期は約90人が受講した。
9	【その他】 日本研究企画開発事業（出版協力）	エオトヴェシ・ロラード大学		07.01.01～ 07.03.31	エオトヴェシ・ロラード大学日本学科が中心に編纂される論文集「日本学の現在」の出版にかかる印刷、製本経費に協力した。
10	【本部事業受入】 第13回ブダペスト国際図書展参加	ハンガリー出版協会	ブダペスト・コンGRESSセンター	06.04.20～ 06.04.23	第13回ブダペスト国際図書展に出展し、日本図書の紹介、図書を通しての日本の紹介を実施した。
11	役者絵展覧会と座敷舞公演	ハンガリー国立工芸美術館	ハンガリー国立工芸美術館	06.09.12～ 06.11.12	役者絵の展覧会の実施と、同展覧会のオープニングに座敷舞の公演を行った。本部主催事業の事務所負担部分。
12	中東欧巡回映画祭	ハンガリー国立フィルムアーカイブ	ハンガリー国立フィルムアーカイブ/ウルクモズゴール映画館	06.09.28～ 06.10.04	小津安二郎『生まれては見たけれど』、溝口健二『近松物語』などの名匠による作品7本を上映した。
13	巡回展「日本の戦後写真」		ブダペスト事務所	07.03.08～ 07.04.19	巡回展セット「日本の戦後写真」を展示する。二度の展示替えを実施し、3部構成とした。会期中に、国立現代美術館館長のペトラニー・ジョルト氏による日本写真の講演会を実施した。

(2) 助成・協力事業

	事業名	対象機関	期間	事業内容
	【助成事業】			
14	事務所助成事業「国際シンポジウム論文集印刷」	エオトヴェシュ・ロラード大学人文学部日本学科	06.06.01～ 06.07.01	平成17年2005年9月にエオトヴェシ・ロラード大学(ELTE)にて、同大学日本学科と大阪外国語大学の共催で実施されたシンポジウム「日本の目で見えたハンガリー、ハンガリーの目で見えた日本」の論文集作成に助成した。
15	事務所助成事業「Manga and Subculture」	カートゥーン・ギャラリー	06.07.01～ 06.09.21	カートゥーン・ギャラリーが研究者であるジャクリヌ・ベルントを講師として実施する講演会「マンガとサブカルチャー、アニメーション」に対して助成した。
16	事務所助成事業 Refined Colours公演	ムーシアター	06.09.12～ 06.09.13	Monochrome circusによるコンテンポラリーダンス「Refined Colors」公演に対し、公演者滞在費の一部を助成した。
17	事務所助成事業 アニメーション上映会	オデオン劇場	06.11.25～ 06.11.26	日本のアニメーションである「攻殻機動隊」のプレミアム上映に先立ち、日本のアニメーションに関する研究者の講演の実施に対し助成した。
18	事務所助成事業 スプリングフェスティバル	シューディ・アンド・カンパニー	07.03.21～	ブダペスト・スプリングフェスティバルのプログラムとして実施される、日本人のリスト音楽院留学生、ハンガリー人学生によるコンサートに対し、広報費を助成した。
19	事務所助成事業 ポーランド日本語教師会勉強会	ポーランド日本語教師会	07.03.24～ 07.03.25	ポーランド日本語教師会の勉強会実施に際し、ポーランド国内から会場であるワルシャワに赴く参加者（日本語教師）の宿泊費を助成した。

カイロ事務所

合計額 28,347,066円

(1) 主催・共催事業

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【展示】				
1	日本文化紹介 「日本の世界遺産写真展」	アレキサンドリア図書館	アレキサンドリア図書館カンファレンスセンターホール	07.02.07～ 07.02.24	エジプト第二の都市であるアレキサンドリアでの事務所所有の写真展示セット「The world Heritage in Japan」の展覧会の実施。
	【公演】				
2	琴・バイオリン演奏会	エジプト文化省 国立文化センター	カイロ・オペラハウス小ホール	07.01.22～ 07.01.22	日本の伝統楽器による古典と現代音楽の両方を紹介するために、琴とバイオリンによる共演コンサート。琴奏者は日本人、バイオリン奏者はスペイン人で、両名ともにフランス在住で欧州において活躍するアーティスト。
3	日本・エジプト ジョイント室内 楽コンサート	エジプト文化省 国立文化センター	カイロ・オペラハウス小ホール	07.02.22～ 07.02.22	カイロにて新作の発表演奏を希望していた日本人フルート奏者、そして日本人ピアニスト、エジプト人のバイオリンとハーブ演奏家によるジョイントコンサート。
	【講演・シンポジウム】				
4	エジプト文化講演会	カイロ・エジプト学協会 日本エジプト学協会	カイロ事務所	06.04.17～ 07.03.29	カイロ・エジプト学協会による考古学を中心とした講演会を開催。毎回、エジプトで活動する世界各国の著名な考古学者を講師に招く。本年度は、5回実施。
5	文学サロン		カイロ事務所	06.06.28～ 06.06.28	樋渡優子（文藝春秋社編集者）による「日本・エジプト両国における文学を取り巻く環境について」をテーマとしたカイロ大学講師との対談形式の講演会。日本語専攻のカイロ大学、アインシャムス大学の学生対象（3年生以上）。
6	日本研究講演会		カイロ事務所	07.01.24～ 07.01.24	カイロ大学客員教授の山田進（聖心女子大学文学部教授）による講演会。「意味から引く辞書を考える」をテーマにカイロ大学、アインシャムス大学の学生、講師を対象。
7	在欧州日本文化 専門家派遣事業 「日本研究講義」	在トルコ大使館、在イスタンブール総領事館	アンカラ大学、ボアジチ大学他	07.02.28～ 07.03.08	欧州在住の日本人専門家を中東地域に派遣する新プログラムで、日本からの派遣と比べて機動的な事業実施が期待できる。本年度はオランダ在住の蓑原俊洋（神戸大学教授）をトルコに派遣し日本研究の講義を実施。

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
	【映画】				
8	ヨルダン日本映画祭	在ヨルダン日本大使館、ロイヤルフィルムコミッション	アンマン市立フセイン文化センター	07.03.04～ 07.03.07	アラビア語字幕の電子投影を行い、『Hana-bi』『たそがれ清兵衛』『ホテルハイビスカス』『スウィングガールズ』の4本を上映。初日に、日本人映画研究者による映画解説および聴衆との質疑応答を行った。
	【日本語教育】				
9	日本語講座「ことばと文化講座」		カイロ事務所	06.04.01～ 07.03.31	今年度は、一般講座中級（春学期16名、秋学期7名）、上級（春学期8名、秋学期18名）、社会科学系大学生・院生向け日本語講座、1級準備講座を実施。
10	日本語教育アドバイザー		カイロ事務所	06.04.01～ 07.03.31	エジプト国内、近隣諸国における日本語教育関係者のネットワーク形成促進とコンサルティングの実施。カイロ事務所における日本語講座の運営。
11	中東日本語セミナー		モーヴェンピックホテル	06.09.05～ 06.09.06	中東地域の日本語教育の振興、質の向上のため、中東域内の日本語教師を対象に、日本語教育に関する集中セミナー等を実施。本年度の講師は、吉田昌平（横浜国立大学教授）、小田切由香子（横浜国立大学非常勤講師）。10カ国62名の参加があった。
12	アレキサンドリア日本語講座		ヒルトンホテル会議室	07.02.18～ 07.03.31	エジプト第二の都市、アレキサンドリアにおいては、一般市民からの日本語学習に対する要望があるものの、これまでその受け皿がなかった。日本語講座開講には、教室スペースの借料経費が予算的に大きな問題であったが、今般、民間実業家（在アレキサンドリア日本名誉総領事でもある）から、自ら経営するホテル内の施設を教室として無償提供頂けることになり、日本語講座の開講が実現した。
	【図書館運営】				
13	図書室運営		カイロ事務所	06.04.01～ 07.03.31	所蔵冊数：日本語993冊、外国語1160冊、DVD 29点、ビデオ180点、その他285点、来館者数：年間2039人（各期内訳）第一四半期387、第二四半期634、第三四半期555、第四四半期463、CD・ビデオデッキ3台およびインターネット接続のコンピューター2台を設置し、視聴覚による日本文化紹介にも注力する。
	【出版・広報】				
14	広報強化		カイロ事務所	06.04.01～ 07.03.31	アラビア語による国際交流基金の紹介パンフレットの作成。魅力ある図書室作りの一環としてインターネット接続のコンピューターの配備。

海外事務所

	事業名	共催・協力機関	場所名	期間	事業内容
15	広報誌『アマワグ』(WAVES)		カイロ事務所	06.04.01～ 07.03.31	アラビア語と英語の併用(対訳形式)による、カイロ事務所の広報誌『アマワグ』(WAVES)の発行。各号3000部発行。本年度は、第4号(2006年4月)、第5号(2006年12月)、第6号(2007年3月)の3号を発行し、エジプト及び一部は他のアラブ諸国に配布した。
16	ウェブサイト運営		カイロ事務所	06.04.01～ 07.03.31	アラビア語、英語による国際交流基金カイロ事務所の事業情報等の提供。
	【教室事業】				
17	生け花コース		カイロ事務所	06.04.01～ 07.03.31	年間初級コース2回、中級コース2回の計4回実施。1コース5レッスン。会場の都合上、1コース約20名の受講生であるが、毎回多くの受講希望者がいる状態である。
	【その他】				
18	お茶会(茶道同好会)	在エジプト大使館、茶道同好会	在エジプト大使館	07.03.01～ 07.03.01	春のお茶会として、エジプト人を約100名招待し、茶道同好会のメンバーが実際に抹茶とお菓子提供し、一般のエジプト人が茶道に触れる機会とする。
19	日本語優秀者表彰	エジプト文化省 国立文化センター	カイロオペラハウス・オープンシアター	07.03.10～ 07.03.10	日本語能力試験の結果発表(結果通知を配布)と各級の優秀者に副賞を授与することで、日本語学習者支援と日本語学習に対するモチベーションアップを図る。